

男女間における暴力に関する調査

平成12年2月

(総理府)

内閣総理大臣官房男女共同参画室

目 次

第1章 調査実施の概要	1
第2章 調査結果の概要	
1 夫婦間での暴行等について	6
(1) 夫婦間暴力と認識される行為	6
(2) 公的機関等の関与の必要性についての意識	19
(3) 夫や妻から暴行等を受けた経験の有無	24
(4) 夫や妻から身体的な暴行を受けた時の気持ち	38
(5) 夫や妻がいる(又はいたことのある)人全体と、そのうち身体的な 暴行を受けた人との属性の比較	39
(6) 身体的な暴行被害の相談の有無	47
(7) 身体的な暴行被害の相談の結果	50
(8) 身体的な暴行被害を相談しなかった理由	51
2 つきまとい行為について	53
(1) 被害経験の有無	53
(2) 加害者との関係	55
3 痴漢について	56
4 性的行為の強要について	57
(1) 被害経験の有無	57
(2) 加害者との関係	58
(3) 相談の有無	59
(4) 相談の結果	60
(5) 相談しなかった理由	61
(6) 性的行為の強要の反復性	62
(7) 仮に被害を受けたとした場合の相談意思の有無	63
(8) 仮に被害を受けたとしても相談しないと思う理由	64
調査票	65
実数表	75

第1章 調査の概要

1 調査の目的

平成9年6月16日、内閣総理大臣から男女共同参画審議会に対し、女性に対する暴力に関する確に対応するための基本的方策について諮問がなされ、これに対し、その基礎的部分を中心とした答申「女性に対する暴力のない社会を目指して」が平成11年5月27日に出されている。同答申は、女性に対する暴力を、「重大な社会的・構造的な問題であり、男女共同参画社会の実現を阻害するものである」とし、当面取り組むべき課題の一つとして、女性に対する暴力の実態や、それに対する人々の意識を把握するための調査の実施を提言している。これを踏まえ、本調査では、女性に対する暴力に関する国民の意識、被害の経験の態様、程度及び被害の潜在化の程度、理由について把握し、被害者が必要としている援助の在り方を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 夫婦間での暴行等について
- (2) つきまとい行為について
- (3) 痴漢について
- (4) 性的行為の強要について

3 調査対象

- (1) 母集団 全国20歳以上の男女
- (2) 標本数 4,500人
- (3) 抽出法 層化二段無作為抽出法

4 調査時期

平成11年9月～10月

5 調査方法

郵送留置訪問回収法(回収は、対象者自身が回収用封筒に回答済みの調査票を密封したものを、調査員が回収した。また、対象者が希望した場合には郵送回収とした。)

6 調査実施委託機関

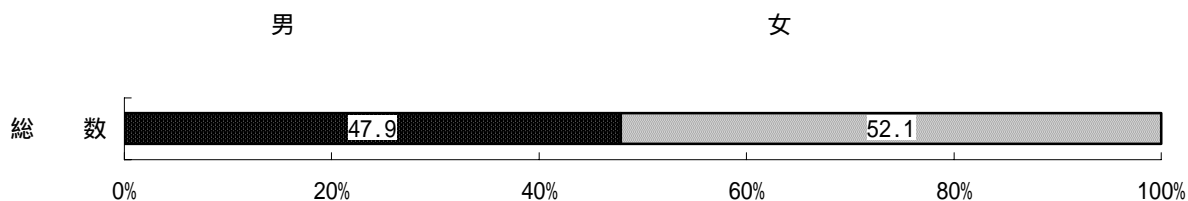
社団法人 新情報センター

7 回収結果

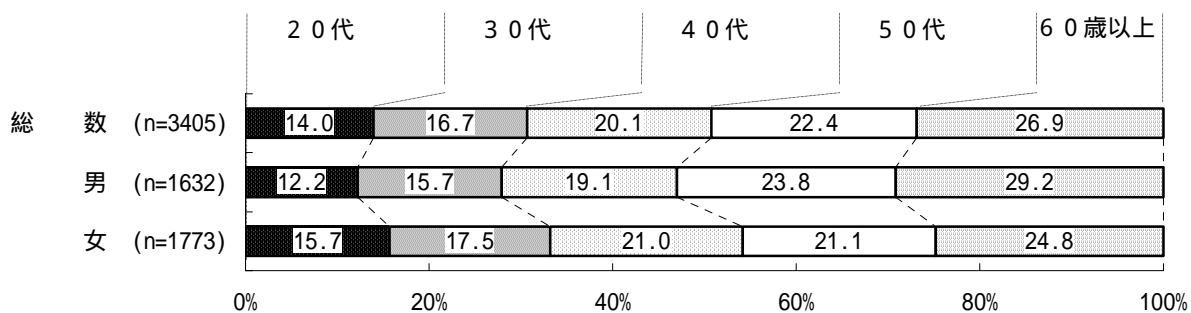
- (1) 有効回収数(率) 3,405人(75.7%)
(内訳) 女性1,773人、男性1,632人
- (2) 回収不能数(率) 1,095人(24.3%)
(回収不能理由内訳)
転居144人、長期不在60人、一時不在231人、住所不明22人、拒否410人、その他228人(死亡、白票回収、代理記入など)

8 回答者の属性

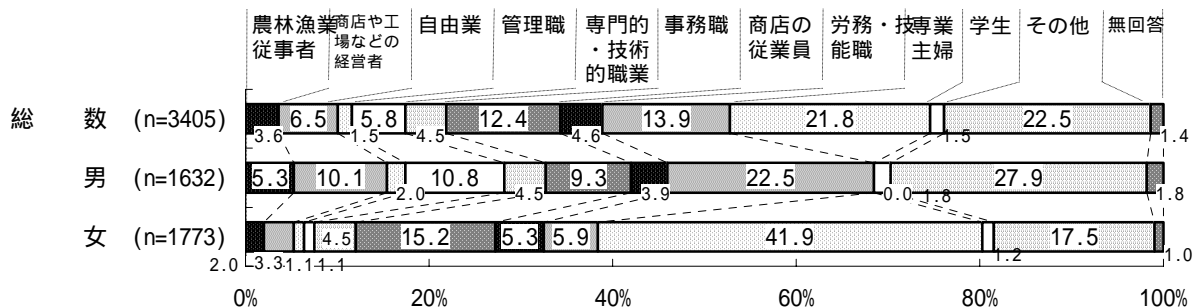
問1 あなたの性別はどちらですか。



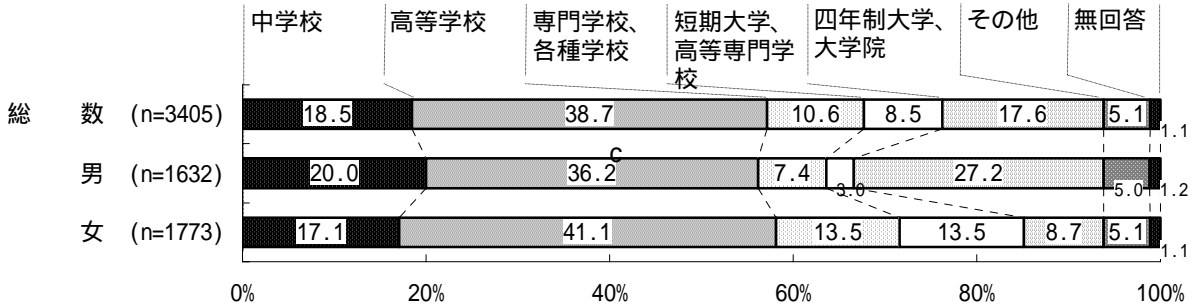
問2 あなたの年齢はおいくつですか。



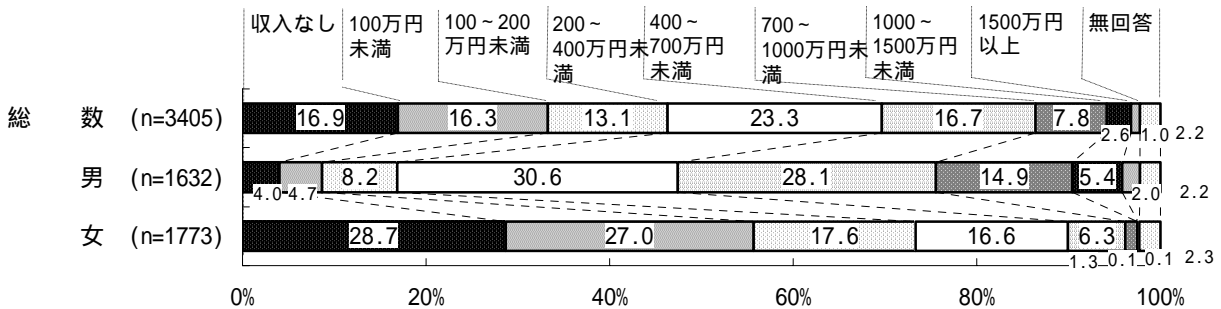
問3 あなたの職業は次のどれにあたりますか。



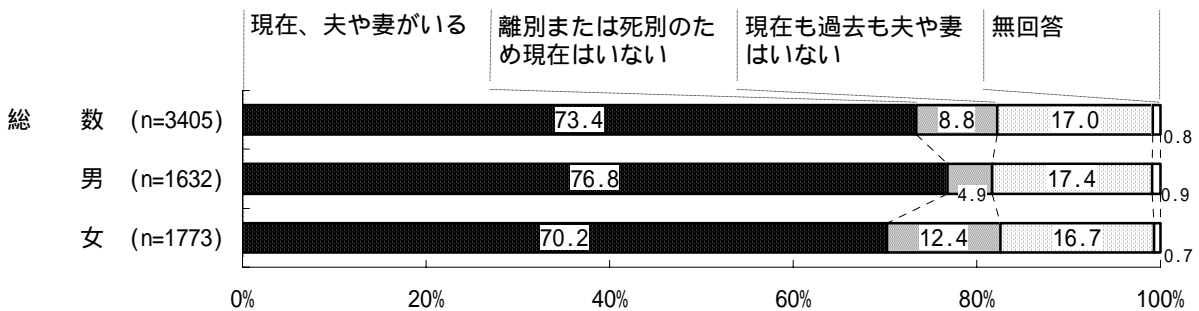
問4 あなたが最後に卒業した学校は次のどれですか。中退の場合は、最後に卒業した学校をお答えください。また、在学中の場合は、現在在学している学校をお答えください。



問5 あなたの平成10年中の年間収入(税込み)はいくらですか。年金や資産収入などすべての収入を含めてください。(あなたの配偶者については、問10でお答えください。)

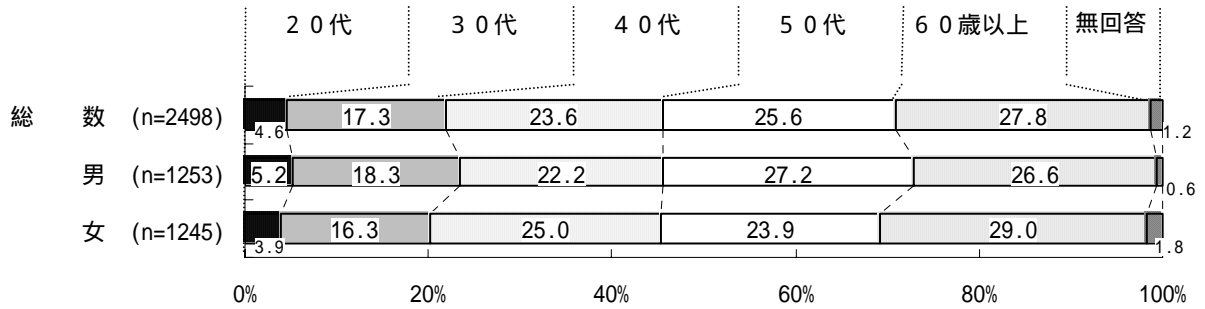


問6 あなたは、次のうちどれにあてはまりますか。



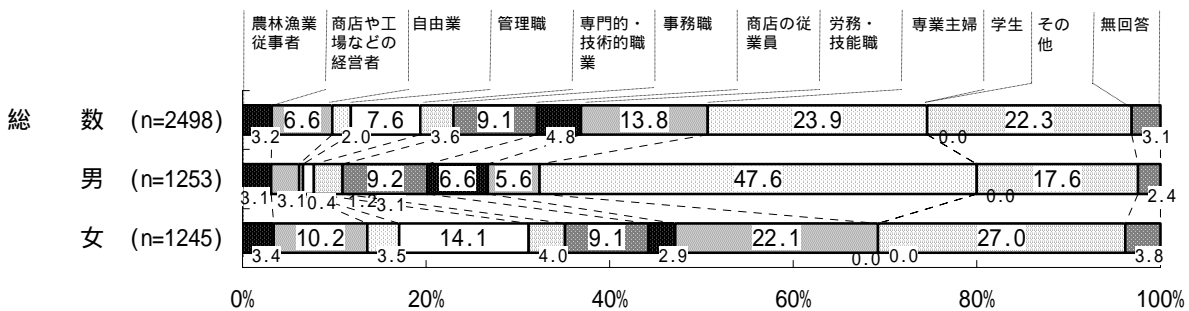
〔問6で1と答えた人（現在夫や妻のいる人）にお聞きします。〕

問7 あなたの現在の夫や妻（事実婚や別居中を含む）の年齢はおいくつですか。



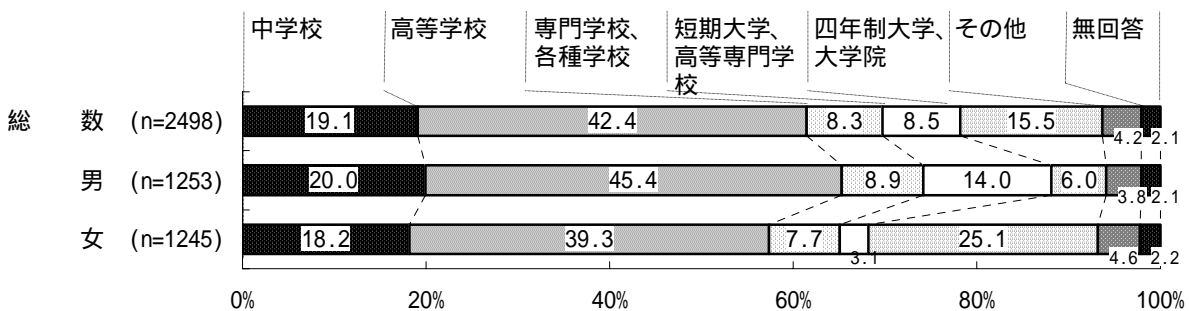
〔問6で1と答えた人（現在夫や妻のいる人）にお聞きします。〕

問8 あなたの現在の夫や妻（事実婚や別居中を含む）の職業は次のどれに当たりますか。



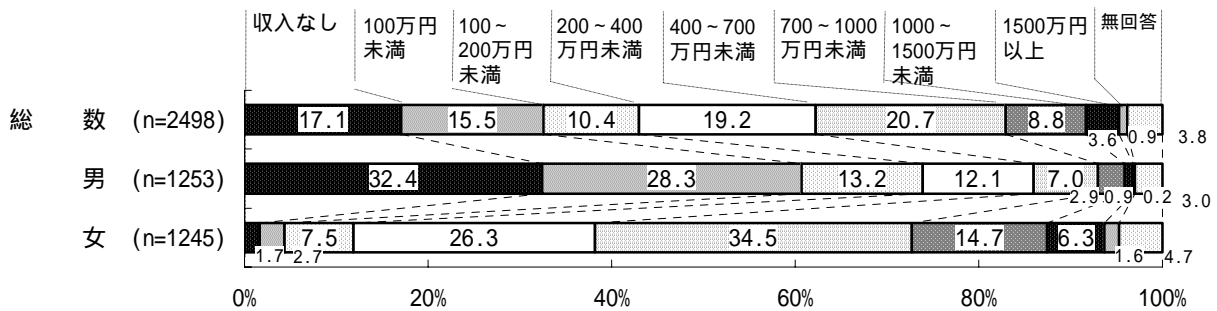
〔問6で1と答えた人（現在夫や妻のいる人）にお聞きします。〕

問9 あなたの現在の夫や妻（事実婚や別居中を含む）が最後に卒業した学校は次のどれですか。中退の場合は、最後に卒業した学校をお答えください。また、在学中の場合は、現在在学している学校をお答えください。



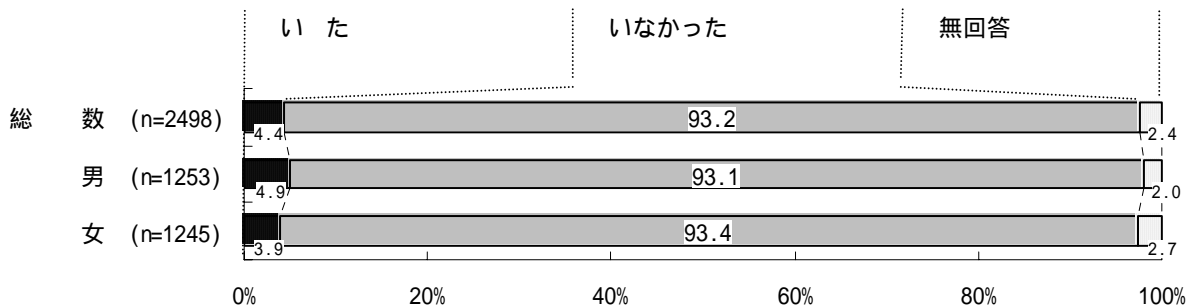
〔問6で1と答えた人（現在夫や妻のいる人）にお聞きします。〕

問10 あなたの現在の夫や妻（事実婚や別居中を含む）の平成10年中の年間収入（税込み）はいくらですか。年金や資産収入などすべての収入を含めてください。



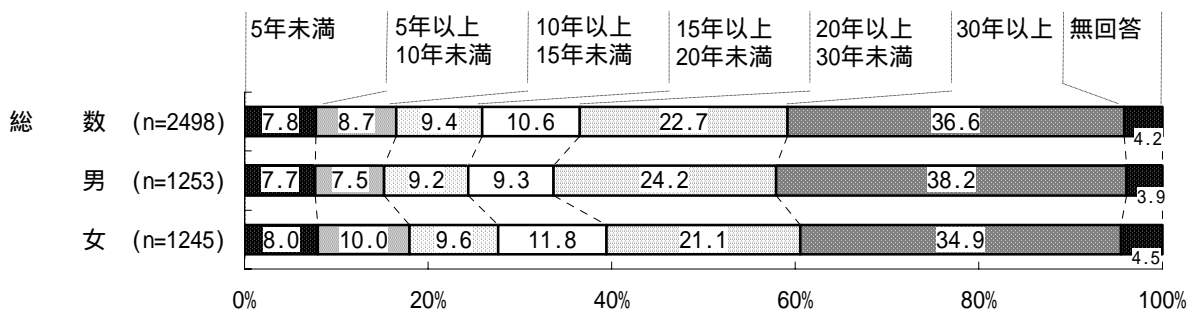
〔問6で1と答えた人（現在夫や妻のいる人）にお聞きします。〕

問11 過去、あなたには、現在と違う夫や妻（事実婚や別居中を含む）がいましたか。



〔問6で1と答えた人（現在夫や妻のいる人）にお聞きします。〕

問12 結婚して（事実婚や別居中を含む）何年ですか。



第2章 調査結果の概要

1 夫婦間での暴行等について

(1) 夫婦と認識される行為……問 13

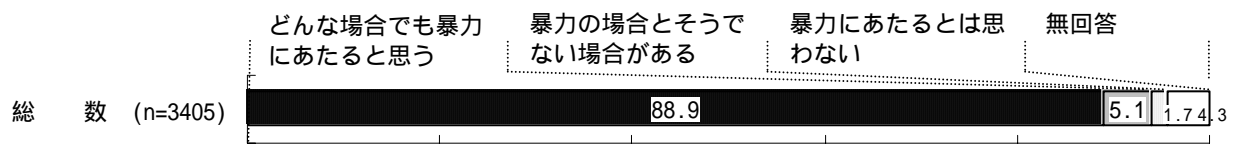
夫婦の間で行われたことが暴力にあたるかどうかを 11 項目について聞いた。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答が過半数を超えたのは、『身体を傷つける可能性のある物でなくる』(88.9%)、『刃物などを突きつけて、おどす』(86.8%)、『足で蹴る』(76.9%)、『相手がいやがっているのに性的な行為を強要する』(60.0%)、『平手で打つ』(55.8%)である。

これに対して、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という回答が最も少なかったのは、『大声でどなる』(29.5%)である。

問 13 あなたは、次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。A から K のそれぞれについて、1 から 3 のうちあなたの考えに近いもの一つだけ をつけてください。

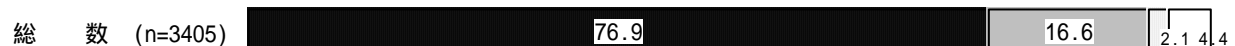
C 身体を傷つける可能性のある物でなくる



E 刃物などを突きつけて、おどす



B 足で蹴る



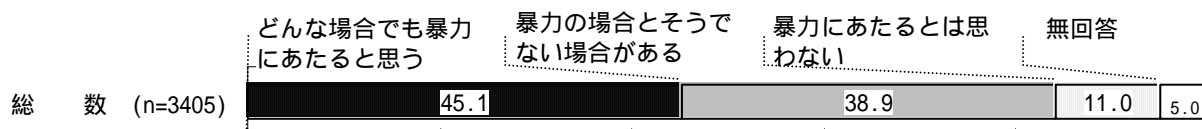
F 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する



A 平手で打つ



D なくるふりをして、おどす



G 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う



H 何を言っても長期間無視し続ける



I 交友関係や電話を細かく監視する



K 大声でどなる

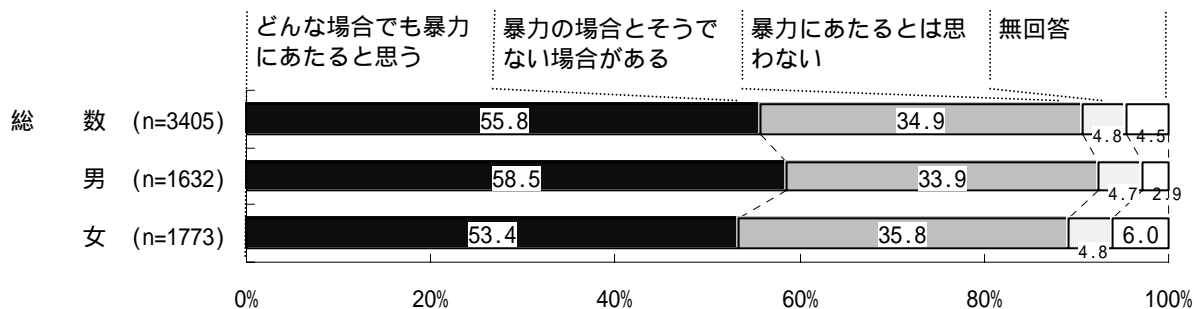


次に、各項目について性・年齢別にみてる。

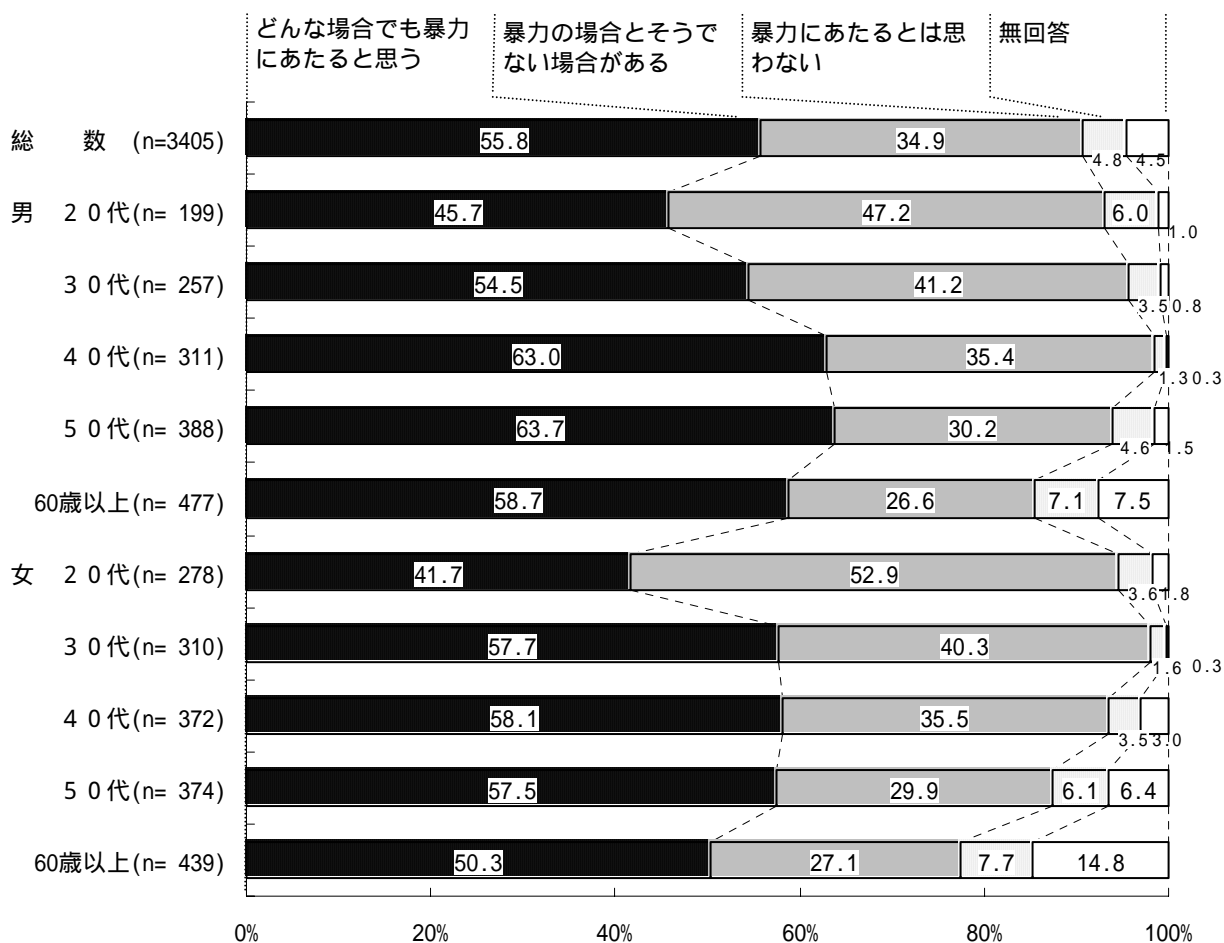
『平手で打つ』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で 58.5%、女性で 53.4%であり、男性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の 20 代、30 代、女性の 20 代、60 歳以上である。

A 平手で打つ（性別）



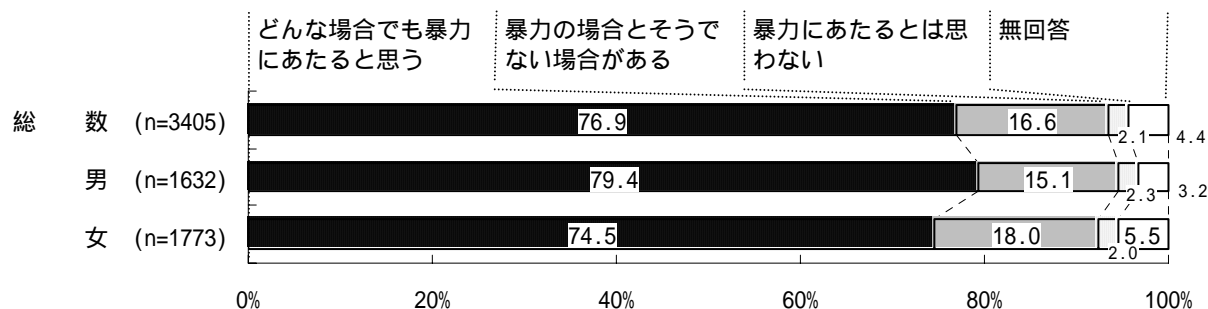
A 平手で打つ（性・年齢別）



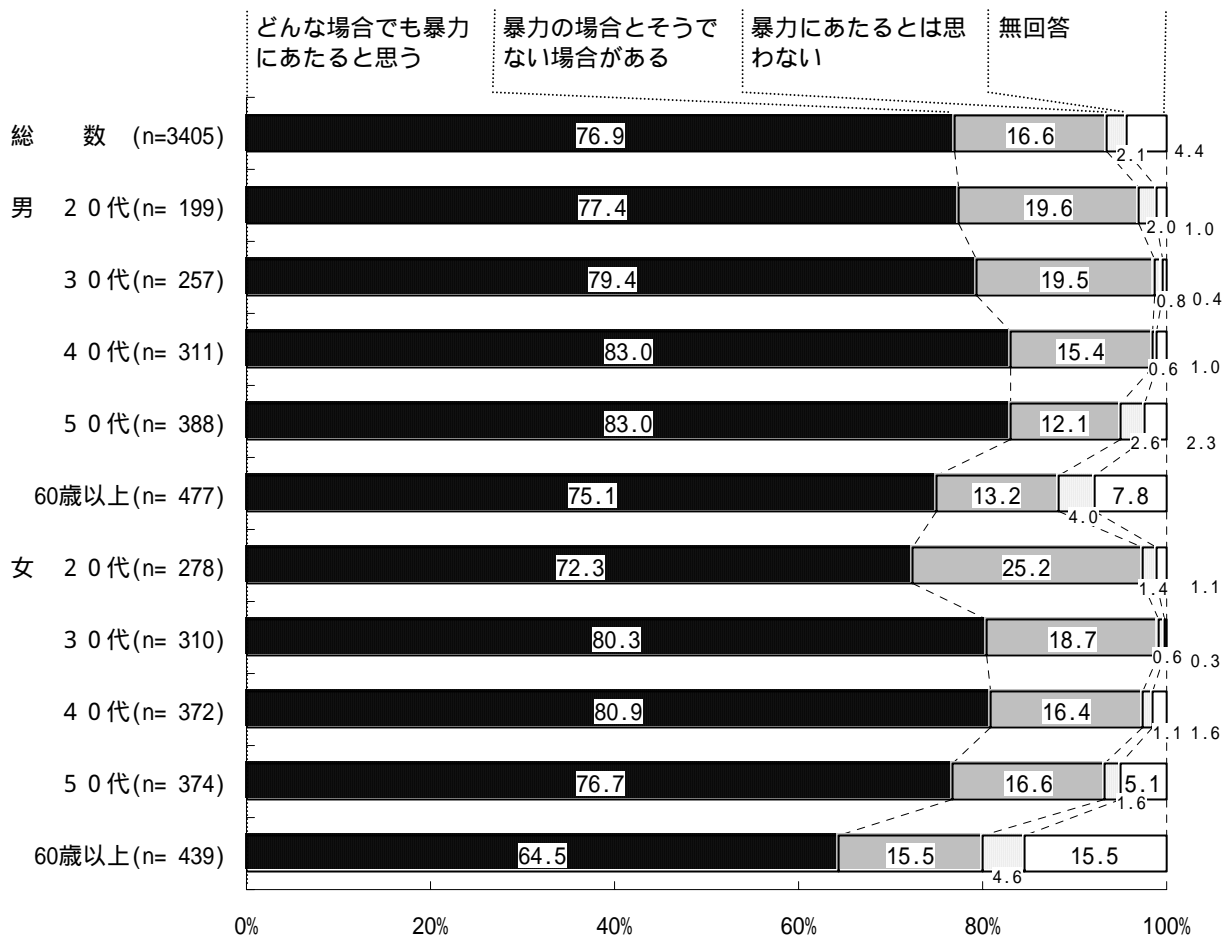
『足で蹴る』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で 79.4%、女性で 74.5%であり、男性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の 20 代、60 歳以上、女性の 20 代、60 歳以上である。

B 足で蹴る（性別）



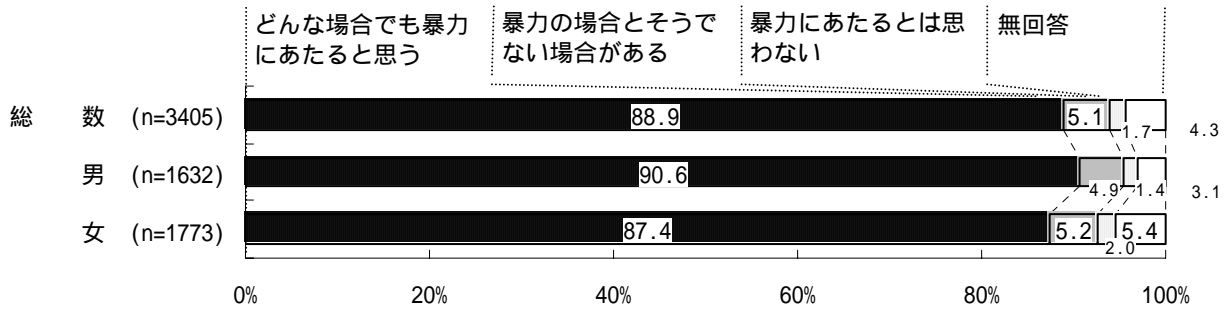
B 足で蹴る（性・年齢別）



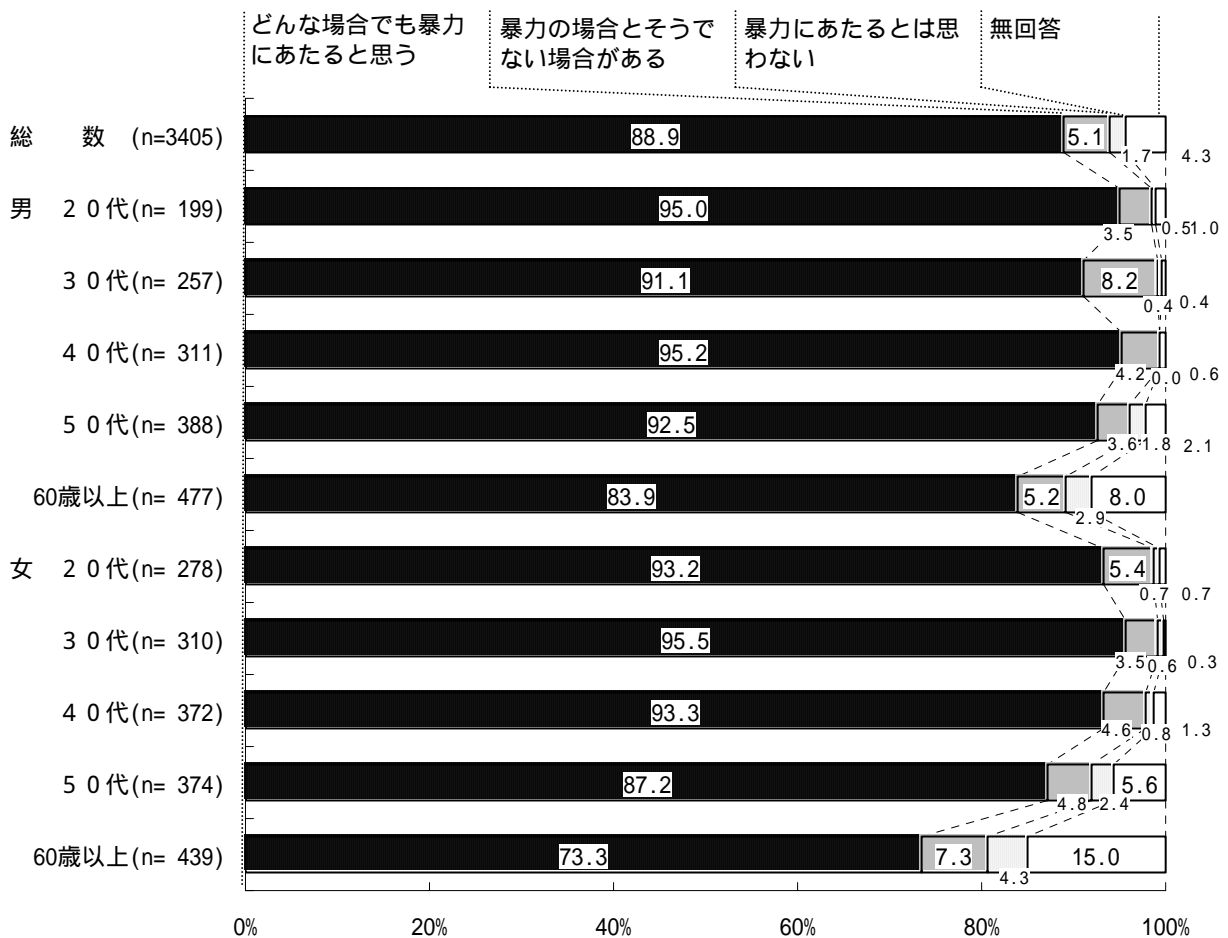
『身体を傷つける可能性のある物でなくる』は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で90.6%、女性で87.4%であり、男性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の60歳以上、女性の50代、60歳以上である。

C 身体を傷つける可能性のある物でなくる（性別）



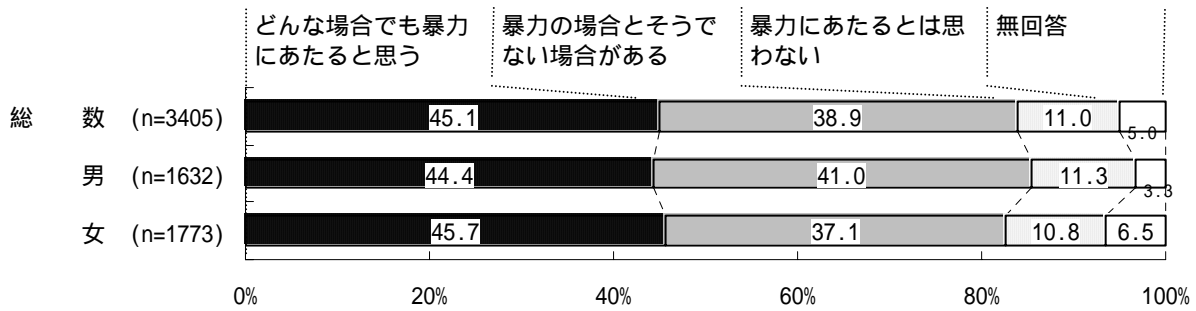
C 身体を傷つける可能性のある物でなくる（性・年齢別）



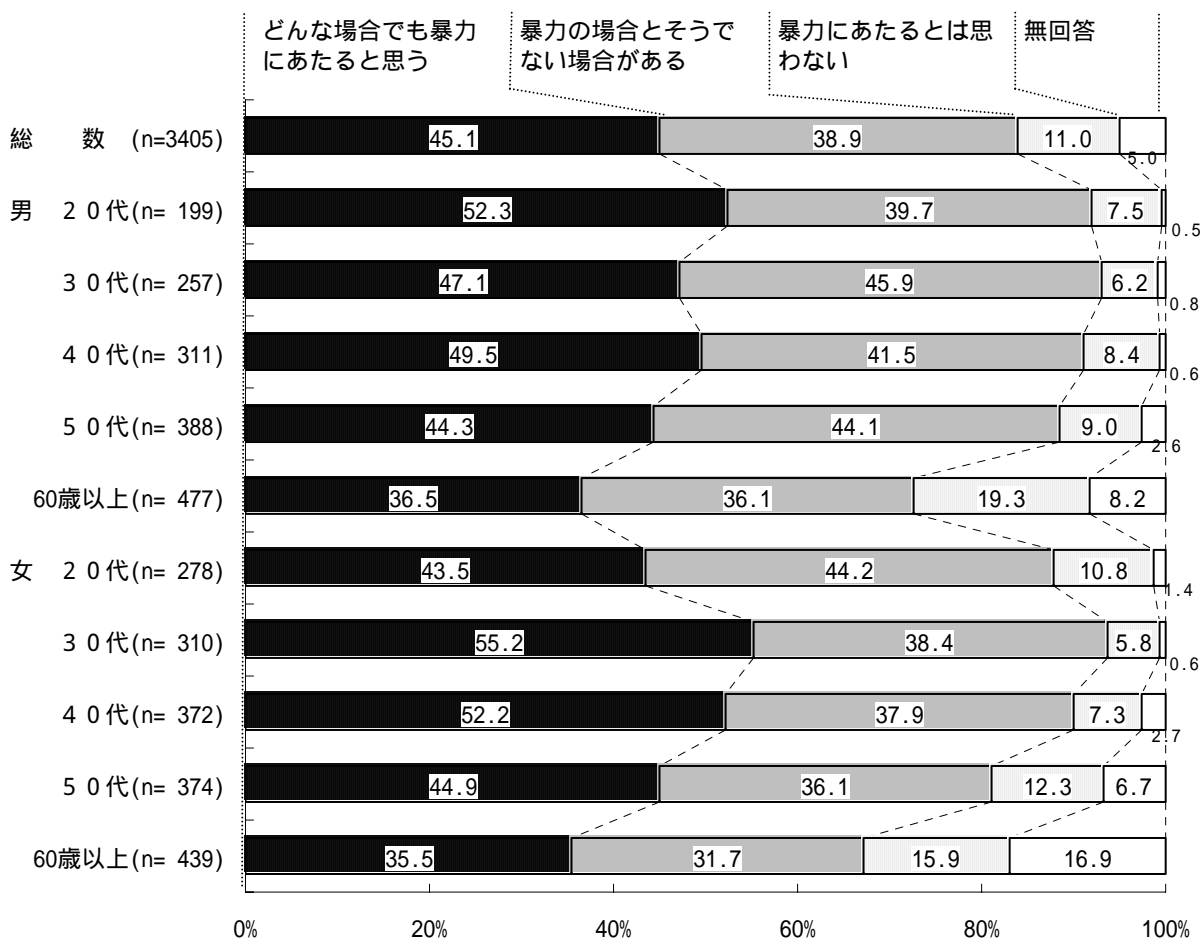
『なぐるふりをして、おどす』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で44.4%、女性で45.7%であり、女性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の50代、60歳以上、女性の20代、50代、60歳以上である。

D なぐるふりをして、おどす（性別）



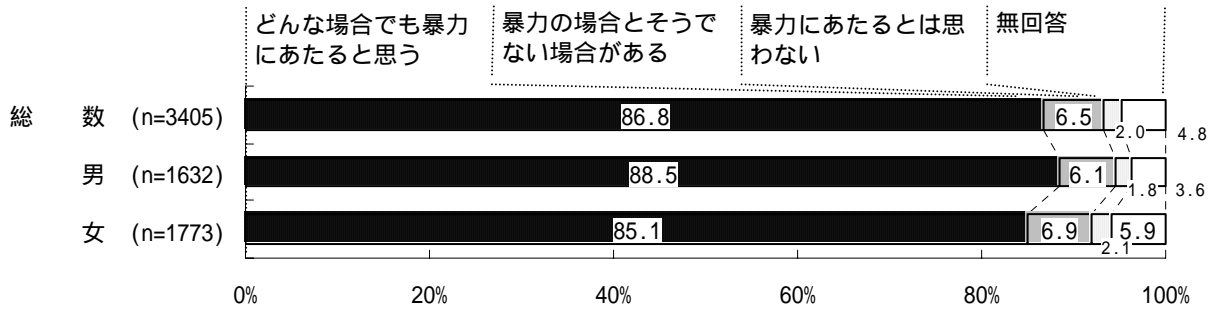
D なぐるふりをして、おどす（性・年齢別）



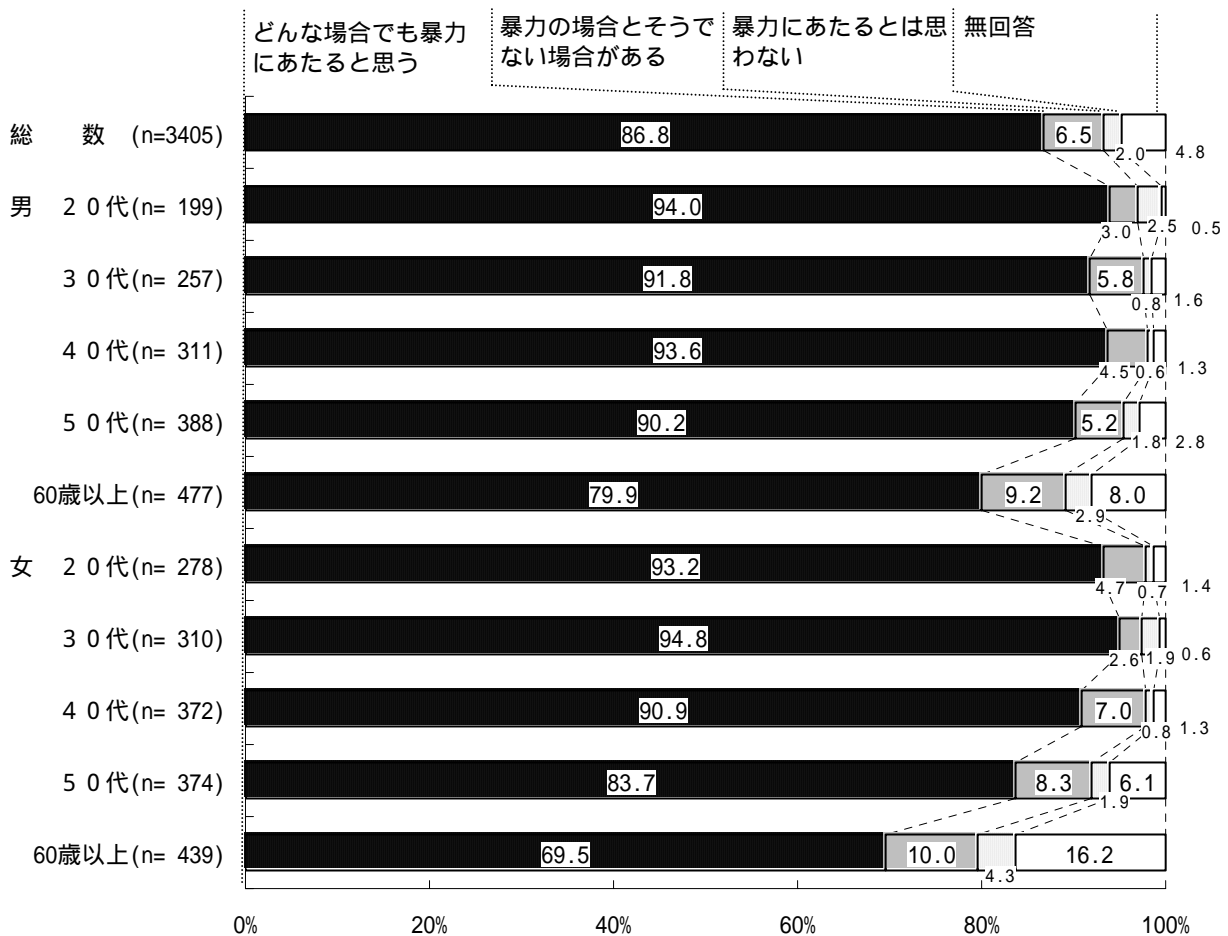
『刃物などを突きつけて、おどす』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で88.5%、女性で85.1%であり、男性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の60歳以上、女性の50代、60歳以上である。

E 刃物などを突きつけて、おどす（性別）



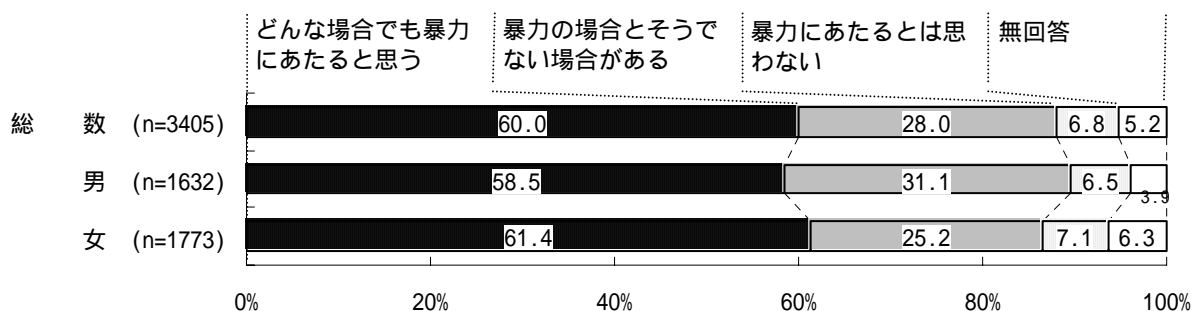
E 刃物などを突きつけて、おどす（性・年齢別）



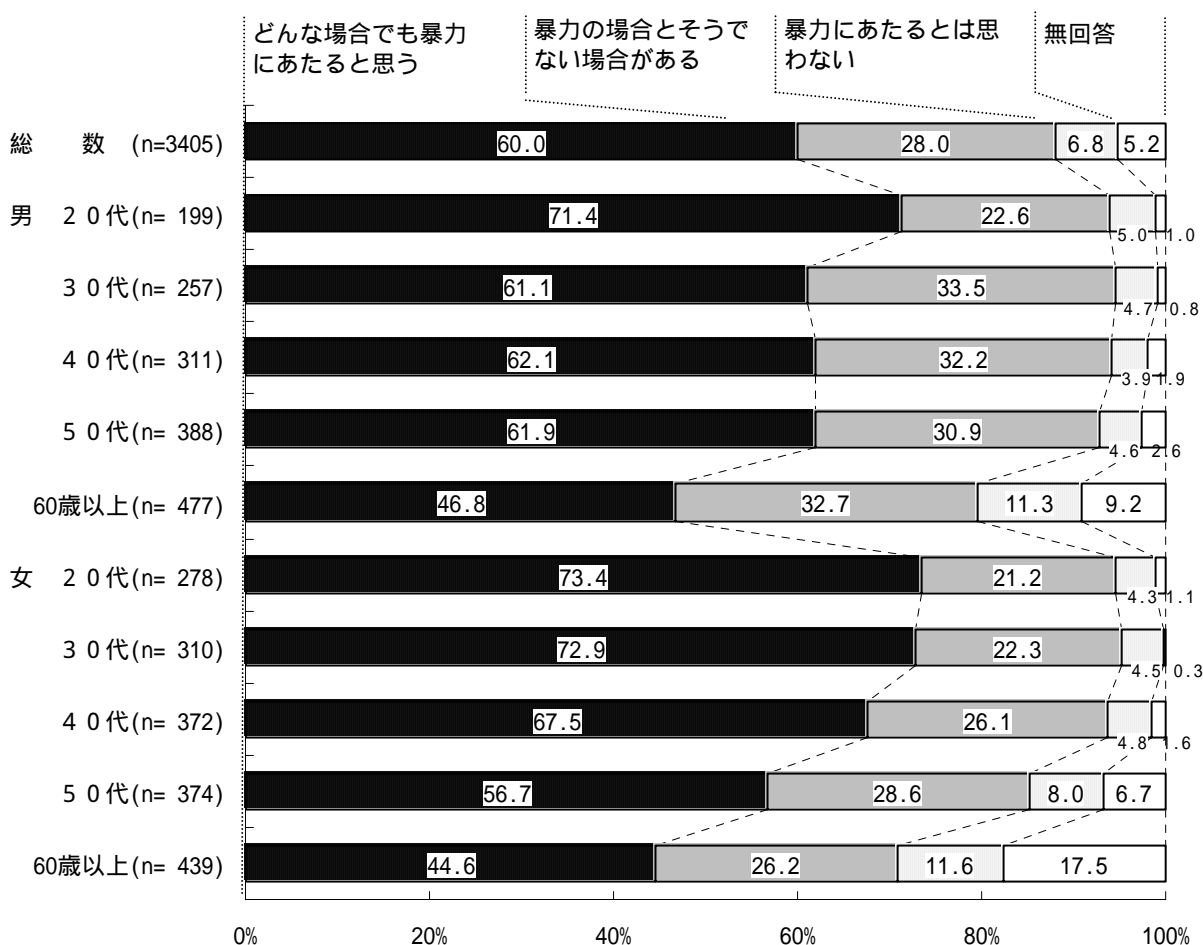
『相手がいやがっているのに性的な行為を強要する』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で58.5%、女性で61.4%であり、女性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の60歳以上、女性の50代、60歳以上である。

F 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する（性別）



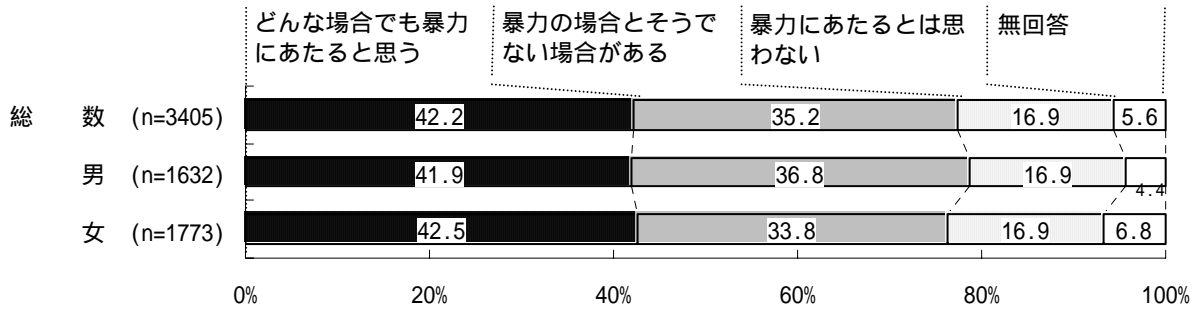
F 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する（性・年齢別）



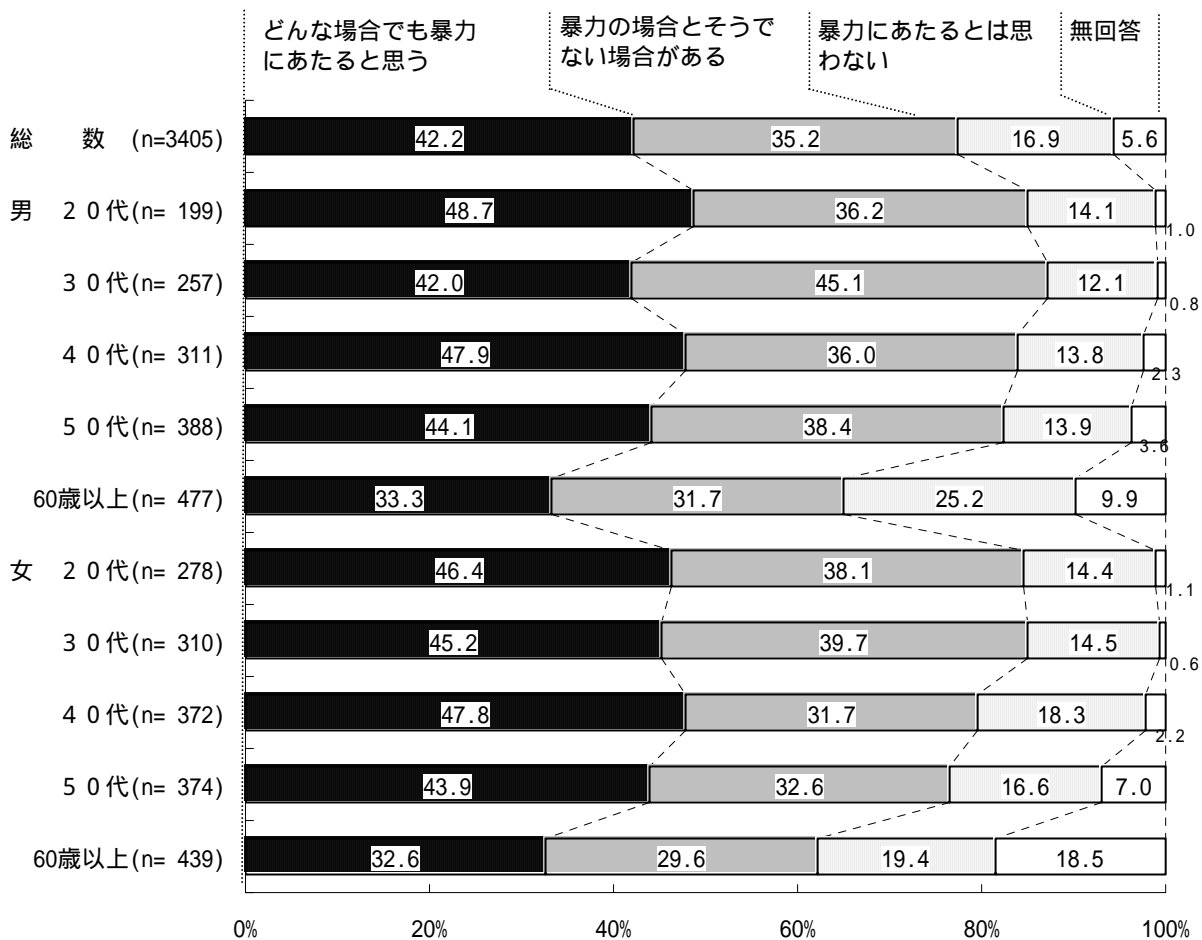
『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で41.9%、女性で42.5%であり、女性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の60歳以上、女性の60歳以上である。

G 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる（性別）



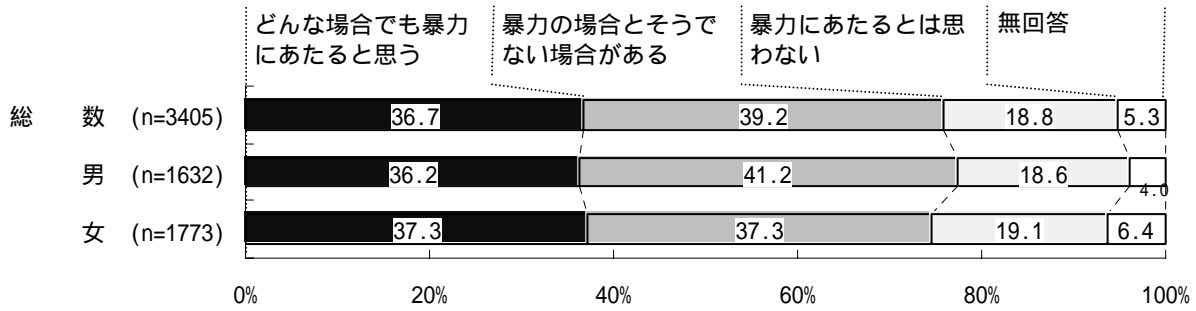
G 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる（性・年齢別）



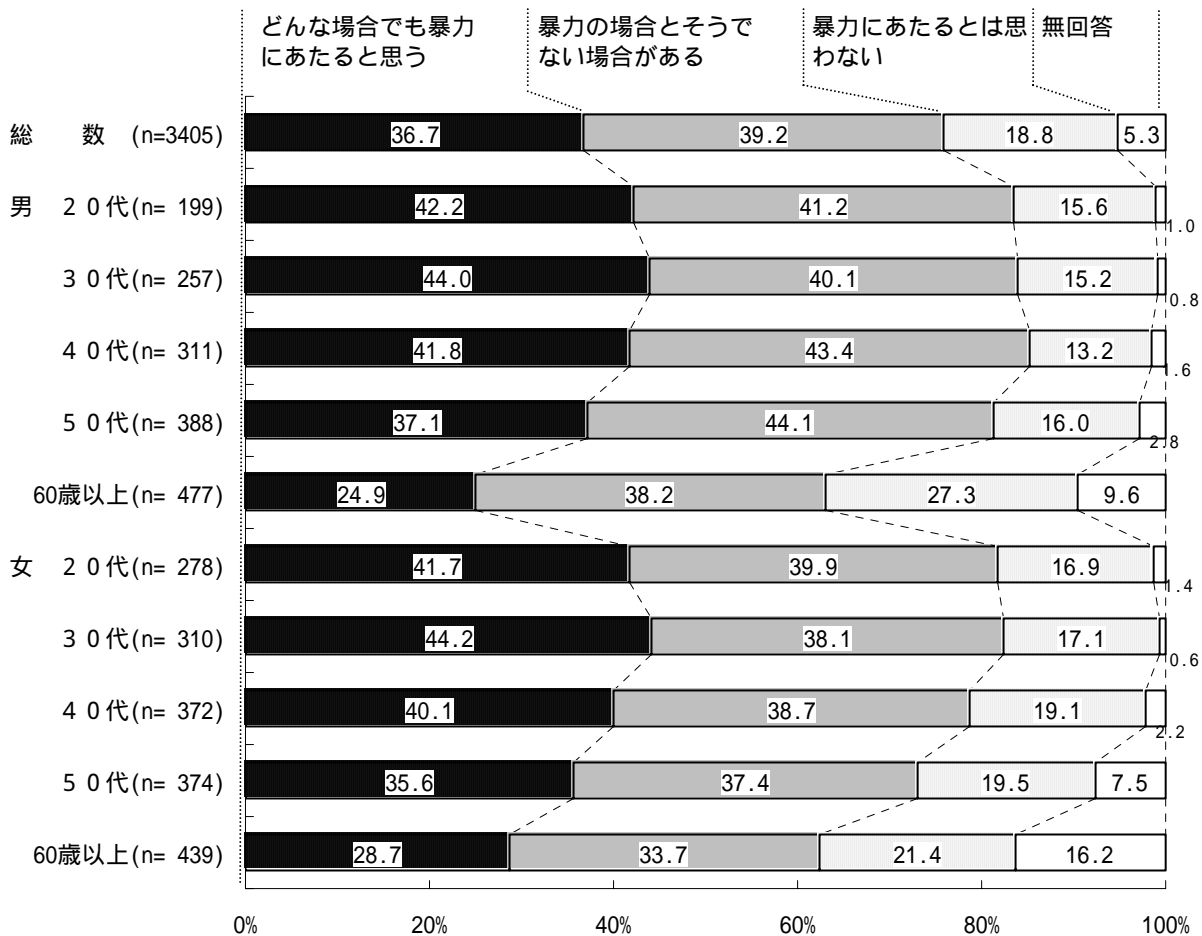
『何を言っても長期間無視し続ける』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で36.2%、女性で37.3%であり、女性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の60歳以上、女性の50代、60歳以上である。

H 何を言っても長期間無視し続ける（性別）



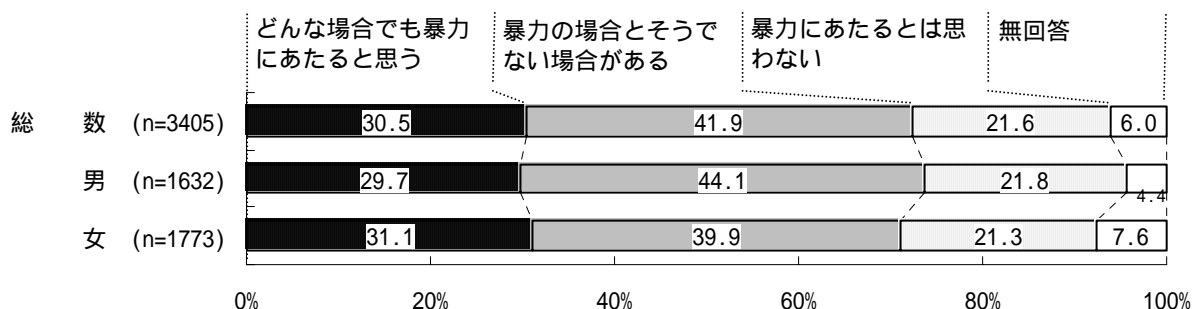
H 何を言っても長期間無視し続ける（性・年齢別）



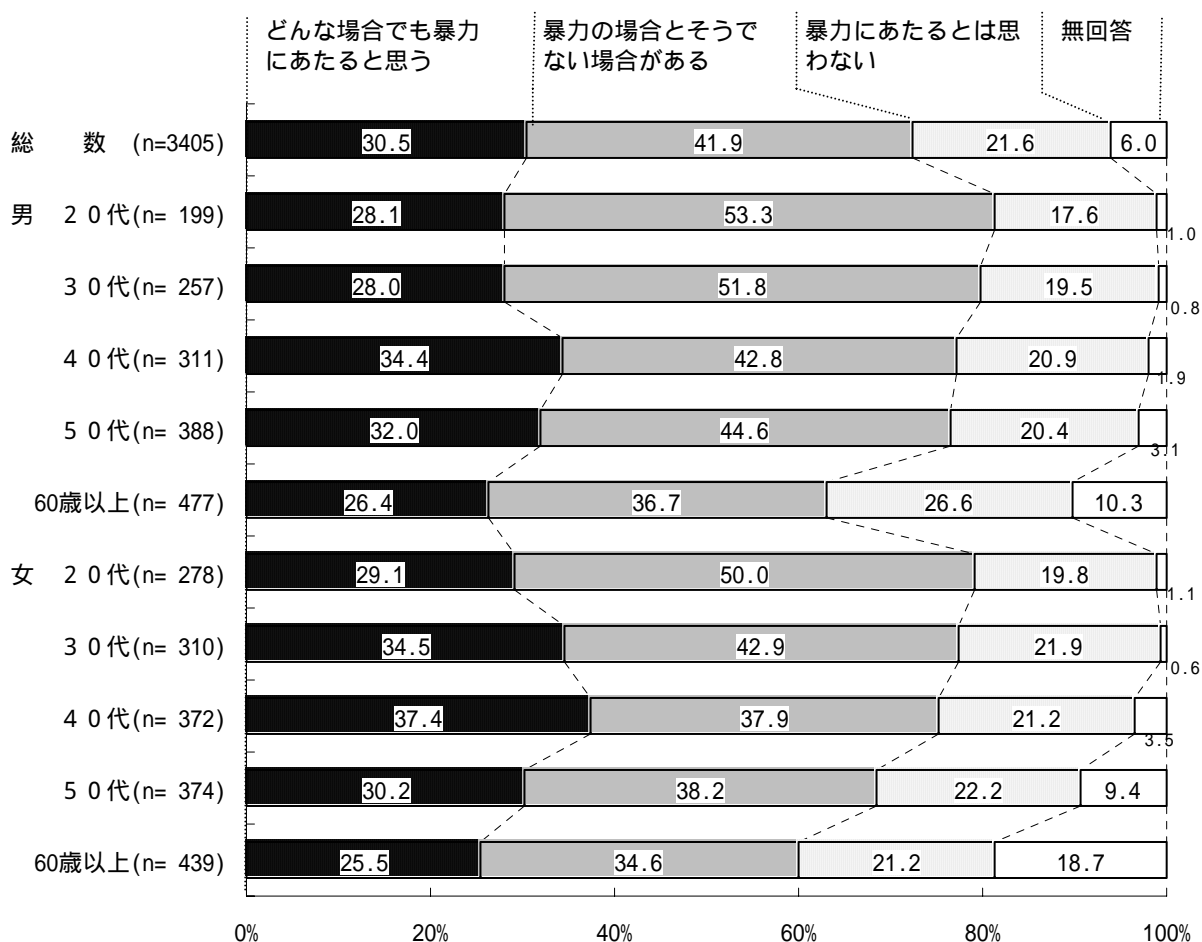
『交友関係や電話を細かく監視する』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で29.7%、女性で31.1%であり、女性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の20代、30代、60歳以上、女性の20代、50代、60歳以上である。

Ⅰ 交友関係や電話を細かく監視する（性別）



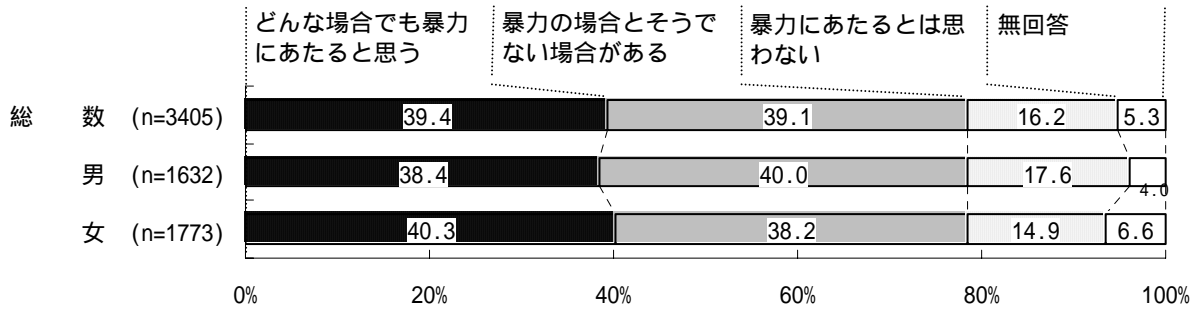
Ⅰ 交友関係や電話を細かく監視する（性・年齢別）



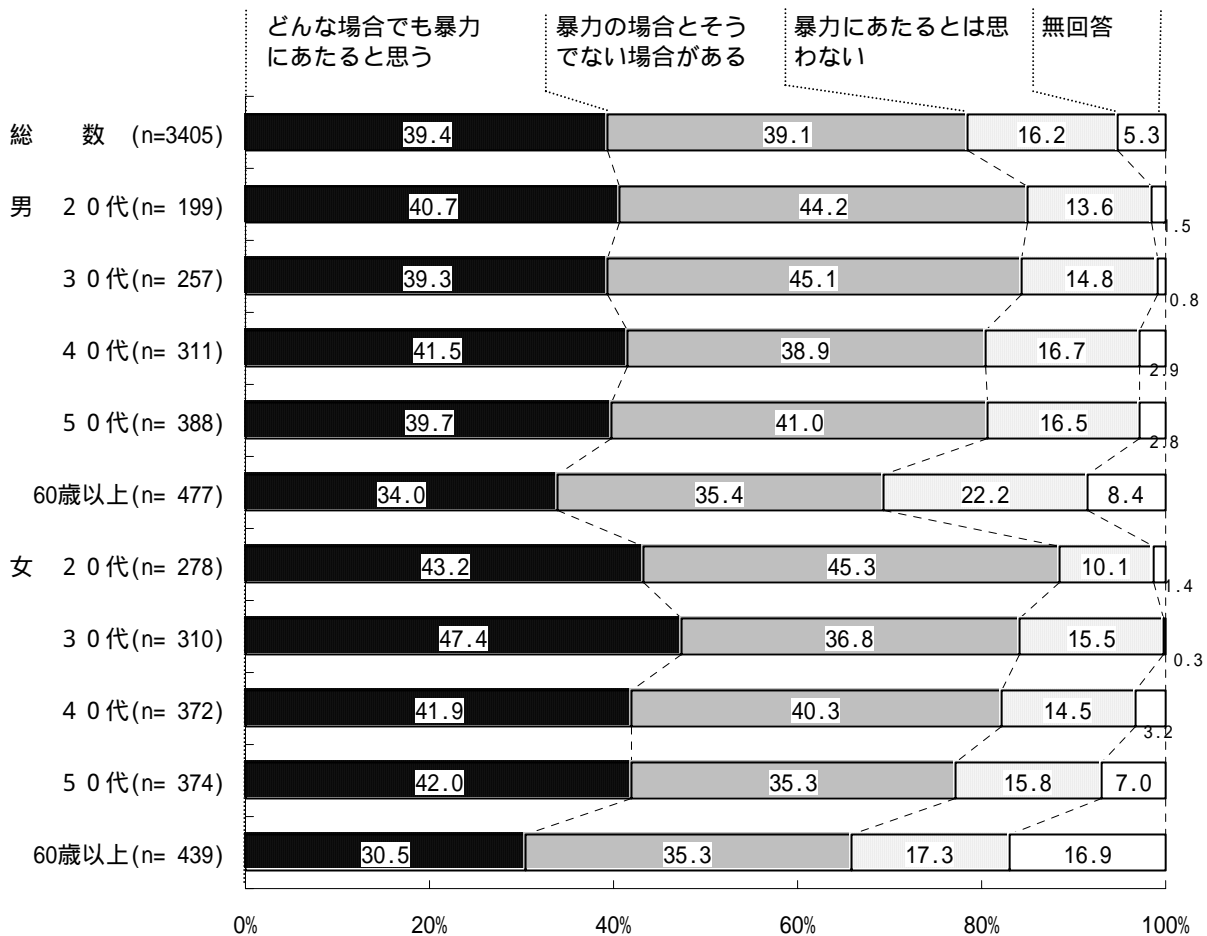
『「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で38.4%、女性で40.3%であり、女性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の60歳以上、女性の60歳以上である。

J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う（性別）



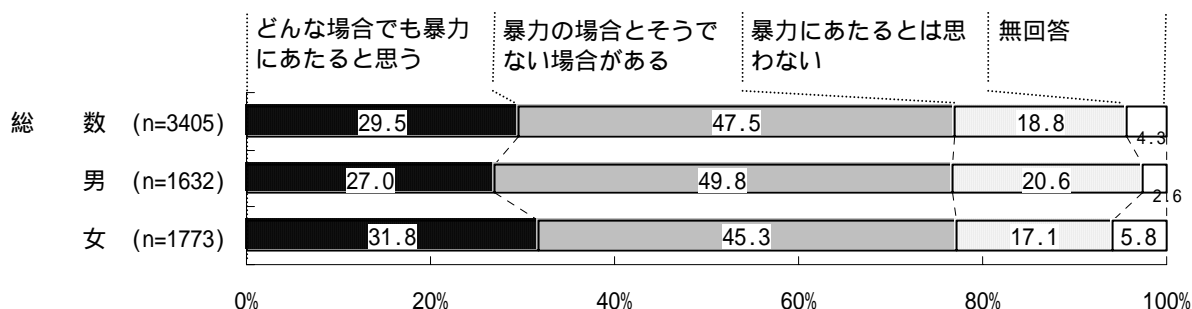
J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う（性・年齢別）



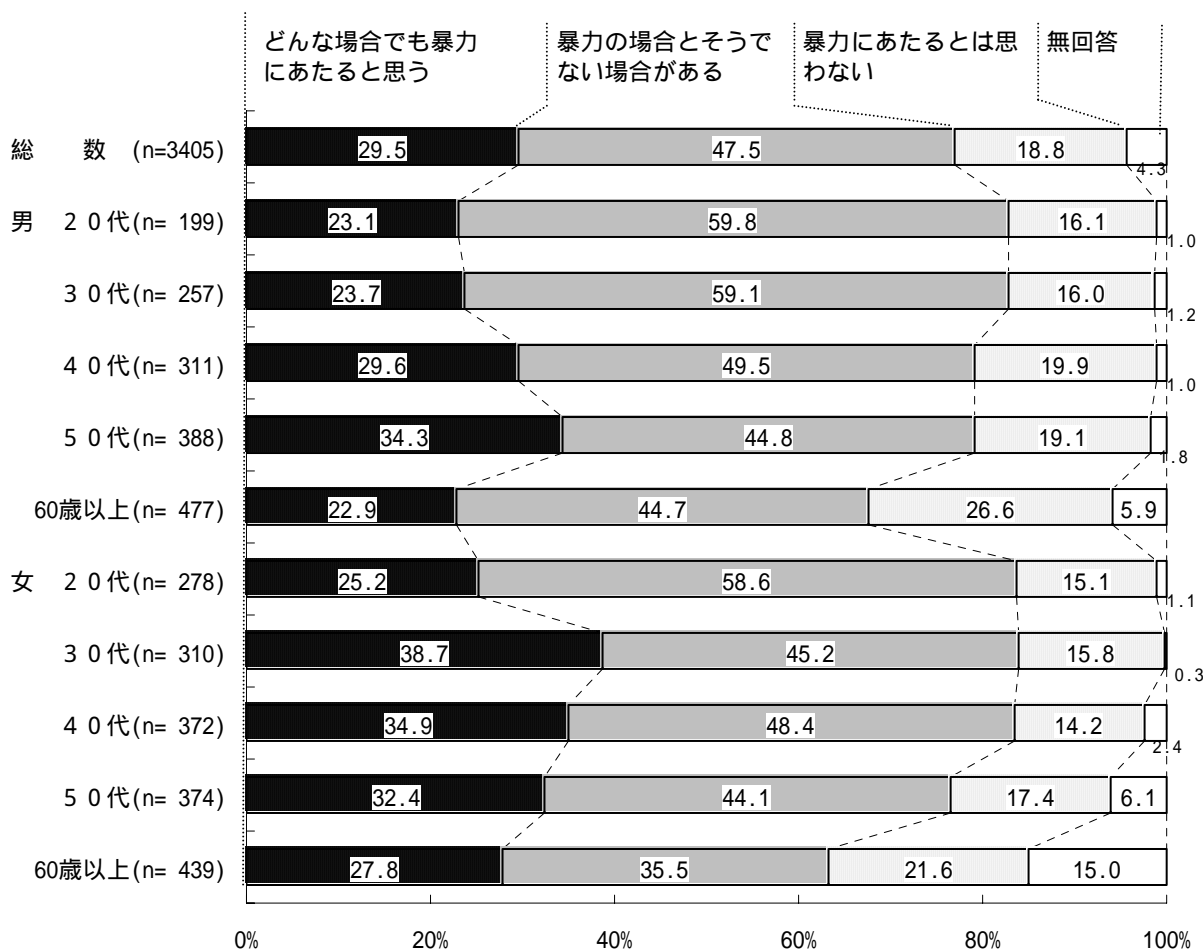
『大声でどなる』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、男性で27.0%、女性で31.8%であり、女性の方が多くなっている。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合よりも低いのは、男性の20代、30代、60歳以上、女性の20代、60歳以上である。

K 大声でどなる（性別）



K 大声でどなる（性・年齢別）



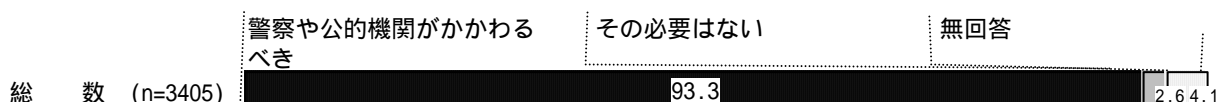
(2) 公的機関等の関与の必要性についての意識……問 14

夫婦の間で行われたことに警察や公的な機関などが、解決に向けてかかわるべきかどうかを 4 項目について質問した。

「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」か「その必要はない」かを聞いたが、まず、『命の危険を感じるくらいの暴行をうける』については、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」(93.3%)、「その必要はない」(2.6%)と、多くが警察や公的機関などのかかわりを必要としている。以下、『医師の治療が必要となる程度の暴行をうける』については、同様に、「かかわるべき」(86.9%)、「その必要はない」(8.0%)、『医師の治療が必要とされない程度の暴行をひんぱんにうける』については、「かかわるべき」(76.9%)、「その必要はない」(17.2%)と、次第に「かかわるべき」とする比率が低下し、『医師の治療が必要とされない程度の暴力を何年かに一度うける』では、「かかわるべき」(31.1%)、「その必要はない」(62.8%)と逆転する。

問 14 あなたは、次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた場合、警察や公的な機関などが、解決に向けてかかわるべきだと思いますか。A から D のそれぞれについて、1、2 のうちあなたの考えに近い方に をつけてください。

A 命の危険を感じるくらいの暴行をうける



B 医師の治療が必要となる程度の暴行をうける



C 医師の治療が必要とされない程度の暴行をひんぱんにうける



D 医師の治療が必要とされない程度の暴行を何年かに一度うける

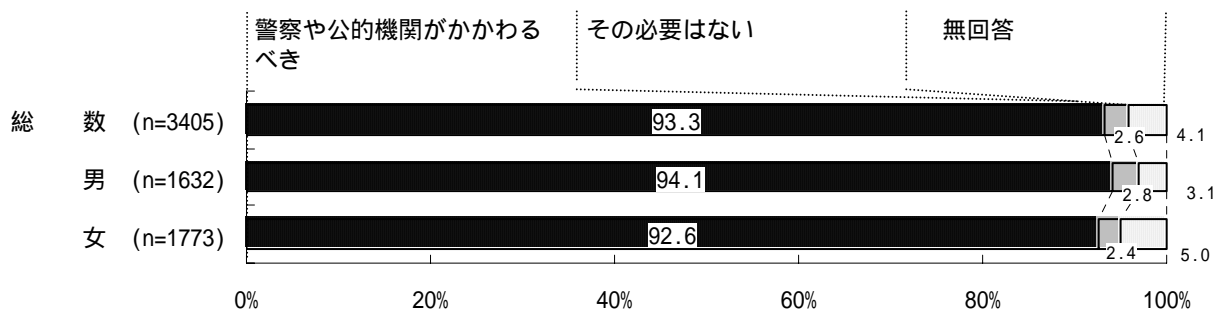


次に、各項目について性・年齢別にみてる。

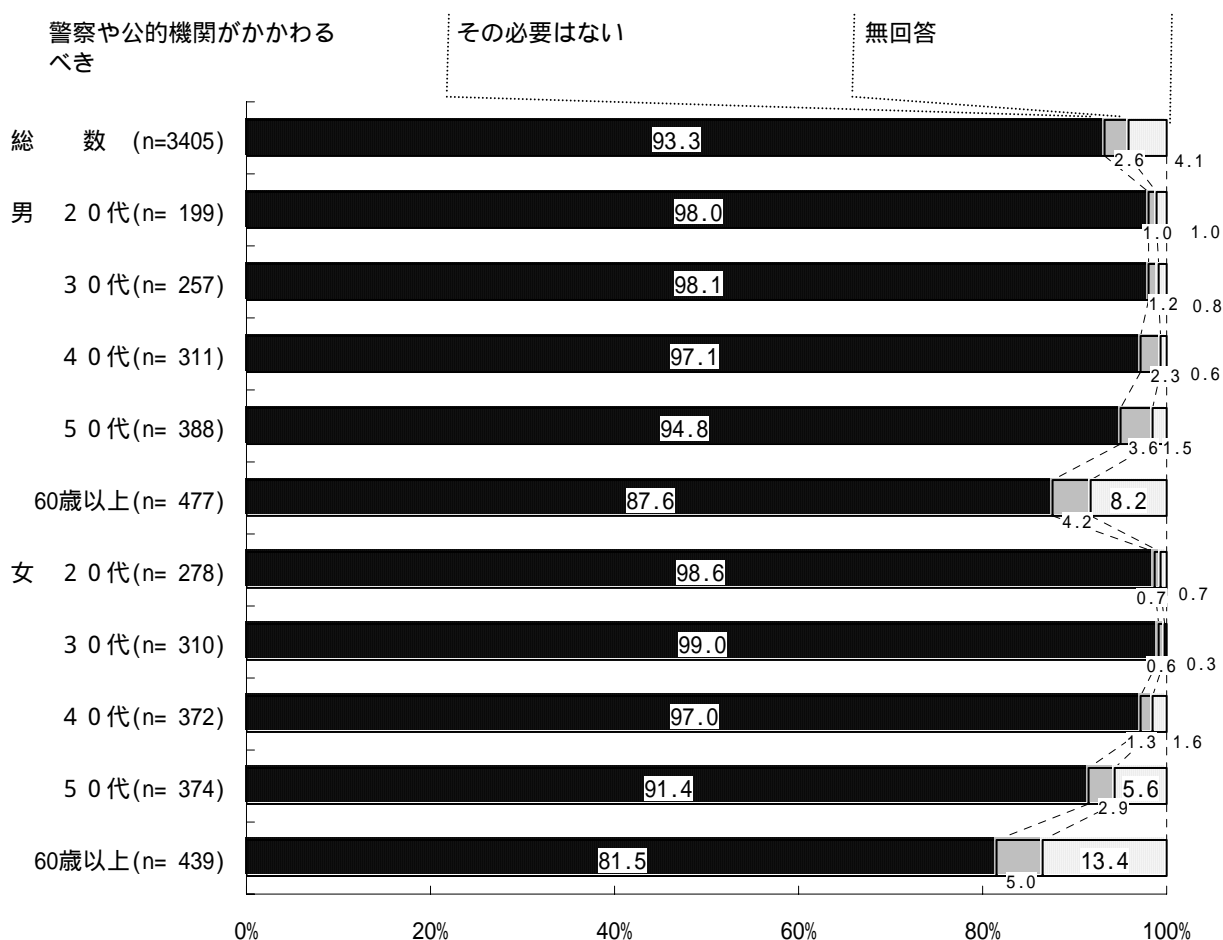
『命の危険を感じるくらいの暴行を受ける』では、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」と回答した人は、男性で94.1%、女性で92.6%であり、男性の方が多くなっている。

また、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の60歳以上、女性の50代、60歳以上である。

A 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける（性別）



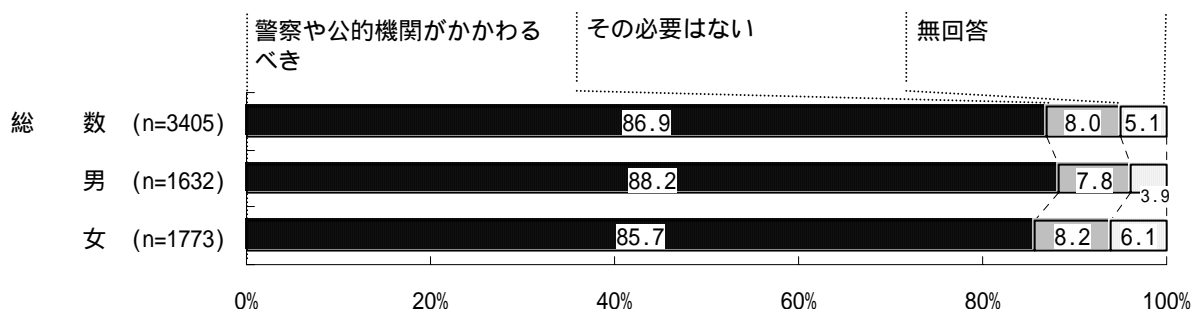
A 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける（性別）



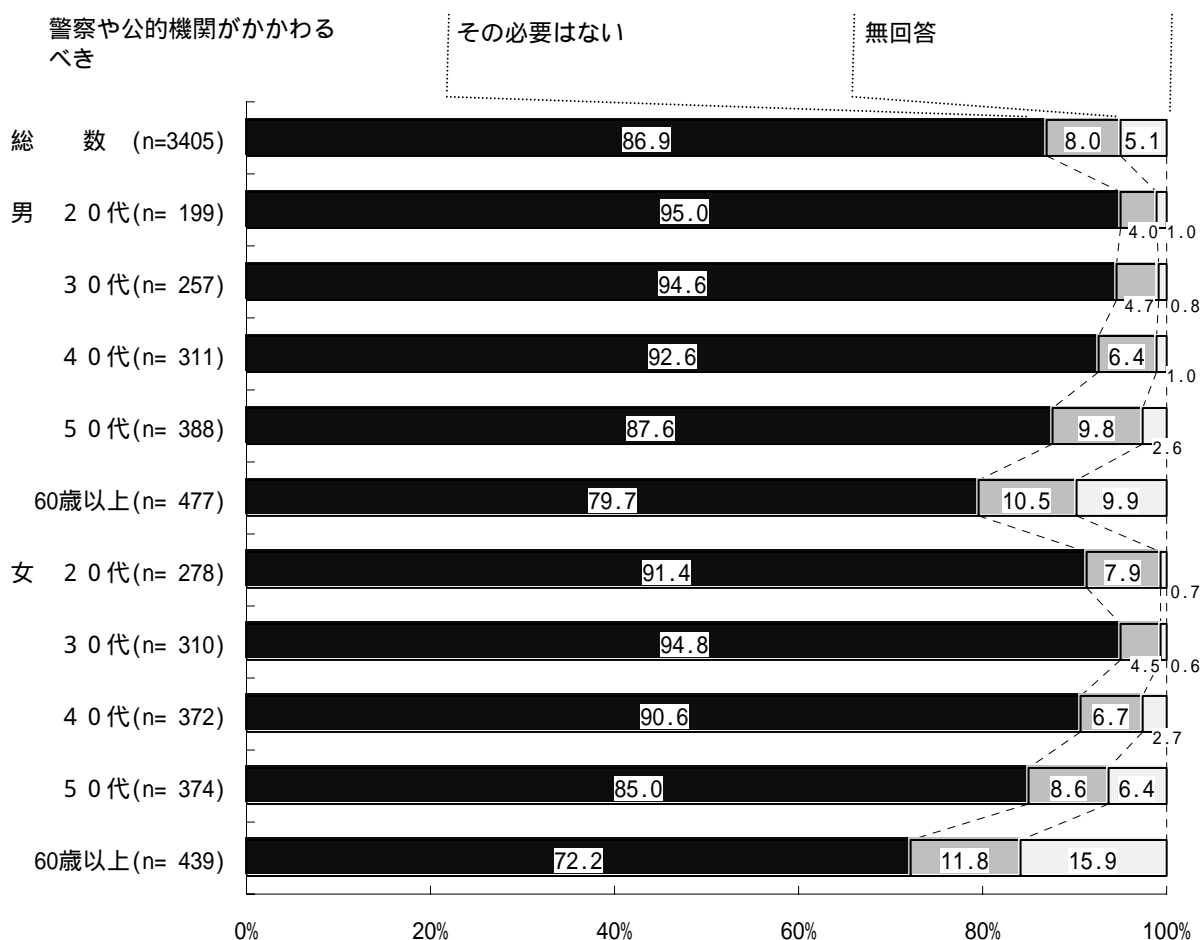
『医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける』では、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」と回答した人は、男性で88.2%、女性で85.7%であり、男性の方が多くなっている。

また、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の50代、60歳以上、女性の50代、60歳以上である。

B 医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける（性別）



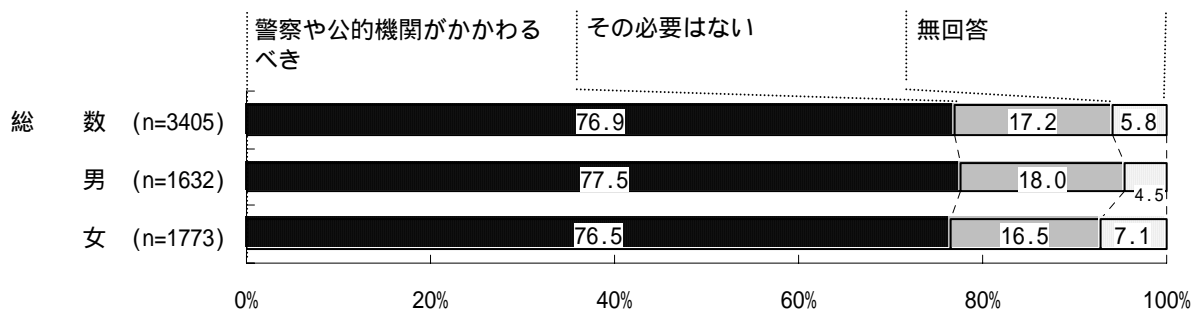
B 医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける（性・年齢別）



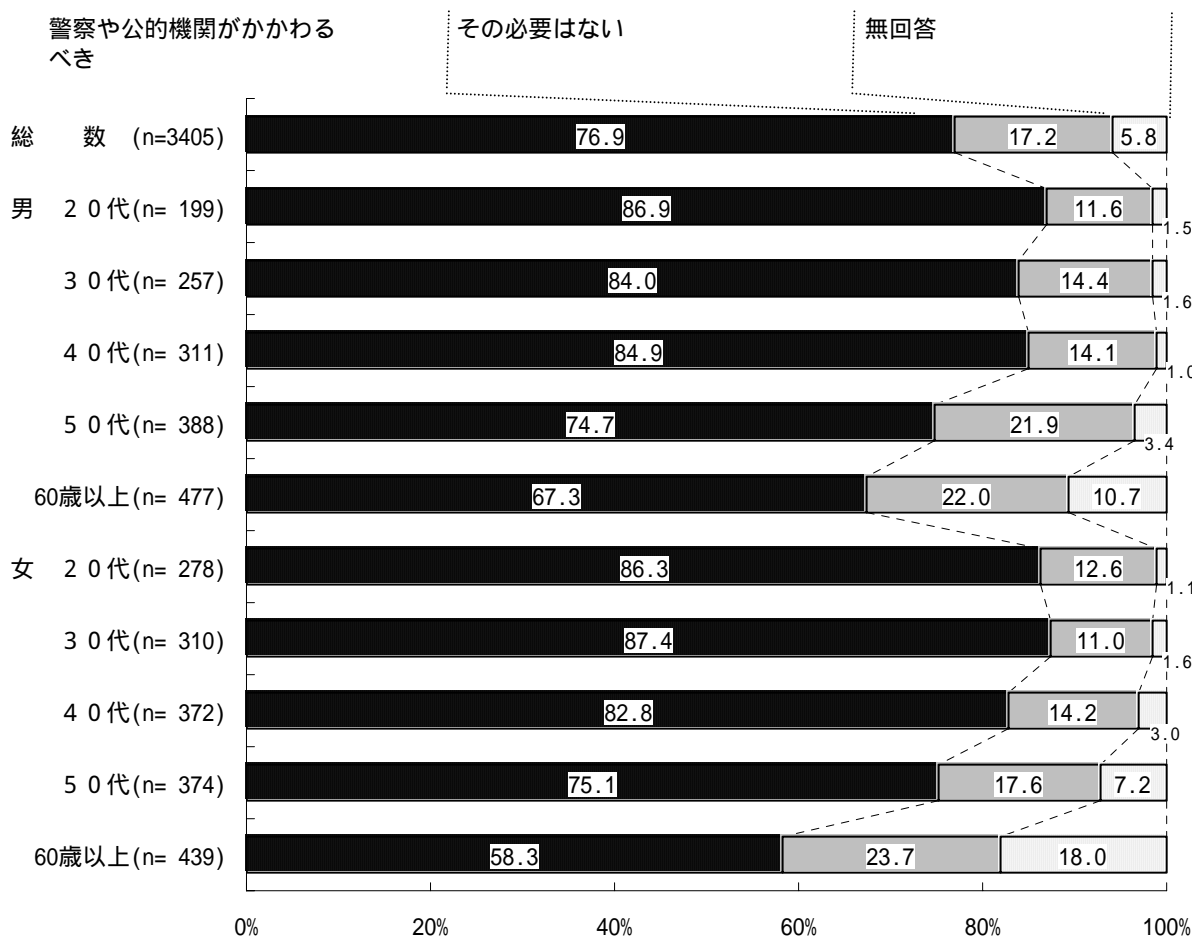
『医師の治療が必要とならない程度の暴行をひんぱんにうける』では、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」と回答した人は、男性で77.5%、女性で76.5%であり、男性の方が多くなっている。

また、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の50代、60歳以上、女性の50代、60歳以上である。

C 医師の治療が必要とならない程度の暴行をひんぱんにうける（性別）



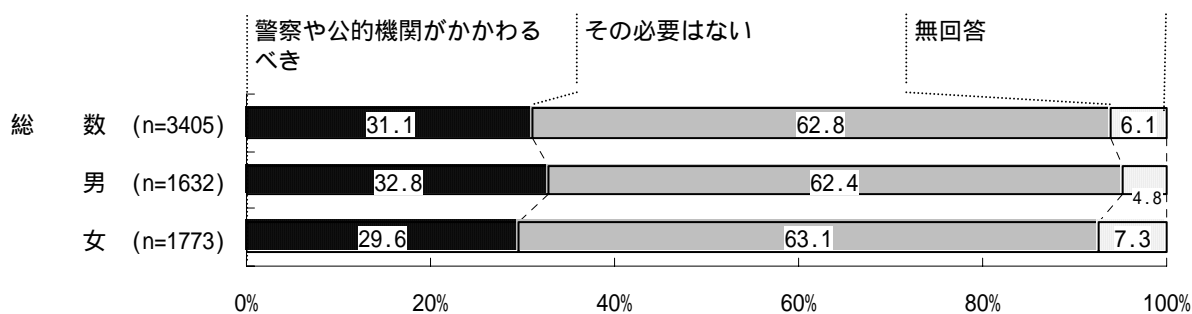
C 医師の治療が必要とならない程度の暴行をひんぱんにうける（性・年齢別）



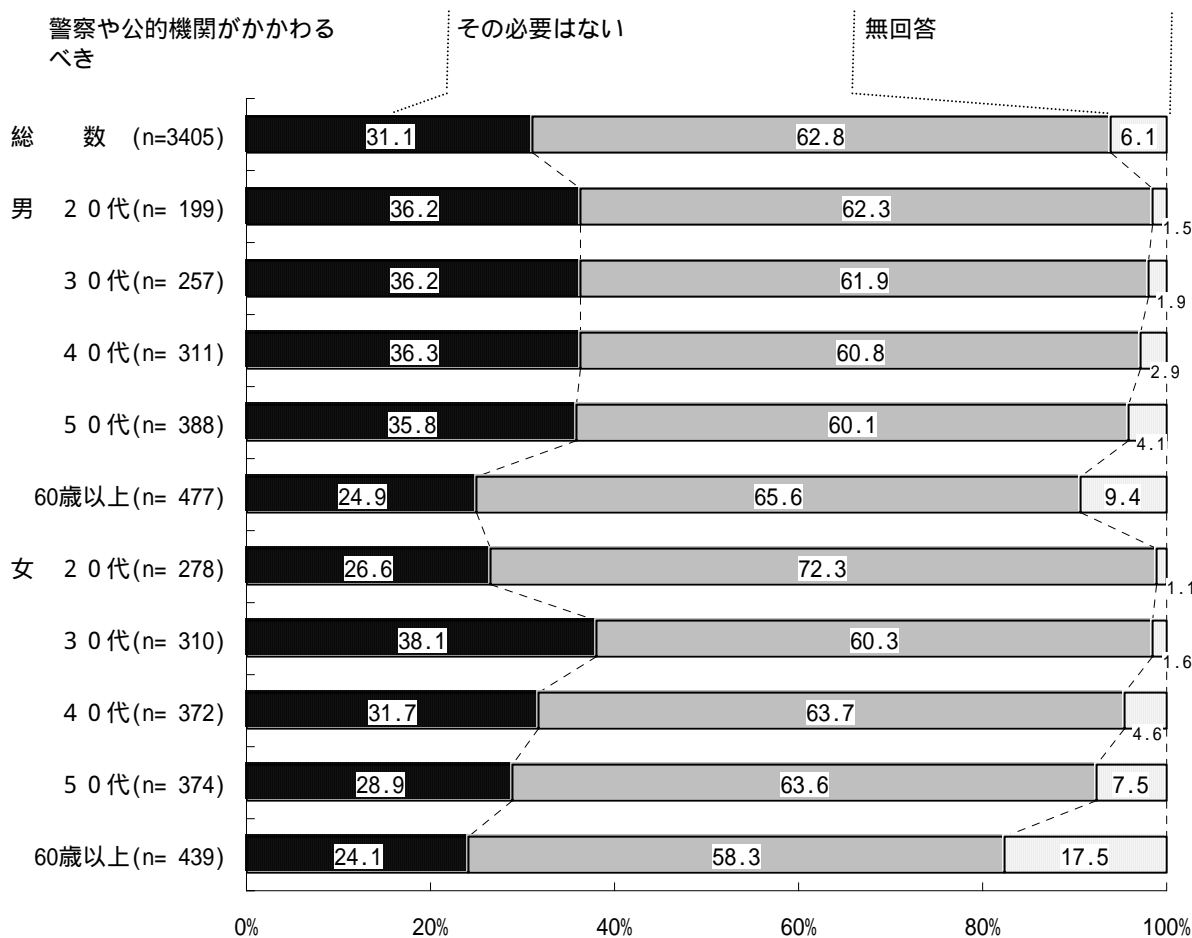
『医師の治療が必要とならない程度の暴行を何年かに一度うける』では、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」と回答した人は、男性で32.8%、女性で29.6%であり、男性の方が多くなっている。

また、「警察や公的な機関などが何らかの形でかかわるべき」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の60歳以上、女性の20代、50代、60歳以上である。

D 医師の治療が必要とならない程度の暴行を何年かに一度うける（性別）



D 医師の治療が必要とならない程度の暴行を何年かに一度うける（性・年齢別）



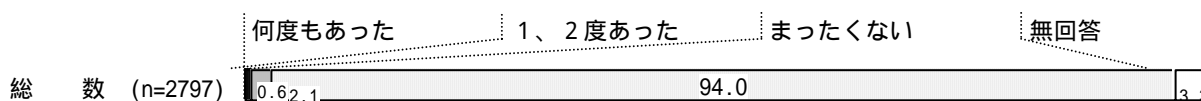
(3) 夫や妻から暴行等を受けた経験の有無.....問 15

現在、夫や妻がいる、または、過去に夫や妻がいたが現在はいないという 2797 人に、夫や妻から暴行等を受けた経験の有無を 9 項目について聞いた。

『命の危険を感じるくらいの暴行を受ける』について 2.7%、『医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける』については 2.6%の人が“あった”(「何度もあった」と「1、2 度あった」をあわせたもの)としている。なお、“あった”については、『大声でどなられる』の 37.7%が最も多かった。

問 15 あなたはこれまでに、あなたの夫や妻(事実婚や別居中を含む)から、次のようなことをされたことがありますか。次の A から I のそれぞれについて、1、2、3 のどれか一つにをつけてください。

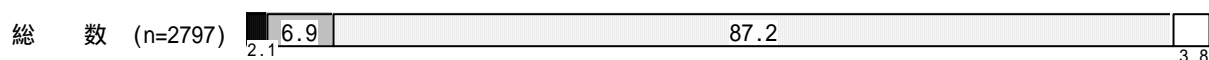
A 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける



B 医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける



C 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける



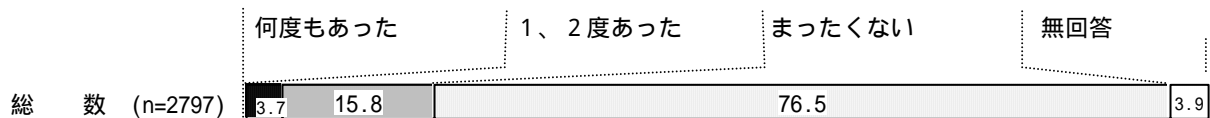
D あなたがいやがっているのに性的な行為を強要される



E あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる



F 何を言っても無視され続ける



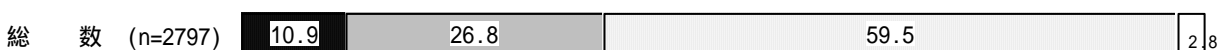
G 交友関係や電話を細かく監視される



H 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる



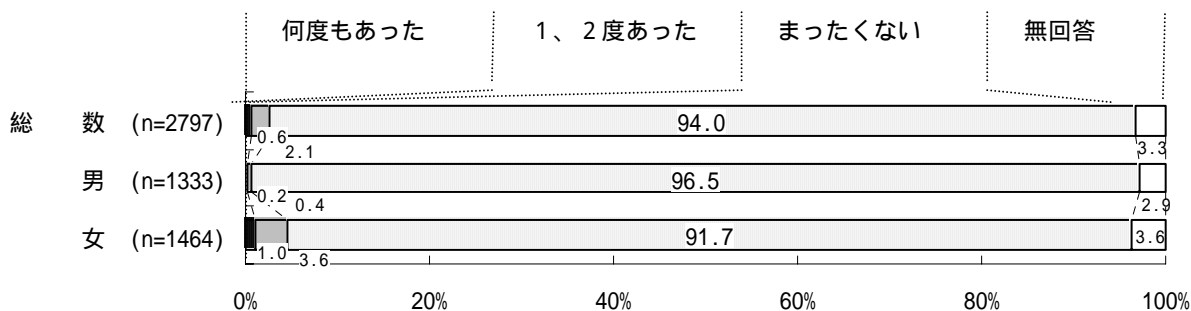
I 大声でどなられる



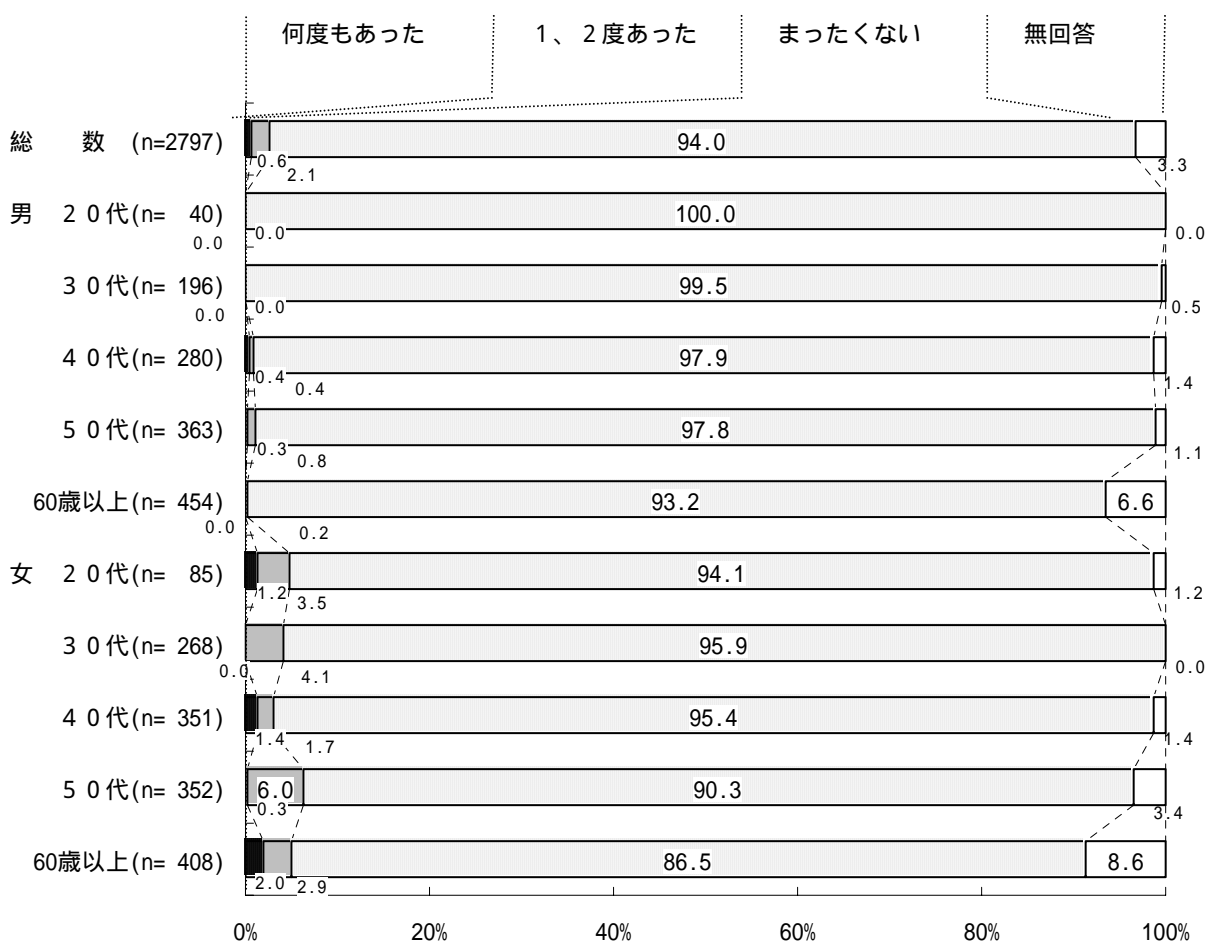
次に、各項目について性・年齢別に、「何度もあった」または「1、2度あった」とした人をみると、『命の危険を感じるくらいの暴行を受ける』では、男性は0.5%()、女性は4.6%であり、女性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の20代、30代(20代及び30代については該当者なし)、60歳以上、女性の30代、40代である。

A 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける(性別)



A 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける(性・年齢別)

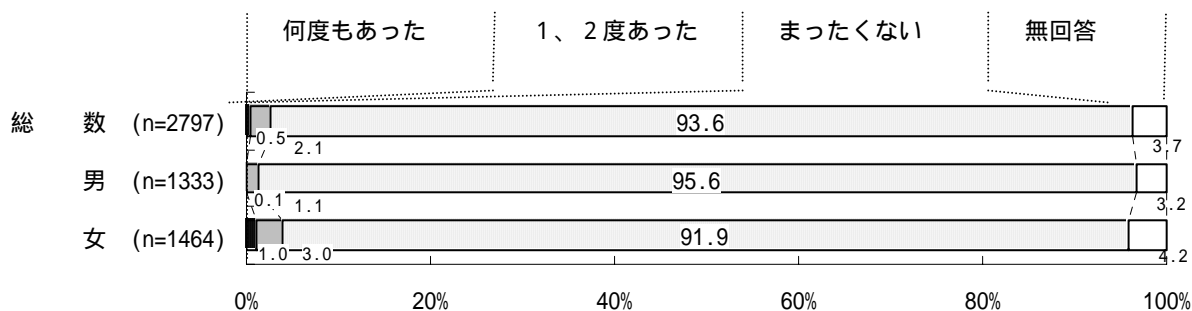


男性全体における「何どもあった」「1、2度あった」については、それぞれ0.2%、0.4%となっているが、その合計である“あった”については、この比率同士を合計したものではなく、実数同士を合計して該当数で割ったものを使用しているため、四捨五入により0.5%となっている。

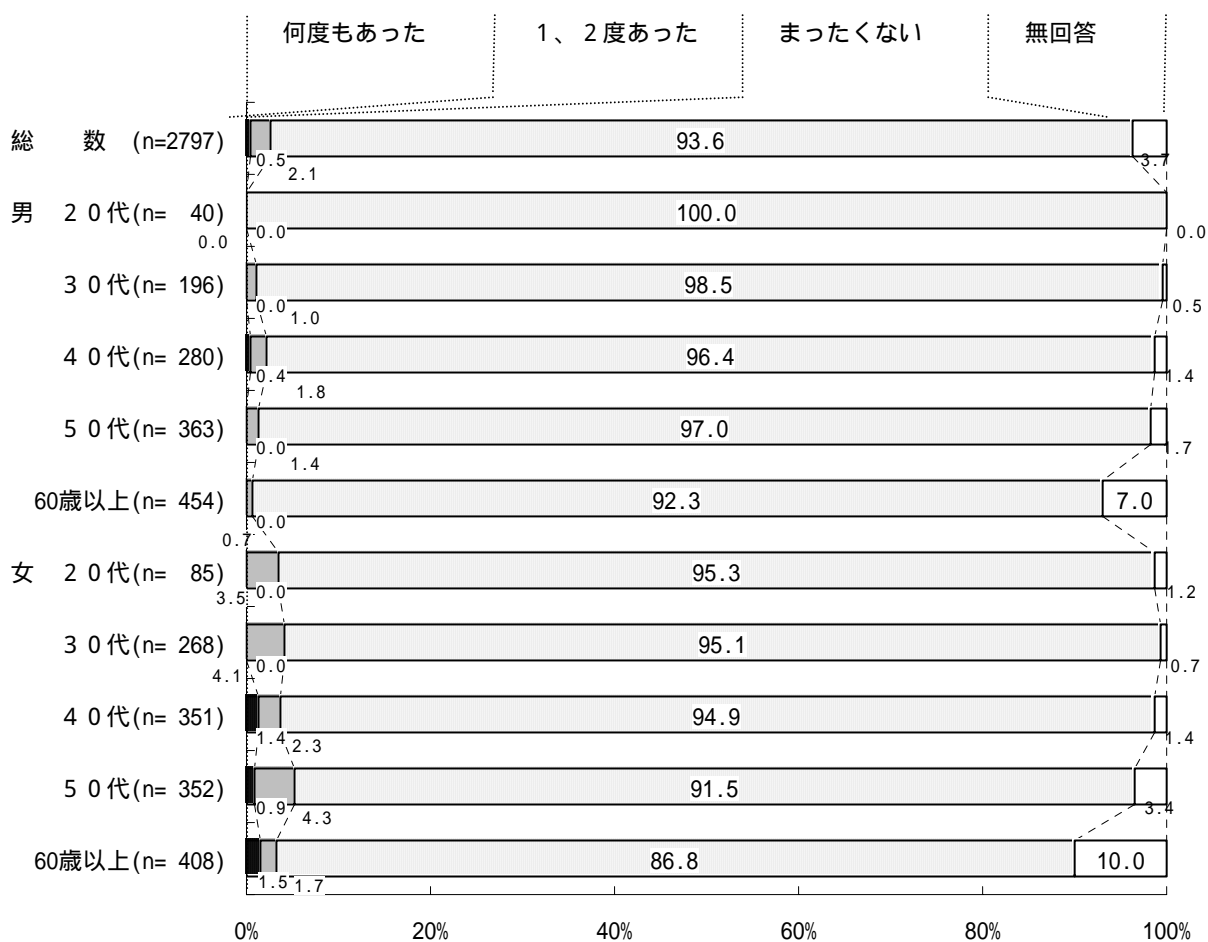
『医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける』では、“あった”と回答したのは、男性は1.2%、女性は4.0%であり、女性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の20代(20代については該当者なし)、30代、60歳以上、女性の20代、40代、60歳以上である。

B 医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける（性別）



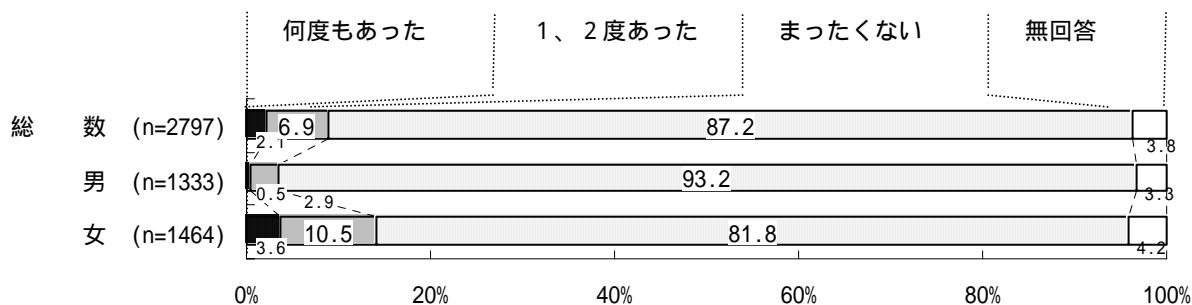
B 医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける（性・年齢別）



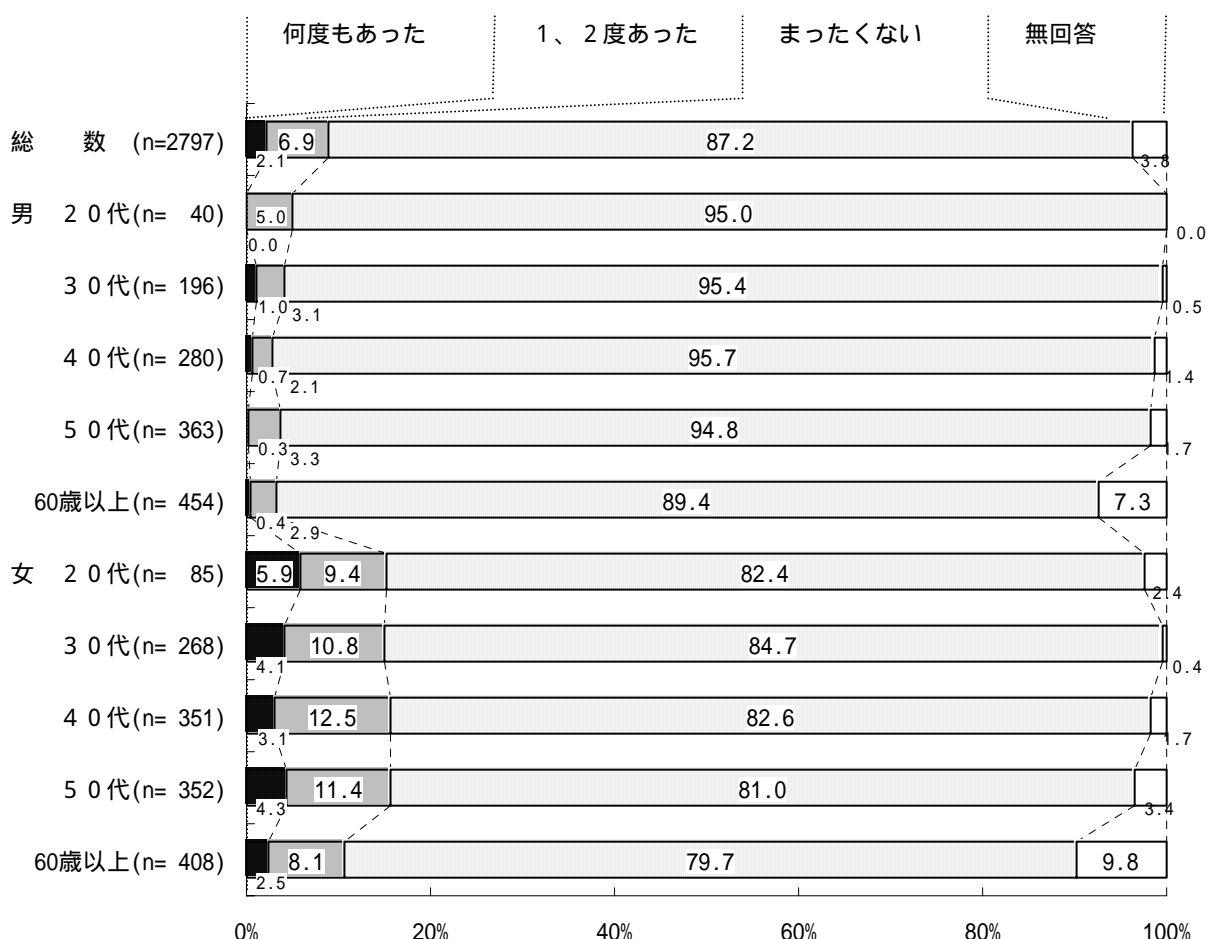
『医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける』では、“あった”と回答したのは、男性は3.5%()、女性は14.1%であり、女性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の40代、60歳以上、女性の60歳以上である。

C 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける（性別）



C 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける（性・年齢別）

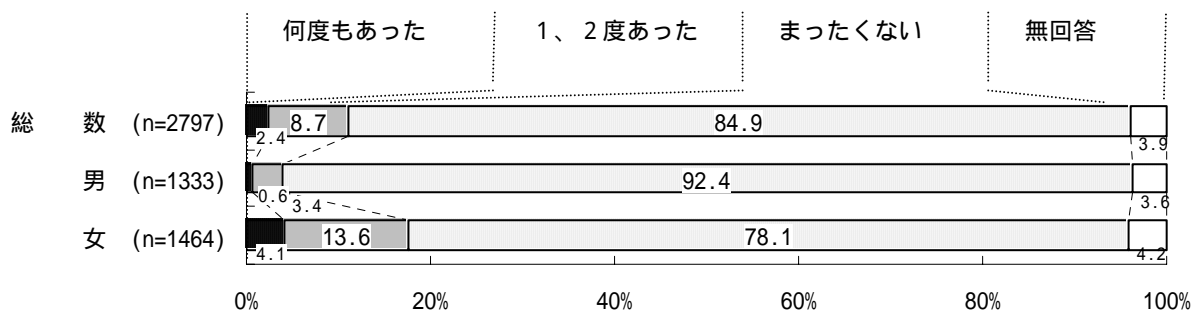


男性全体における「何度もあった」「1、2度あった」については、それぞれ0.5%、2.9%となっているが、その合計である“あった”については、この比率同士を合計したものではなく、実数同士を合計して該当数で割ったものを使用しているため、四捨五入により3.5%となっている。

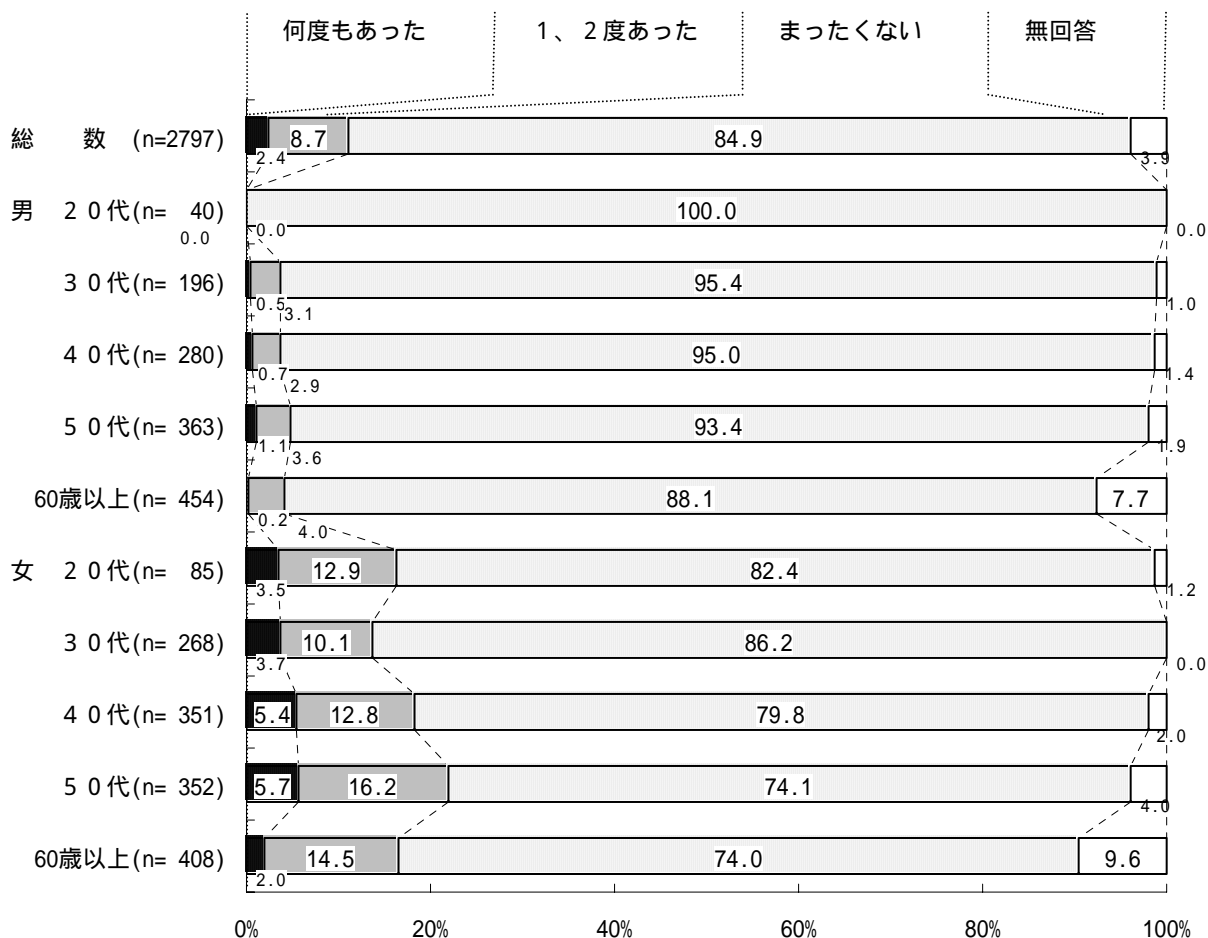
『あなたがいやがっているのに性的な行為を強要される』では、“あった”と回答したのは、男性は4.0%、女性は17.7%であり、女性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の20代(20代については該当者なし)、30代、40代、女性の20代、30代、60歳以上である。

D あなたがいやがっているのに性的な行為を強要される（性別）



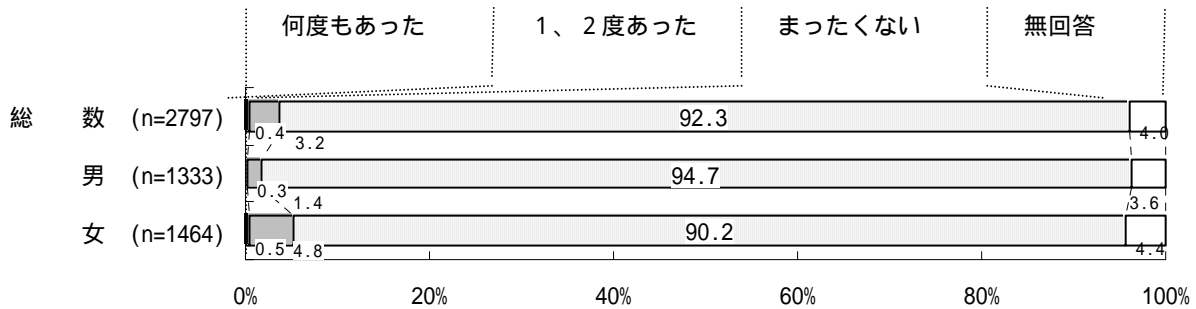
D あなたがいやがっているのに性的な行為を強要される（性・年齢別）



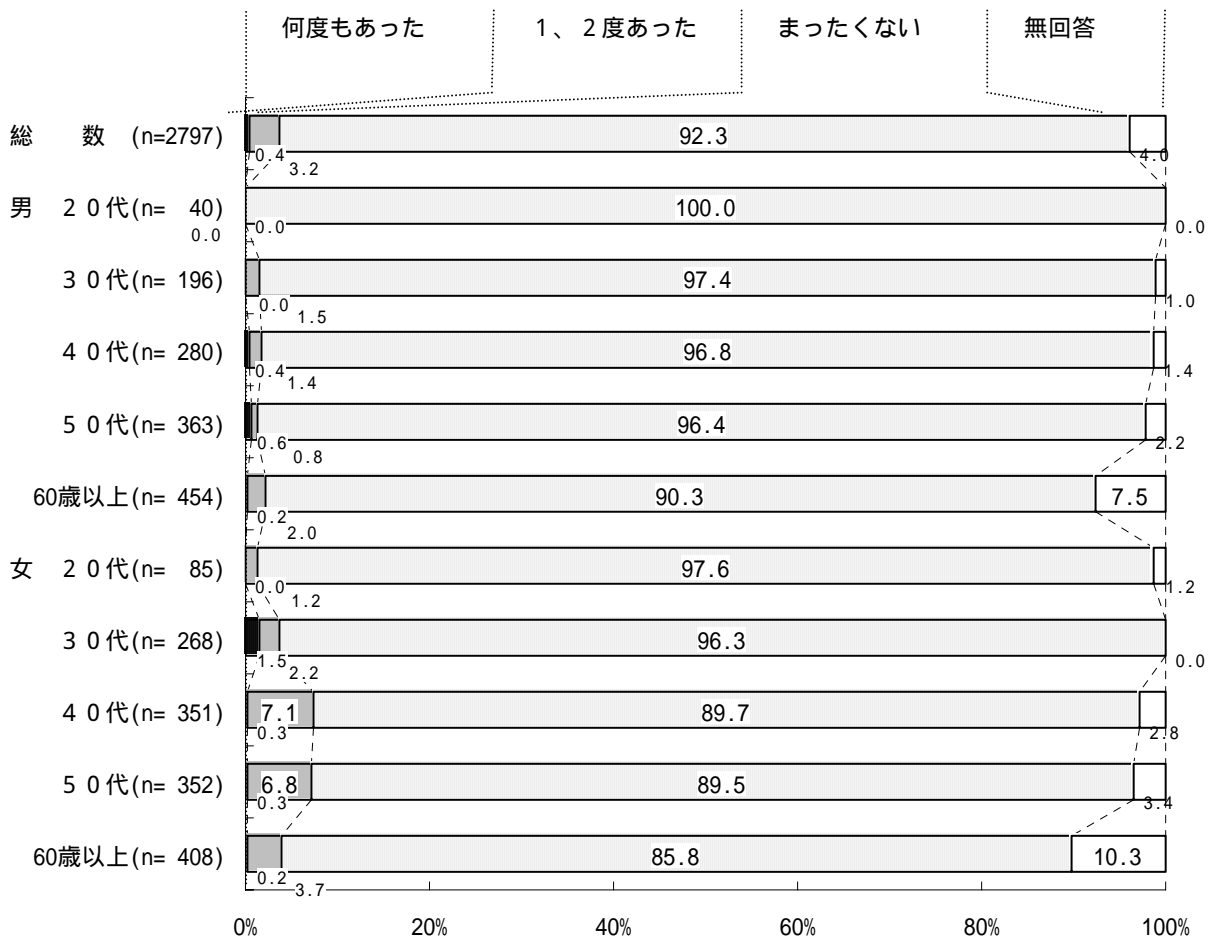
『あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる』では、“あった”と回答したのは、男性は1.7%、女性は5.3%であり、女性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の20代(20代については該当者なし)、30代50代、女性の20代、30代、60歳以上である。

E あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる（性別）



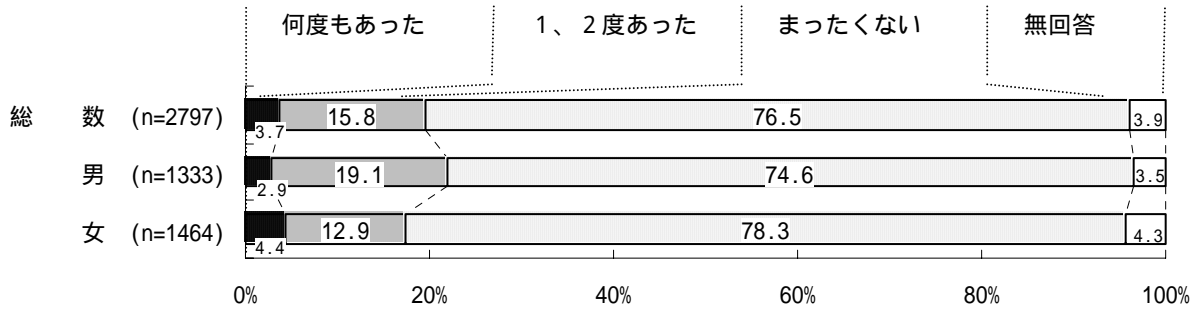
E あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる（性・年齢別）



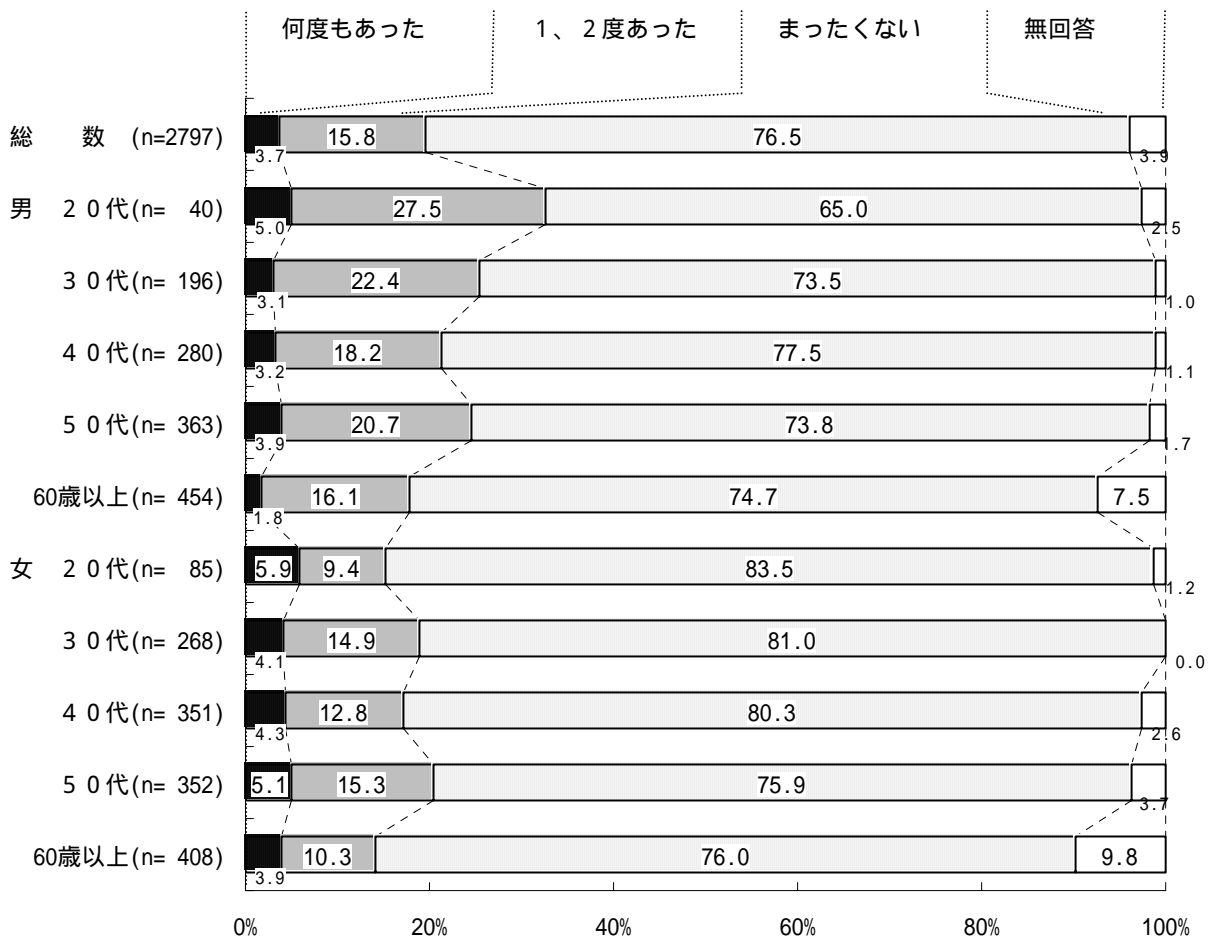
『何を言っても無視され続ける』では、“あった”と回答したのは、男性は 22.0%、女性は 17.3% であり、問 15 の 9 類型中唯一男性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の 40 代、60 歳以上、女性の 20 代、40 代、60 歳以上である。

F 何を言っても無視され続ける（性別）



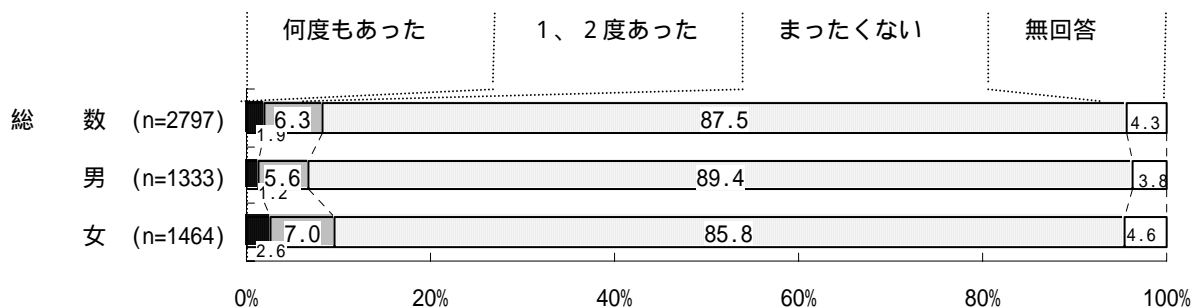
F 何を言っても無視され続ける（性・年齢別）



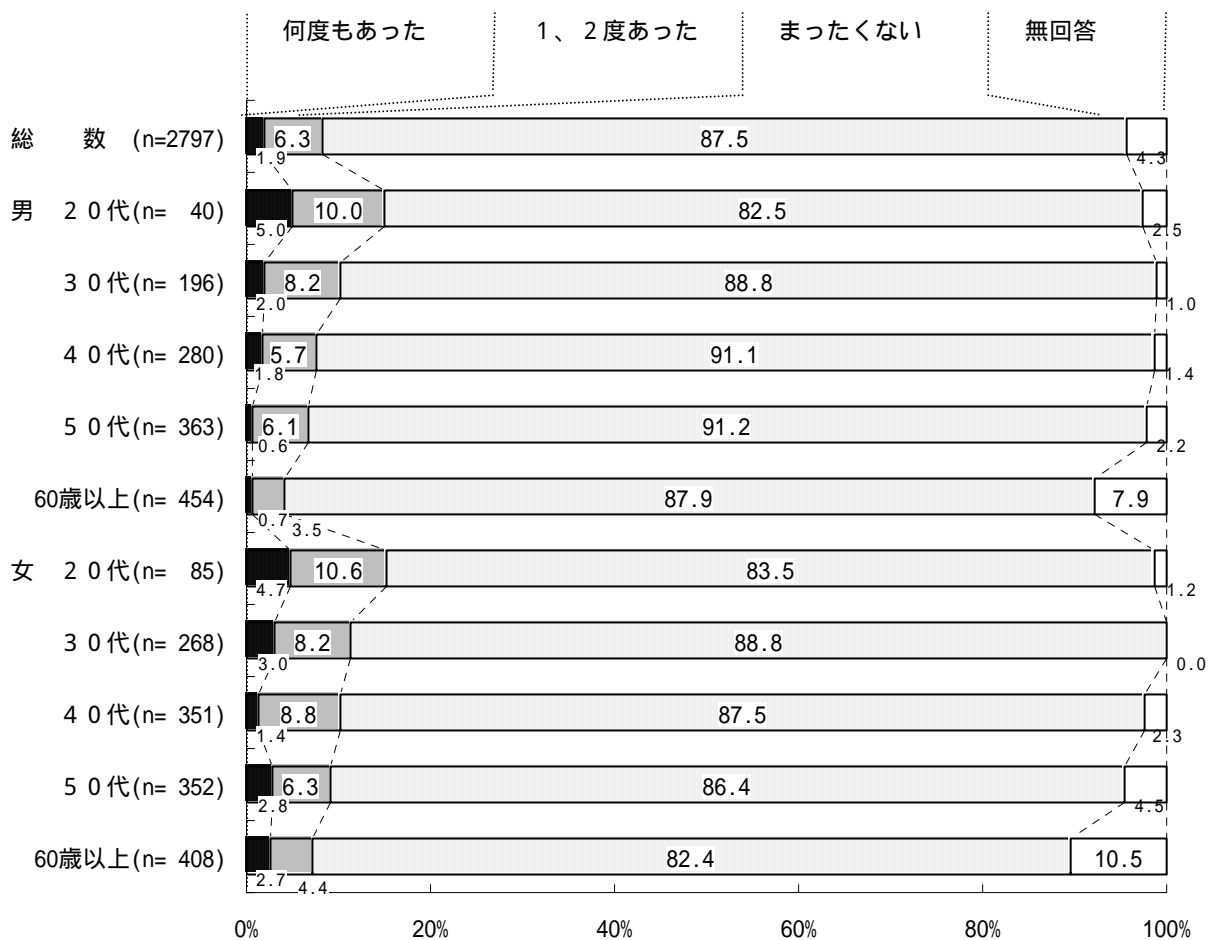
『交友関係や電話を細かく監視される』では、“あった”と回答したのは、男性は6.8%、女性は9.6%であり、女性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の50代、60歳以上、女性の50代、60歳以上である。

G 交友関係や電話を細かく監視される（性別）



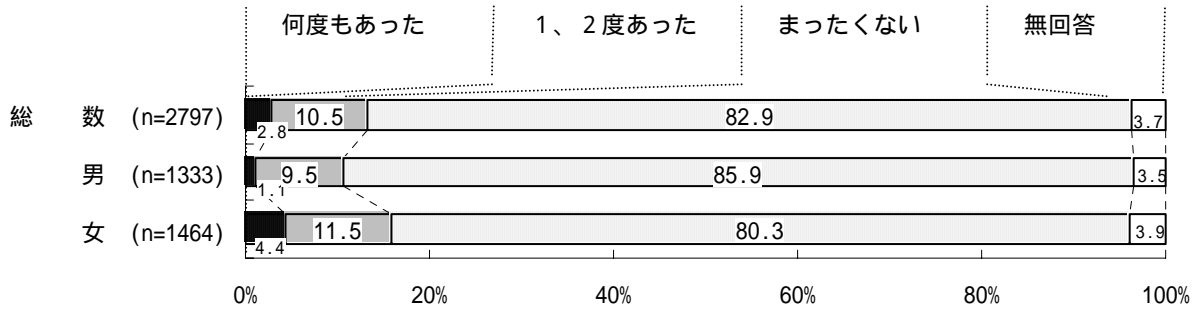
G 交友関係や電話を細かく監視される（性・年齢別）



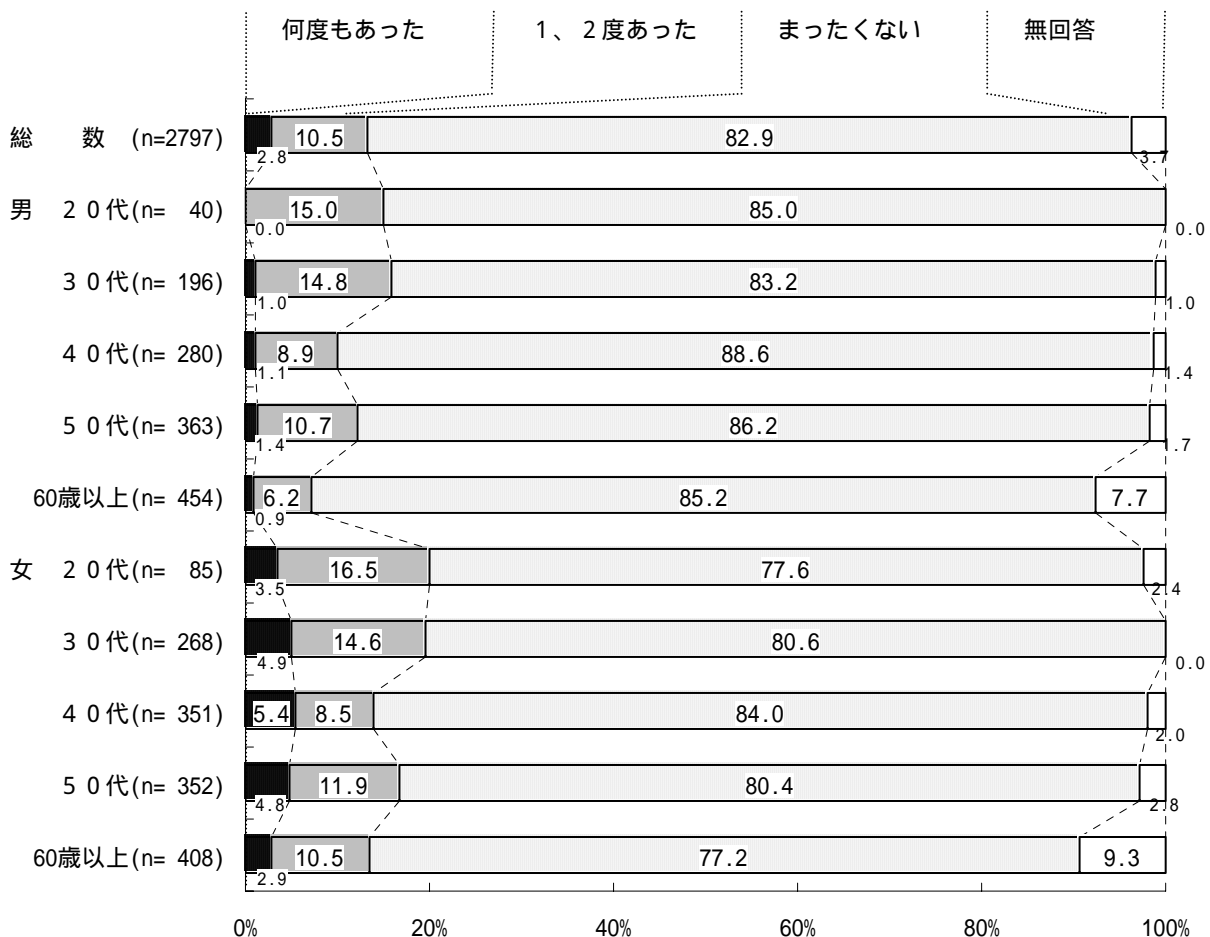
『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる』では、“あった”と回答したのは、男性は10.6%、女性は15.8%()であり、女性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の40代、60歳以上、女性の40代、60歳以上である。

H 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる（性別）



H 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる（性・年齢別）

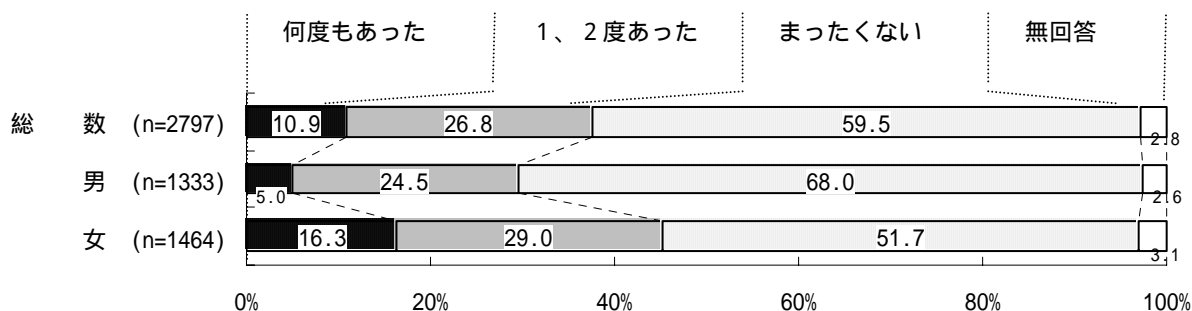


女性全体における「何度もあった」「1、2度あった」については、それぞれ4.4%、11.5%となっているが、その合計である“あった”については、この比率同士を合計したものではなく、実数同士を合計して該当数で割ったものを使用しているため、四捨五入により15.8%となっている。

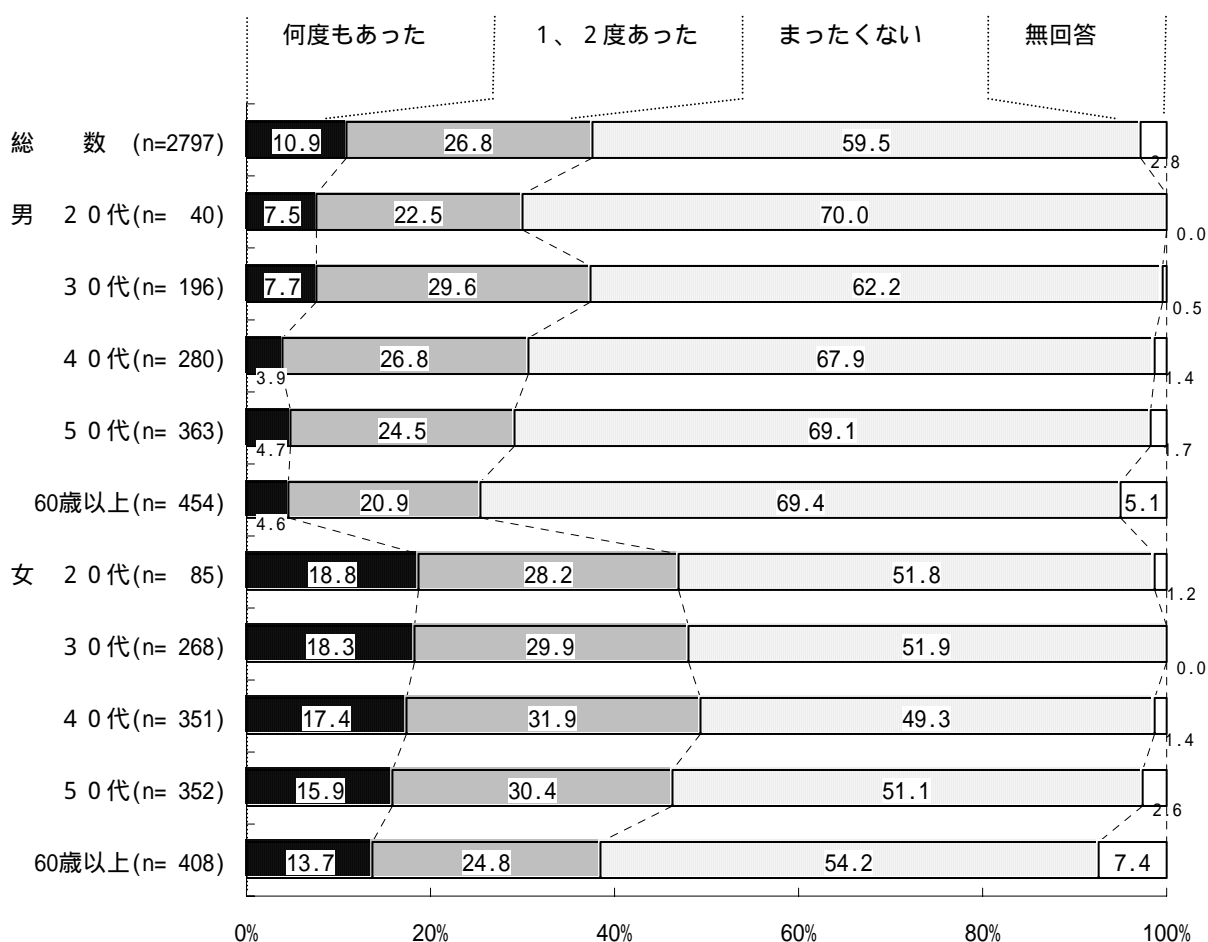
『大声でどなられる』では、“あった”と回答したのは、男性は29.5%、女性は45.2%()であり、女性の方が多くなっている。

また、“あった”と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の50代、60歳以上、女性の60歳以上である。

Ⅰ 大声でどなられる（性別）



Ⅰ 大声でどなられる（性・年齢別）



女性全体における「何度もあった」「1、2度あった」については、それぞれ16.3%、29.0%となっているが、その合計である“あった”については、この比率同士を合計したものではなく、実数同士を合計して該当数で割ったものを使用しているため、四捨五入により45.2%となっている。

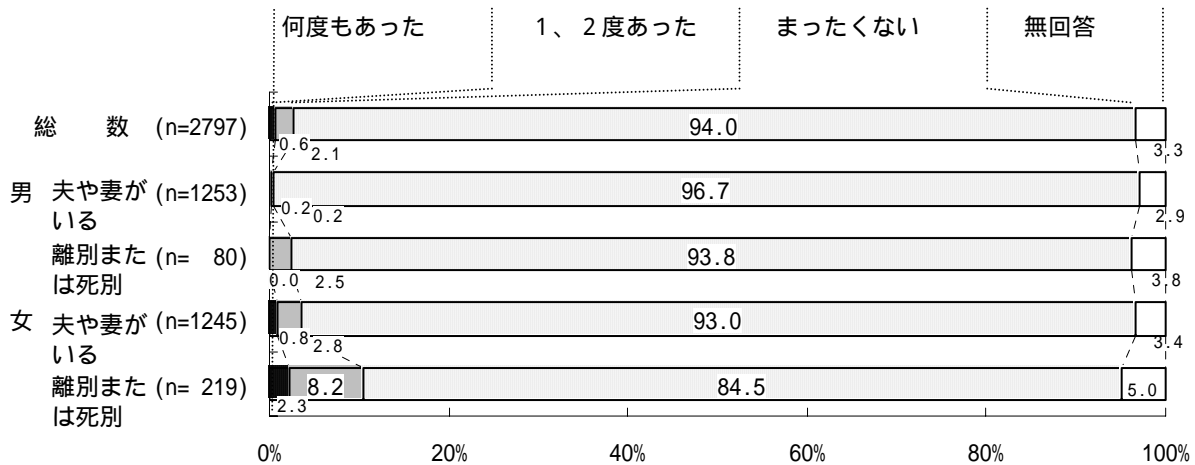
次に、各項目について性別及び問6における回答別(「現在、夫や妻がいる」または「過去に夫や妻がいたが、離別または死別したため、現在はいない」)でみる。

『あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる』における男性及び『大声でどなられる』における女性についてのみ、「現在夫や妻がいる」と回答した人の方が「過去に夫や妻がいたが、離別または死別したため、現在はいない」と回答した人よりも、“あった”と回答した割合が高い。

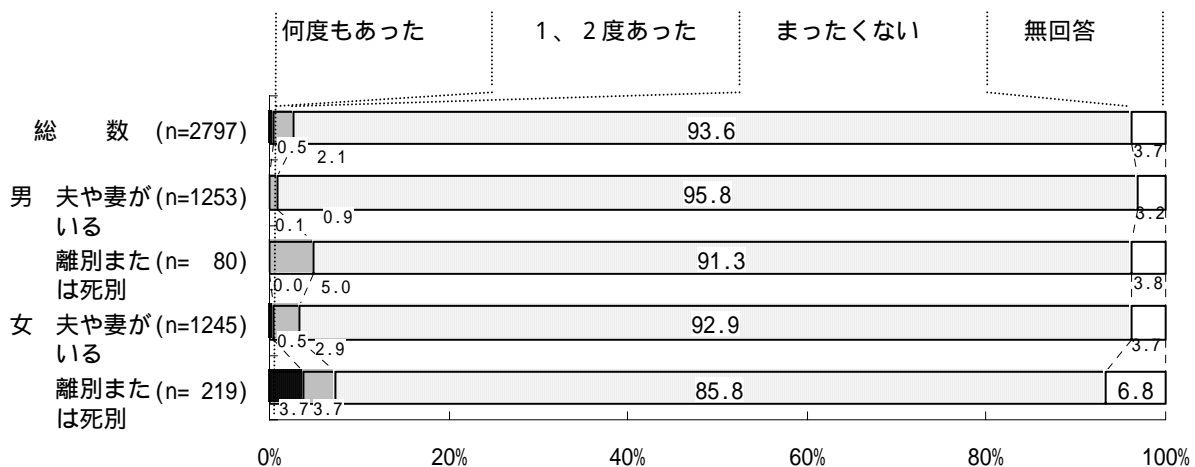
これ以外の類型では、すべて、「過去に夫や妻がいたが、離別または死別したため、現在はいない」と回答した人の方が「現在夫や妻がいる」と回答した人よりも、“あった”と回答した割合が高い。

問 15 あなたはこれまでに、あなたの夫や妻（事実婚や別居中を含む）から、次のようなことをされたことがありますか。次のAからIのそれぞれについて、1、2、3のどれか一つに をつけてください。

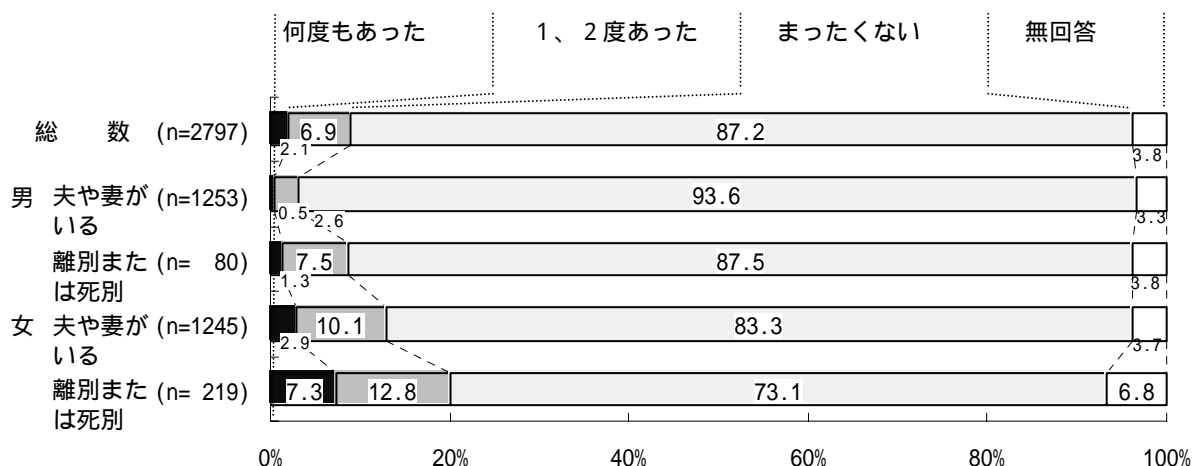
A 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける（未既婚別）



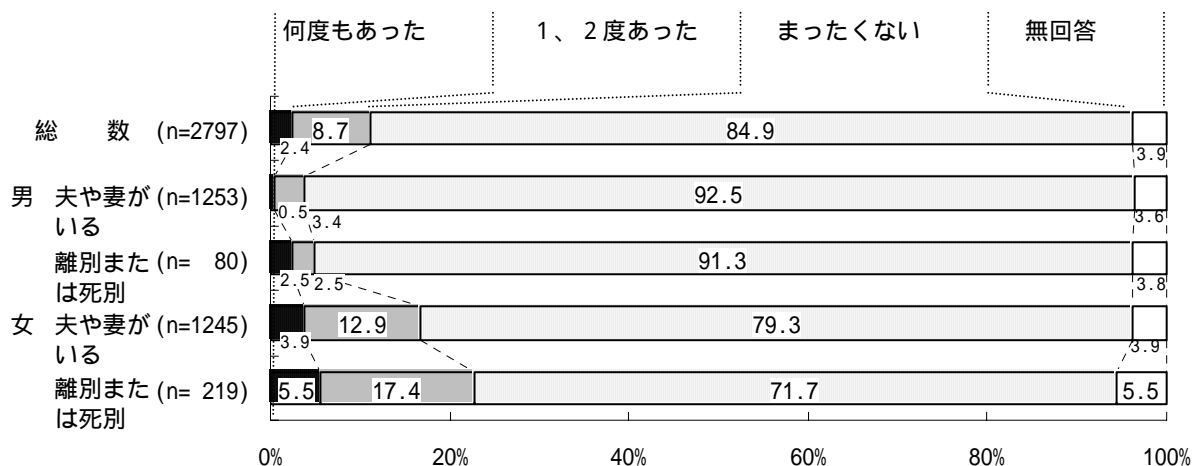
B 医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける（未既婚別）



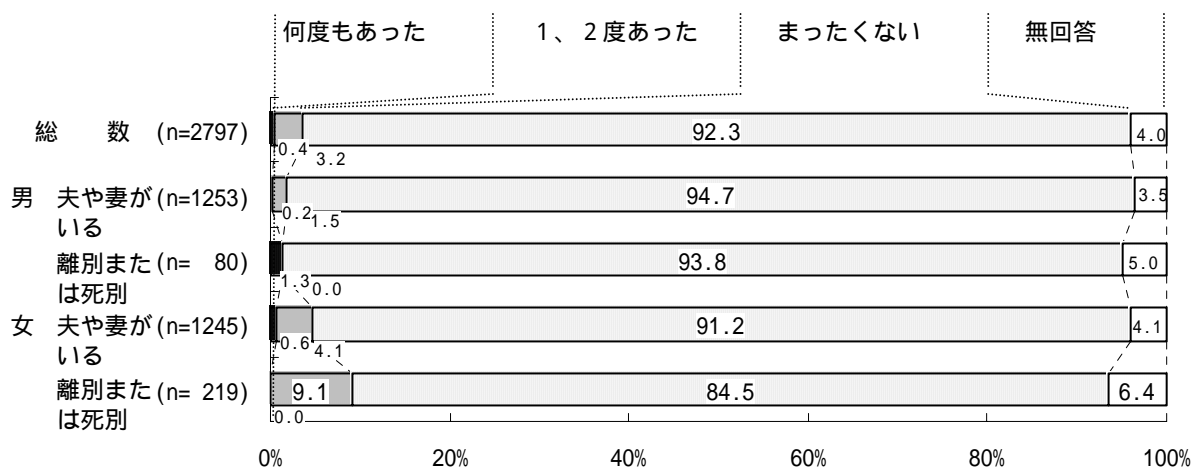
C 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける（未既婚別）



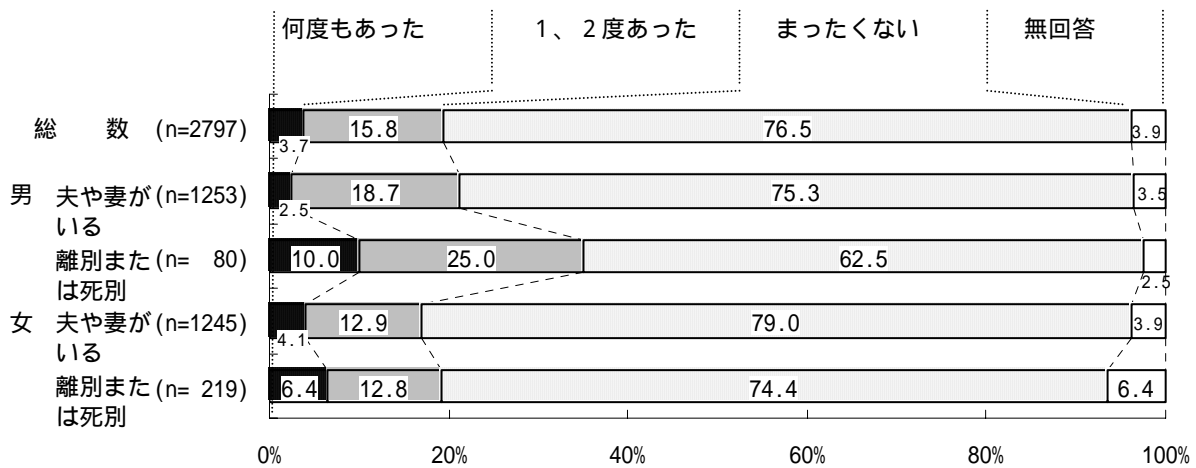
D あなたがいやがっているのに性的な行為を強要される（未既婚別）



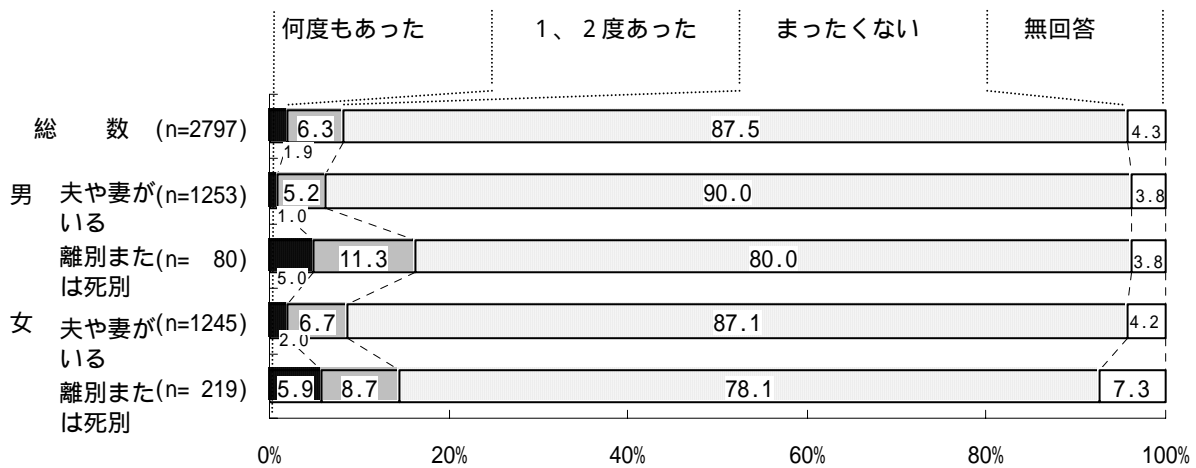
E あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる（未既婚別）



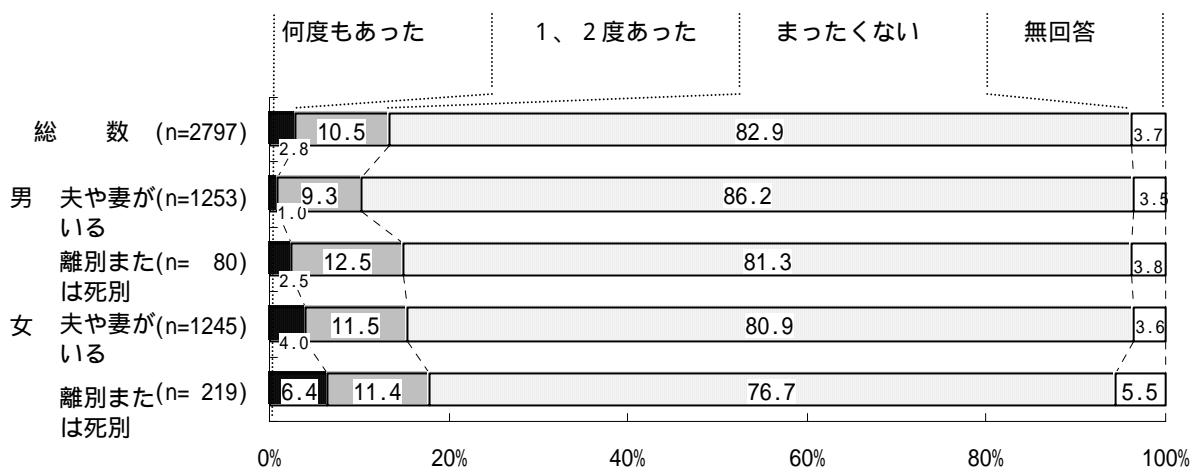
F 何を言っても無視され続ける（未既婚別）



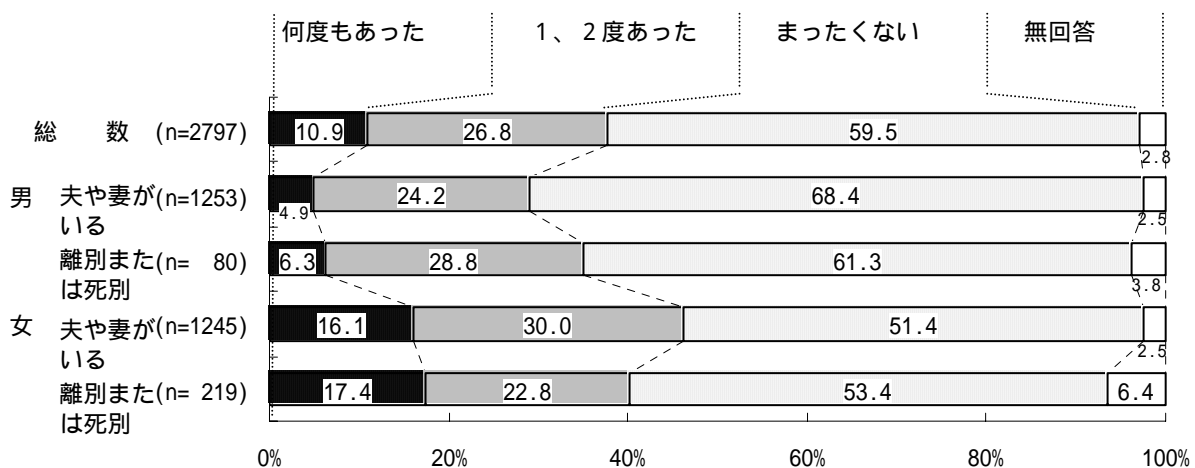
G 交友関係や電話を細かく監視される（未既婚別）



H 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる（未既婚別）



I 大声でどなられる (未既婚別)

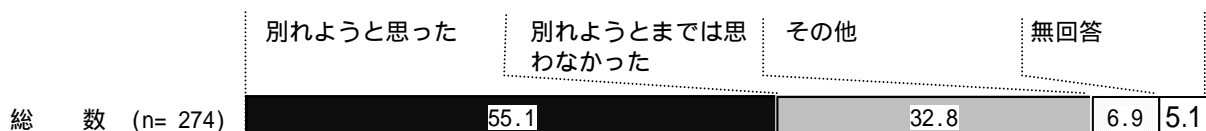


(4) 夫や妻から身体的な暴行を受けた時の気持ち……問 16

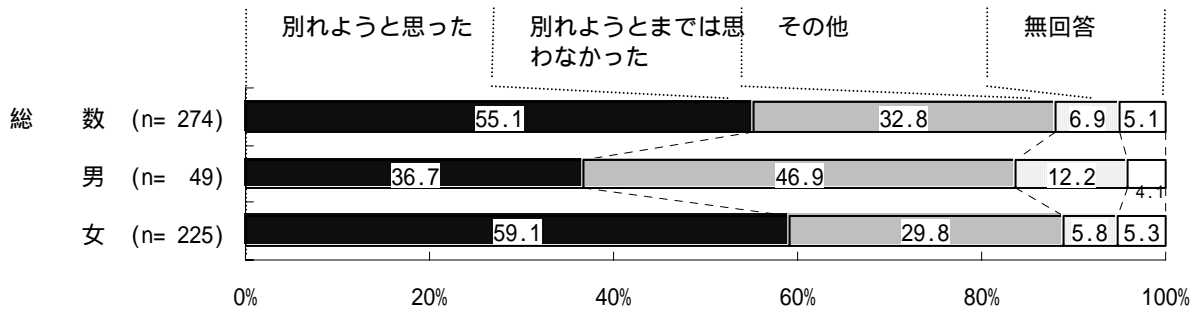
問 15 で「命の危険を感じるくらいの暴行を受ける」、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける」、「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける」について、ひとつでも「何度もあった」、「1、2度あった」と回答した人(274人)に、そのようなことをされたときの気持ちについて聞いたところ、「別れようと思った」は55.1%、「別れようとは思わなかった」は32.8%となっている。

〔問 15 の A、B、C のうち、ひとつでも 1、2 と答えた方にお聞きします。〕

問 16 あなたは、問 15 であげたようなことをあなたの夫や妻（事実婚や別居中を含む）からされたとき、どのように思いましたか。そのときのあなたの気持ちに一番近いものに一つだけをつけてください。



性別にみると、男性では「別れようと思った」(36.7%)より「別れようとは思わなかった」(46.9%)の方が多いのに対して、女性では「別れようとは思わなかった」(29.8%)より「別れようと思った」(59.1%)の方が多い。



(5) 夫や妻がいる(又はいたことのある)人全体と、そのうち身体的な暴行を受けた人との属性の比較現在夫や妻がいる、または、過去に夫や妻がいたが現在はいない、という人(問 15 への回答者)は 2797 人いる。

この人たちの属性と、配偶者(事実婚や別居中を含む。以下同じ)から身体的暴行を受けた 274 人(問 16 への回答者:問 15 において「命の危険を感じるくらいの暴行を受ける」、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける」、「医師の治療が必要とされない程度の暴行を受ける」について、ひとつでも「何度もあった」、「1、2 度あった」と回答した人)のそれとを比較した。

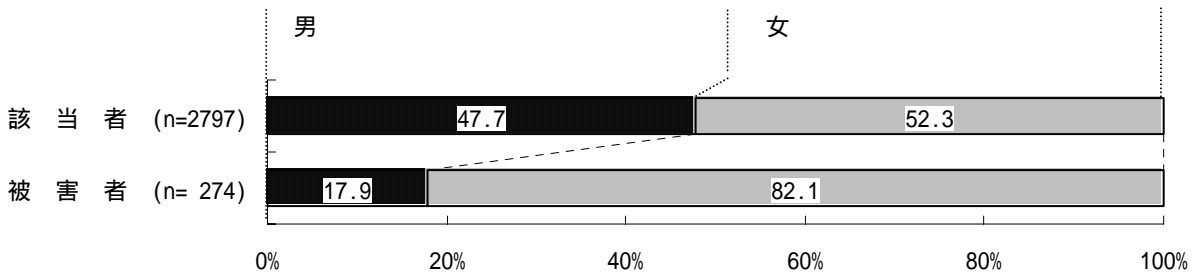
上記の 2797 人は、「現在配偶者がいる、又は過去に配偶者がいた」という条件に該当している人たちなので、ここでは、この人たちを「該当者」と呼ぶ。また、そのうち配偶者から身体的暴行を受けた人たちを「被害者」と呼ぶ。

性・年齢別比較

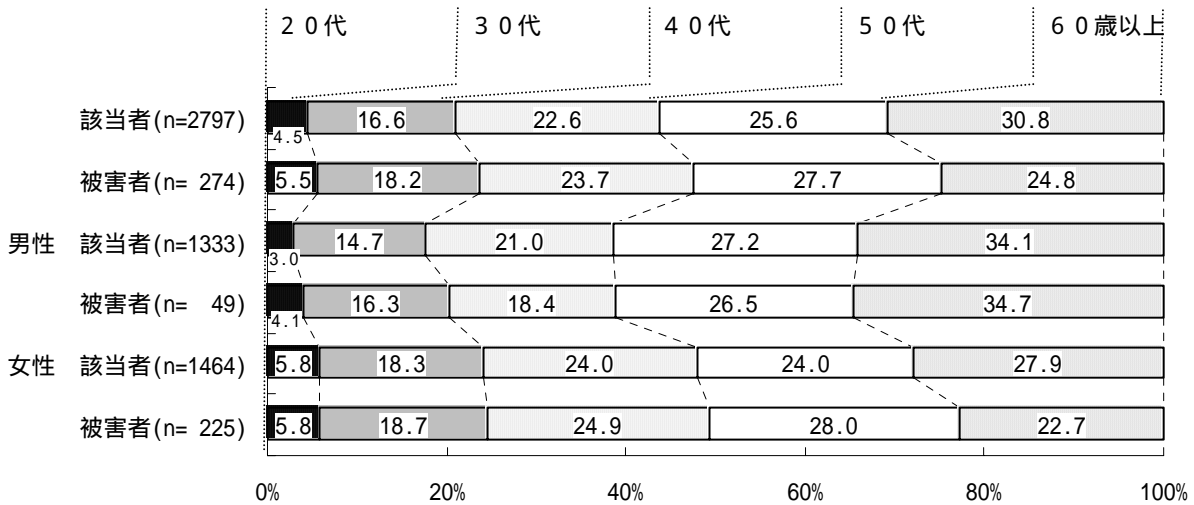
「該当者」では、男性 1333 人(47.7%)、女性 1464 人(52.3%)であるのに対し、「被害者」では、男性 49 人(17.9%)、女性 225 人(82.1%)である。

また、年代別では、「該当者」では、最も構成比が高いのは男女ともに 60 歳以上(男性:34.1%、女性:27.8%)であるが、「被害者」では最も構成比が高いのは、男性では 60 歳以上(34.7%)、女性では 50 代(28.0%)となっている。

問1 性別



問2 年齢



職業別比較

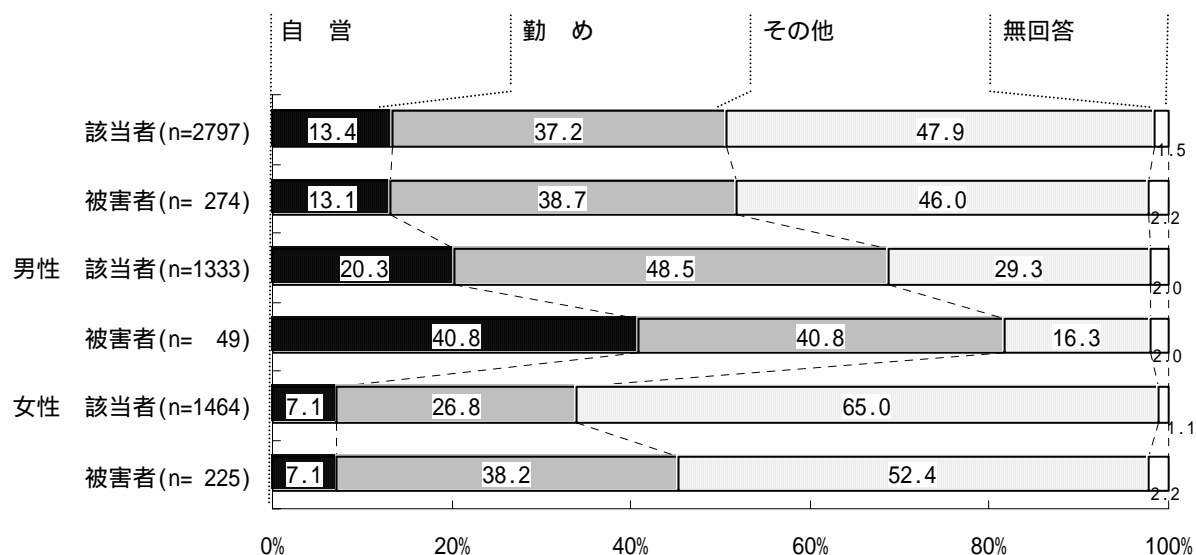
ここでは、職業を『自営業者』『勤め人』『その他』の3区分でみる。()

『自営業者』が占める割合についてみると、「該当者」では男性 20.3%、女性 7.1%であるが、「被害者」では、男性 40.8%、女性 7.1%となっており、男性で、「該当者」における割合に比べて「被害者」に占める割合が高くなっている。

『勤め人』が占める割合についてみると、「該当者」では男性 48.5%、女性 26.8%であるが、「被害者」では、男性 40.8%、女性 38.2%となっており、女性で、「該当者」における割合に比べて「被害者」に占める割合が高くなっている。

『その他』が占める割合についてみると、「該当者」では男性 29.3%、女性 65.0%であるが、「被害者」では、男性 16.3%、女性 52.4%となっており、男女とも、「該当者」における割合に比べて「被害者」に占める割合が低くなっている。

問3 職業

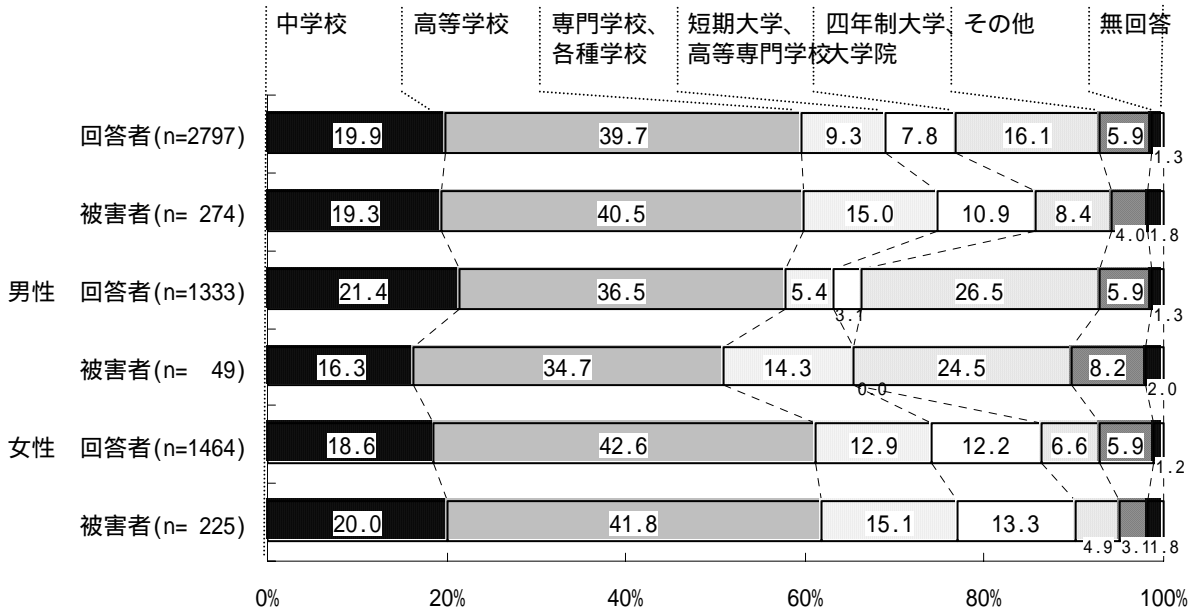


() 『自営業者』とは、問3における「農林漁業従事者」「商店や工場など事業所の経営者」「自由業」、
『勤め人』とは、「管理職」「専門的・技術的職業」「事務職」「商店の従業員」「労務・技能職」、『その他』とは、「専業主婦」「学生」「その他」のことである。

学歴別比較

「該当者」における割合に比べて、「被害者」における割合が高いのは、男性では『専門学校、各種学校』『その他』であり、女性では、『中学校』『専門学校、各種学校』『短期大学、高等専門学校』である。

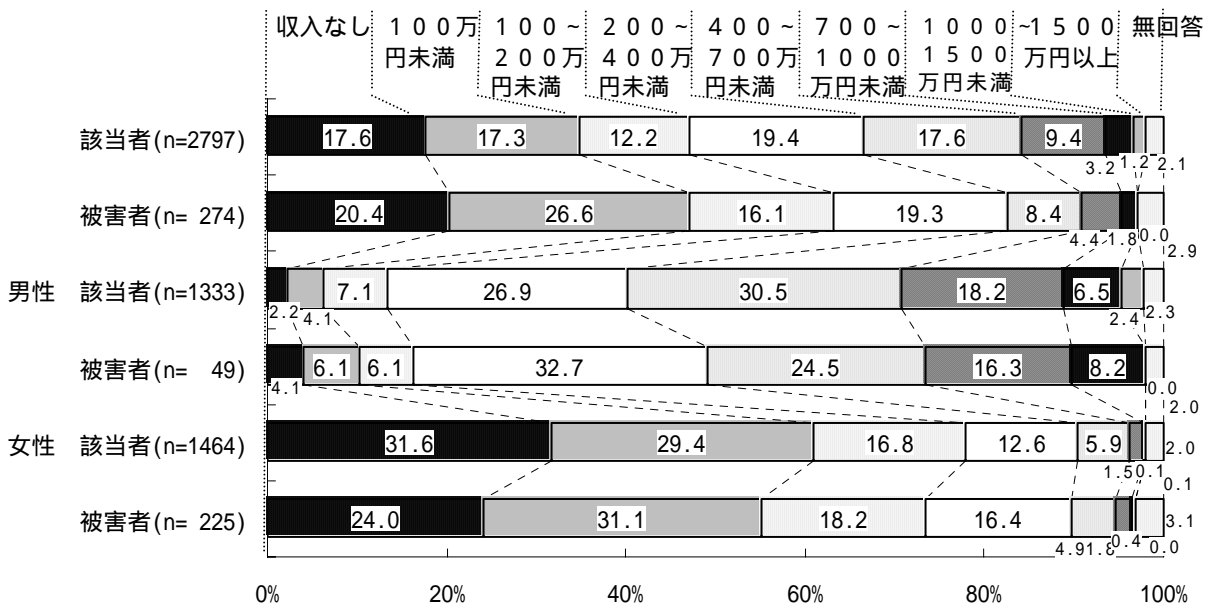
問4 最終学歴



収入別比較

「該当者」における割合に比べて、「被害者」における割合が高いのは、男性では『収入なし』『100万円未満』『200～400万円未満』『1000～1500万円未満』であり、女性では、『100万円未満』『100～200万円未満』『200～400万円未満』『700～1000万円未満』『1000～1500万円未満』である。

問5 年間収入



配偶者の性・年齢別比較

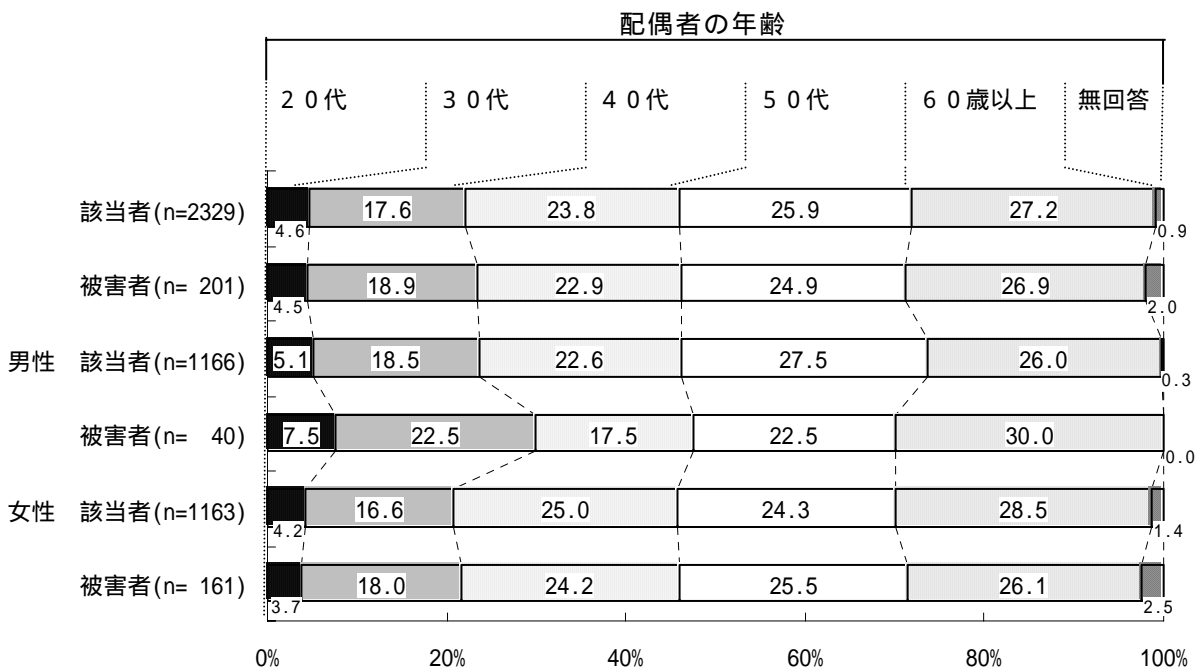
ここからは、身体的な暴行を行った配偶者の属性について分析する。過去に別の配偶者がいた場合、「身体的な暴行を行った配偶者」の属性だけを取り出した比較ができないため、「現在夫や妻がいる」又は「過去に夫や妻がいたが現在はいない」者2797人のうち、「過去に別の配偶者がいた」者を除いた2329人(男性1166人、女性1163人)を対象に、身体的な暴行を行った配偶者の属性を比較する。

この人たちの属性と、配偶者(事実婚や別居中を含む。以下同じ)から身体的暴行を受けた男性40人、女性161人の計201人(問16への回答者:問15において「命の危険を感じるくらいの暴行をうける」、「医師の治療が必要となる程度の暴行をうける」、「医師の治療が必要とされない程度の暴行をうける」について、ひとつでも「何度もあった」、「1、2度あった」と回答した人)のそれとを比較した。

上記の2329人は、「現在配偶者がいる、又は過去に配偶者がいた」と言う条件に該当している人たちなので、ここでは、この人たちを「該当者」と呼ぶ。また、そのうち配偶者から身体的暴行を受けた人たちを「被害者」と呼ぶ。

配偶者の年代別では、「該当者」では、最も構成比が高いのは、男性50代(27.5%)、女性60歳以上(28.5%)であるが、「被害者」では、最も構成比が高いのは、男性60歳以上(30.0%)、女性60歳以上(26.1%)である。

問7 配偶者の年齢
(問11=2)



配偶者の職業別比較

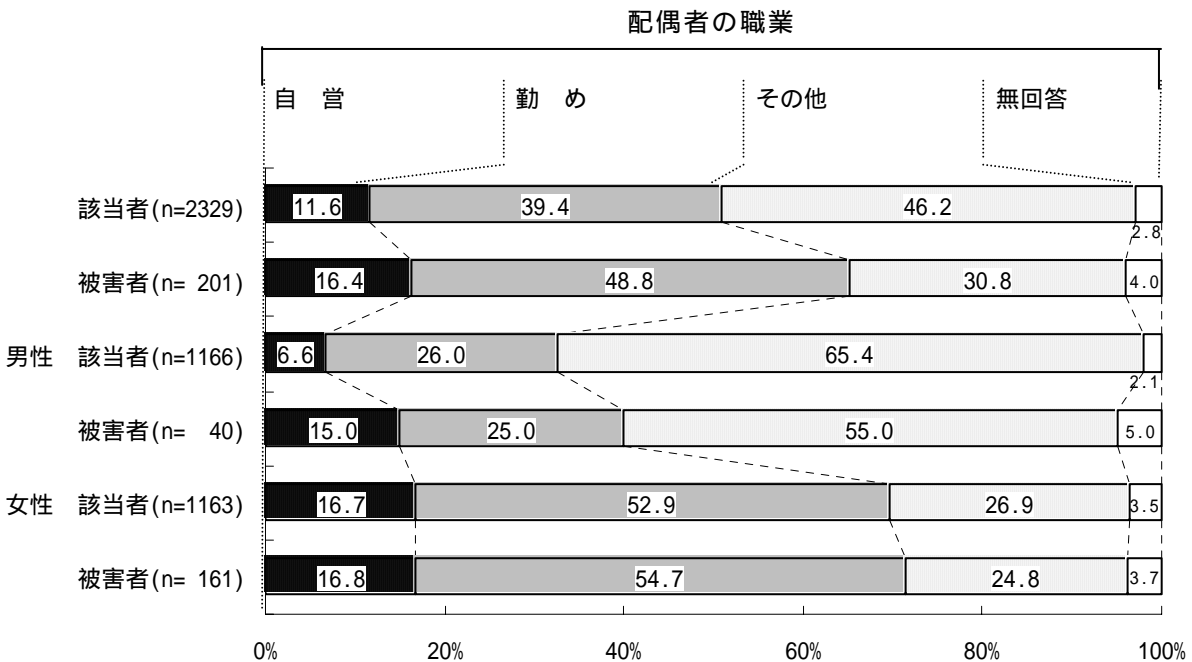
ここでは、本人の属性同様、配偶者の職業を『自営業者』『勤め人』『その他』の3区分でみてみる。()

『自営業者』が占める割合についてみると、「該当者」では男性 6.6%、女性 16.7%であるが、「被害者」では、男性 15.0%、女性 16.8%となっており、男性で、「該当者」における割合に比べて「被害者」に占める割合が高くなっている。

『勤め人』が占める割合についてみると、「該当者」では男性 26.0%、女性 52.9%であるが、「被害者」では、男性 25.0%、女性 54.7%となっている。

『その他』が占める割合についてみると、「該当者」では男性 65.4%、女性 26.9%であるが、「被害者」では、男性 55.0%、女性 24.8%となっており、男性で、「該当者」における割合に比べて「被害者」に占める割合が低くなっている。

問8 配偶者の職業 (問11=2)



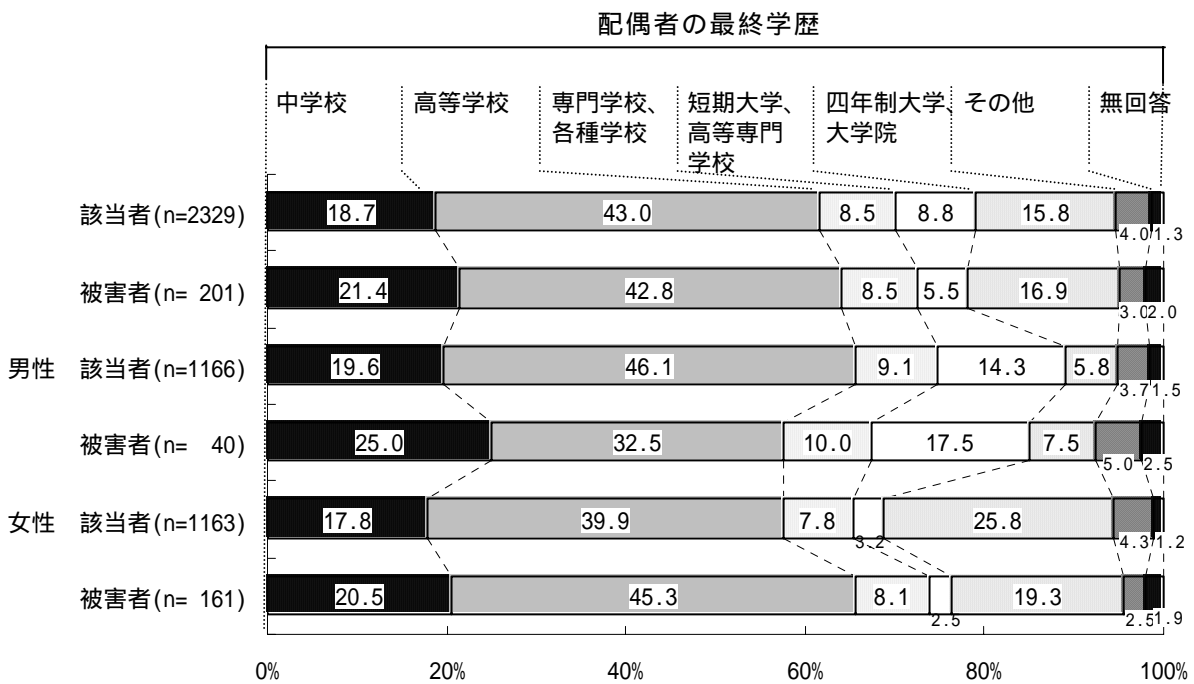
() 『自営業者』とは、問8における「農林漁業従事者」「商店や工場など事業所の経営者」「自由業」、
『勤め人』とは、「管理職」「専門的・技術的職業」「事務職」「商店の従業員」「労務・技能職」、
『その他』とは、「専業主婦」「学生」「その他」のことである。

配偶者の学歴別比較

「該当者」における割合と「被害者」における割合を比較すると、男性では、配偶者の学歴が『高等学校』であるものが「被害者」に占める割合は低くなっているが、それ以外の場合では割合が高くなっている。

女性では、配偶者の学歴が『短期大学、高等専門学校』『四年制大学、大学院』『その他』であるものの割合が「被害者」に占める割合は低くなっているが、それ以外の場合では割合が高くなっている。

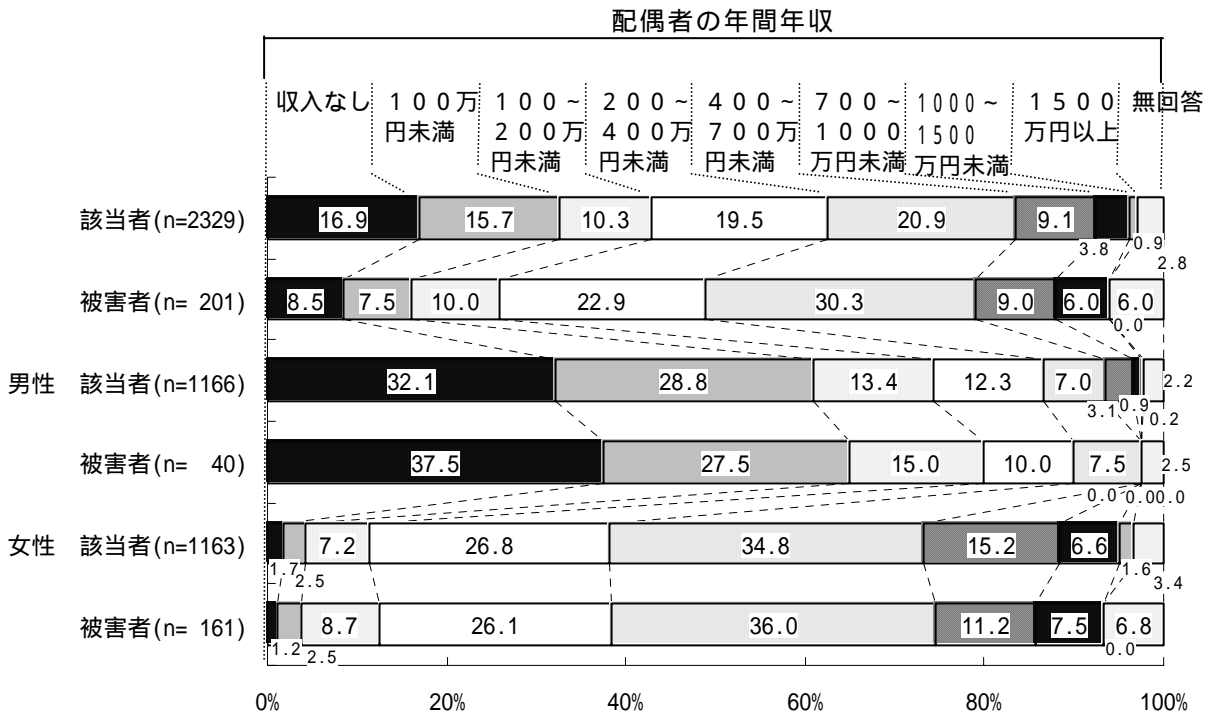
問9 配偶者の最終学歴
(問 11=2)



配偶者の収入別比較

「該当者」における割合に比べて、「被害者」における割合が高いのは、男性では、配偶者の収入が『収入なし』『100～200万円未満』『400～700万円未満』であり、女性では、配偶者の収入が『100～200万円未満』『400～700万円未満』『1000～1500万円未満』である。

問 10 配偶者の年間収入
(問 11=2)

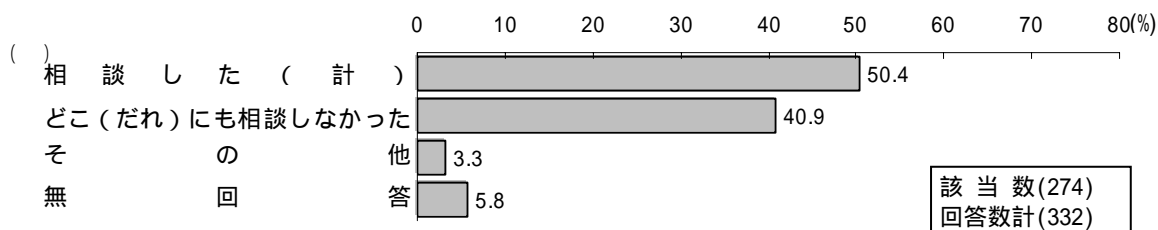
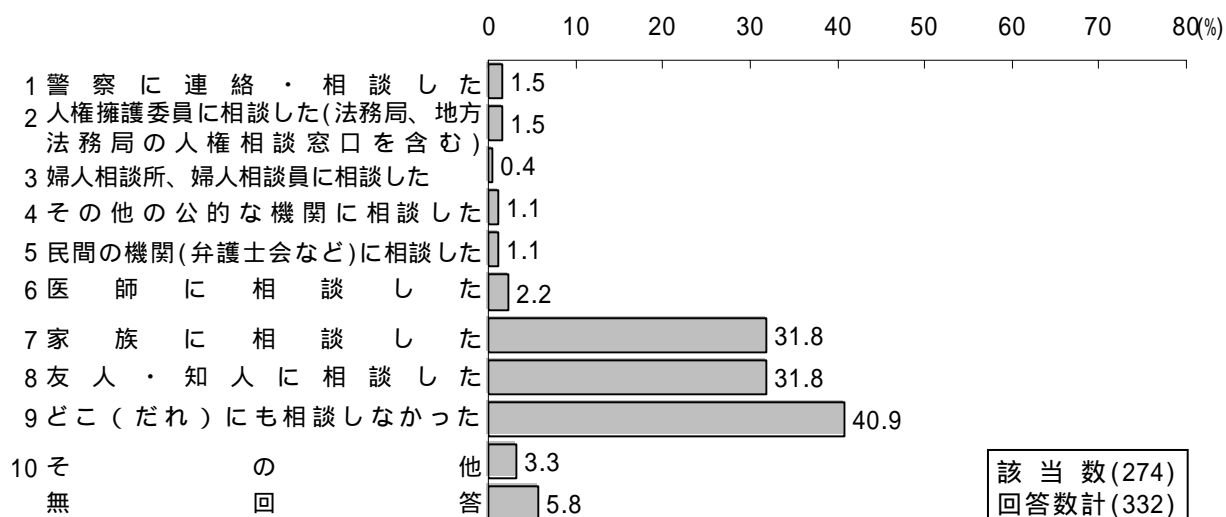


(6) 身体的な暴行被害の相談の有無……問 17

「あなたはこれまでに、あなたの夫や妻から、次のようなことをされたことがありますか」と聞いた中で「命の危険を感じるくらいの暴行をうける」、「医師の治療が必要となる程度の暴行をうける」、「医師の治療が必要とならない程度の暴行をうける」について、ひとつでも「何度もあった」、「1、2度あった」と回答した人(274人)に、そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したかを聞いた。

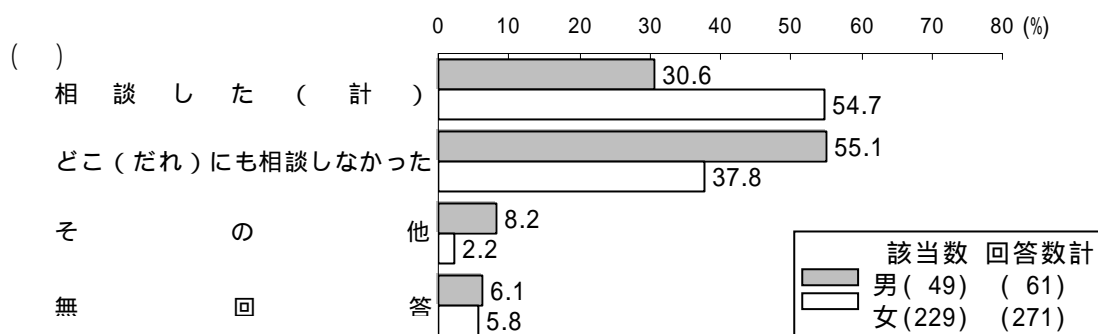
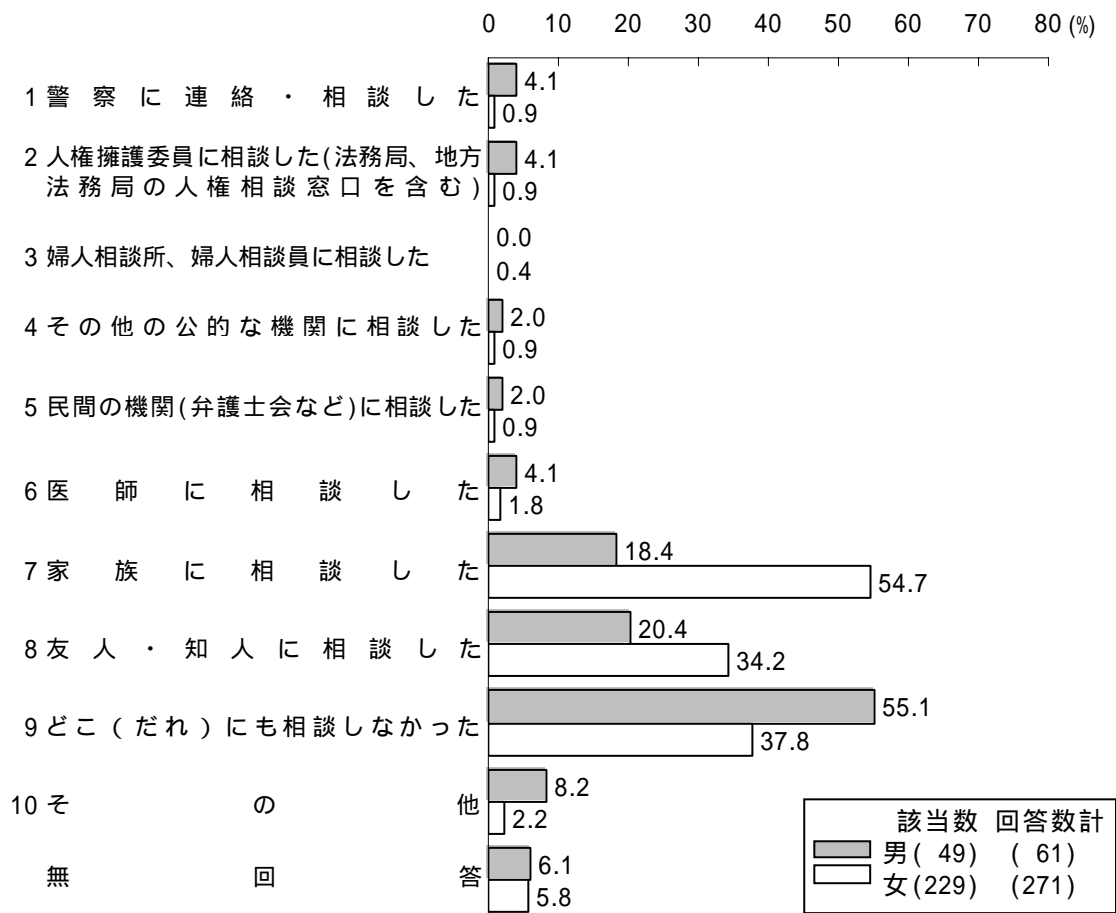
何らかの“相談をした”()人は50.4%と、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(40.9%)人を上回っている。何らかの“相談をした”の内訳は、「友人・知人に相談した」(31.8%)と「家族に相談した」(31.8%)に集中し、他はいずれも2%台以下の割合となっている。

〔問 15 の A、B、C のうち、ひとつでも 1、2 と答えた方にお聞きします。〕
 問 17 あなたはこれまでに、問 15 であげたような夫や妻(事情婚や別居中を含む)からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。当てはまるものすべてに をつけてください。



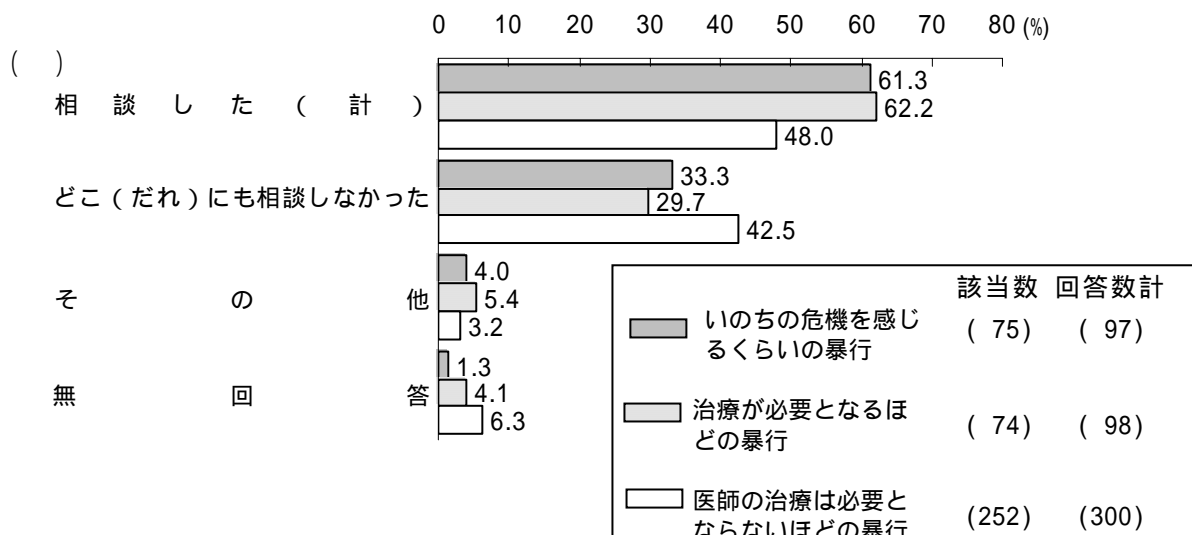
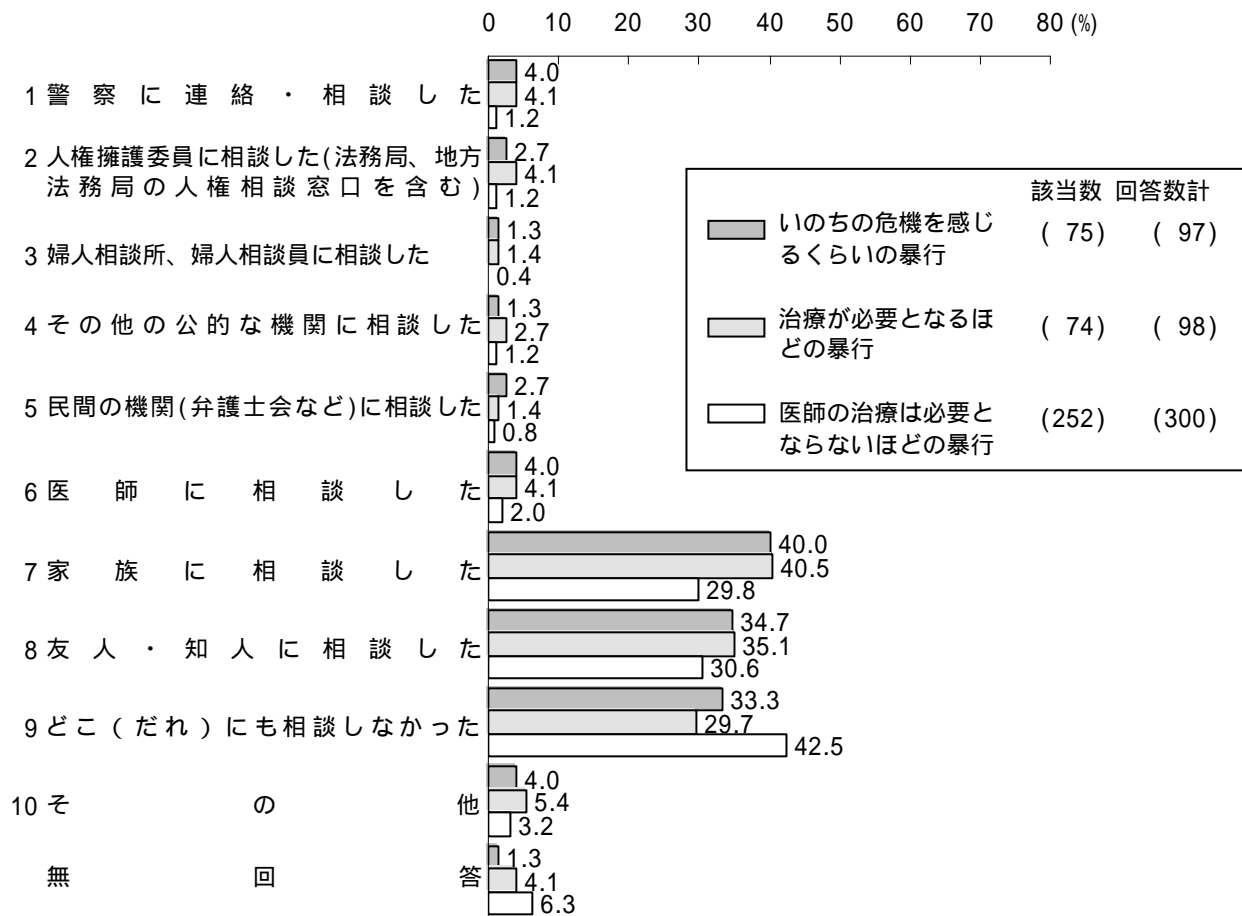
〔 選択肢のうち1~8までを選んだ人で、かつ10を選んだ人がいるため、合計が100%を超える。〕
 “相談した”人は、選択肢のうち、1~8までを選んだ人をさす。〕

性別にみると、何らかの“相談をした()”人は女性(54.7%)が男性(30.6%)を上回っている。



〔 選択肢のうち1~8までを選んだ人で、かつ10を選んだ人がいるため、合計が100%を超える。
“相談した”人は、選択肢のうち、1~8までを選んだ人をさす。 〕

また、「あなたはこれまでに、あなたの夫や妻から、次のようなことをされたことがありますか」と聞いた中で「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける」に“あった”と回答した人のうち、どこ(だれ)かに相談した人の比率(48.0%)は、「命の危険を感じるくらいの暴行を受ける」(61.3%)または「医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける」(62.2%)と回答した人よりも低くなっている。



〔 選択肢のうち1~8までを選んだ人で、かつ10を選んだ人がいるため、合計が100%を超える。〕
 “相談した”人は、選択肢のうち、1~8までを選んだ人をさす。〕

(7) 身体的な暴行被害の相談の結果.....問 18

「あなたはこれまでに、問 15 であげたような夫や妻からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか」と聞いた中で「警察に連絡・相談した」、「人権擁護委員に相談した」、「婦人相談所、婦人相談員に相談した」、「その他の公的な機関に相談した」、「民間の機関(弁護士会など)に相談した」と回答した人に、相談した結果について聞いた。

この問については回答数が非常に少なく、実数のみを掲げる。

〔問 17 で 1、2、3、4、5 と答えた方にお聞きします。〕
 問 18 相談などの結果、どうなりましたか。次の A から E のそれぞれについて、1 から 7 のどれか一つに をつけてください。

	該 当 数	相 談 を き っ か に 問 題 が 解 決 さ れ た	相 談 に 誠 実 に 対 応 し て も ら っ た が、 問 題 は 解 決 し な か っ た	解 決 の 手 助 け を し て も ら っ た が、 効 果 が 薄 い と 思 わ れ た の で 途 中 で 対 応 を や め て も ら っ た	自 ら 途 中 で 対 応 を や め て も ら っ た	当 者 の 言 動 に よ り 不 快 な 思 い を し た	解 決 の 手 助 け を し て も ら っ た が、 途 中 で 対 応 を や め て も ら っ た	中 で 対 応 を や め て も ら っ た 分 や 加 害 者、 家 族 の こ と を 考 え、 自 ら 途 中 で 対 応 を や め て も ら っ た	相 談 し た が 対 応 し て く れ な か っ た は な か っ た 、 あ る い は、 期 待 ど お り の 対 応 で な か っ た	そ の 他	無 回 答
A 警察に連絡・相談した	4	-	1	-	-	-	-	2	-	-	1
B 人権擁護委員に相談した(法務局、地方法務局の人権相談窓口を含む)	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
C 婦人相談所、婦人相談員に相談した	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
D その他の公的な機関に相談した	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1
E 民間の機関(弁護士会など)に相談した	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-

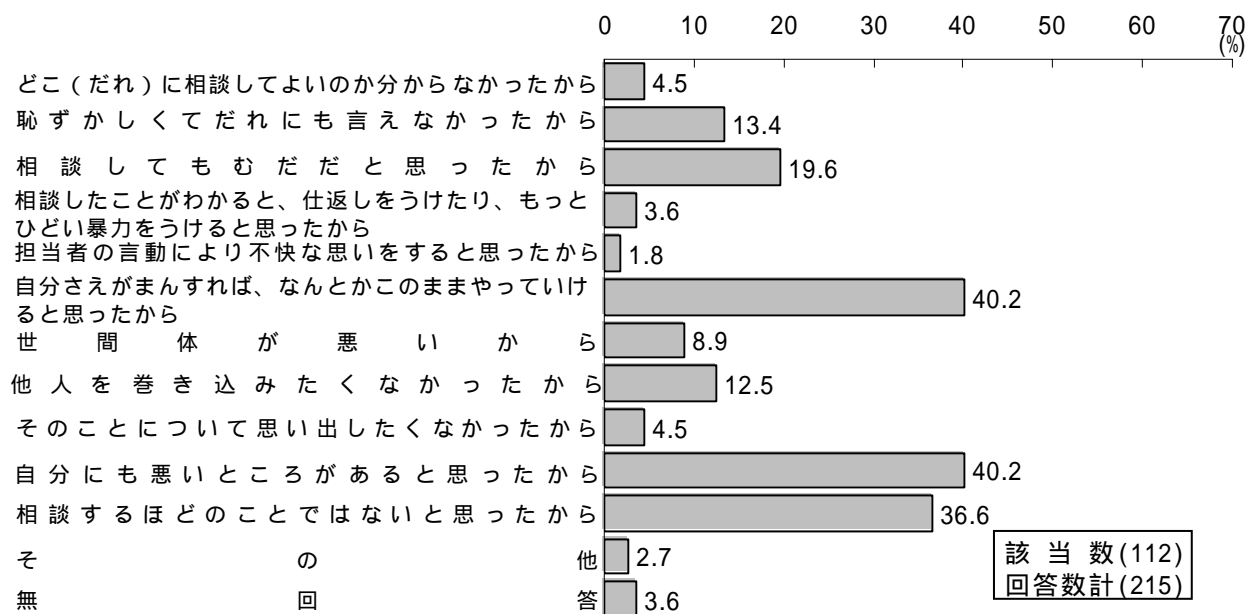
(8) 身体的な暴行被害を相談しなかった理由.....問 19

「あなたはこれまでに、夫や妻からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか」と聞いた中で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した人(112人)に、その理由を聞いた。

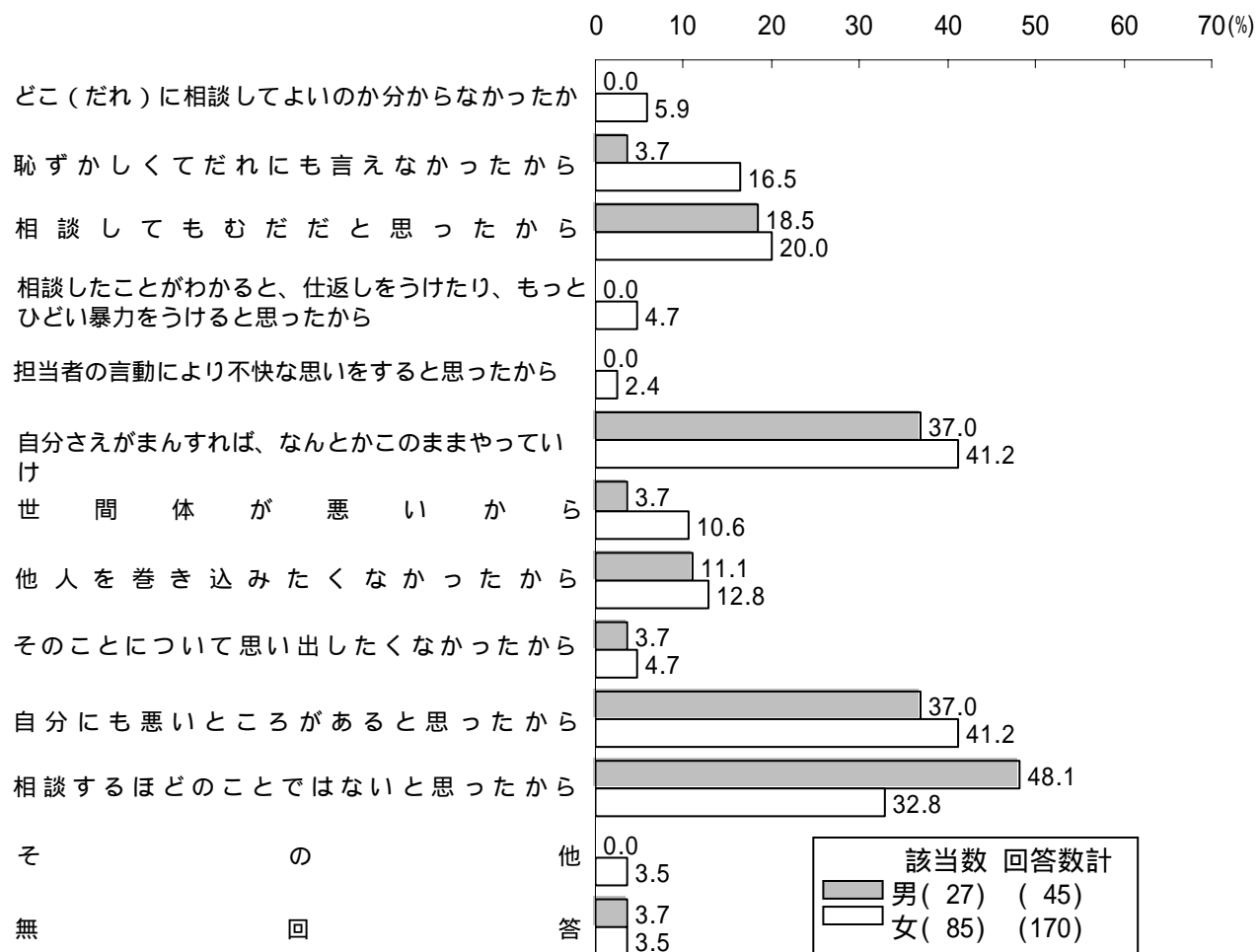
「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と「自分にも悪いところがあると思ったから」がともに 40.2%と最も多くなっている。

〔問 17 で 9 と答えた人にお聞きします。〕

問 19 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。当てはまるものすべてに をつけて ください。



性別で見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」のみ、女性(32.9%)より男性(48.1%)に多くなっている。



2 つきまとい行為について

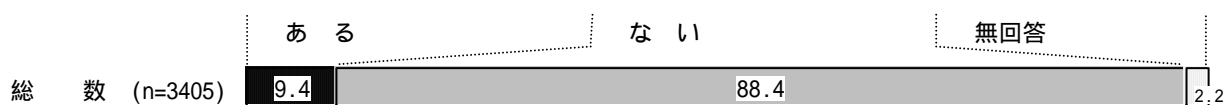
(1) 被害経験の有無……問 20

ある特定の異性にしつこく、つきまとわれた経験の有無について聞いた。

「ある」が9.4%、「ない」が88.4%となっている。

〔男性・女性ともに、全員の方にお聞きします。〕

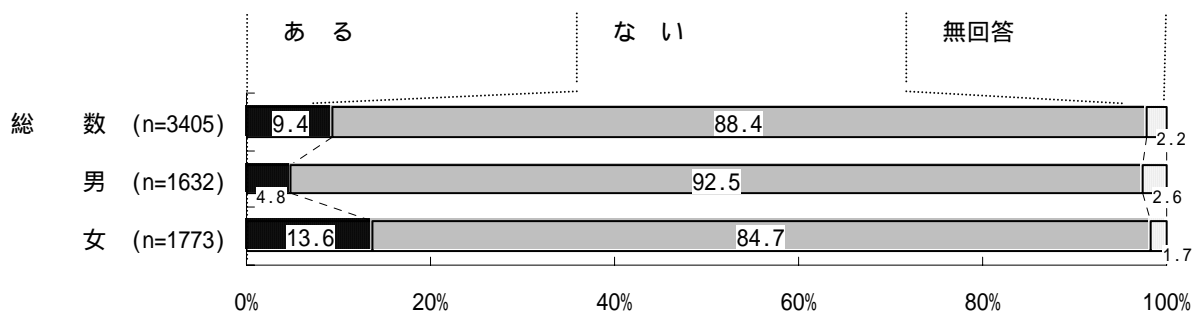
問 20 あなたはこれまでに、あなたはいやなのに、ある特定の異性にしつこく、つきまとわれたことがありますか。



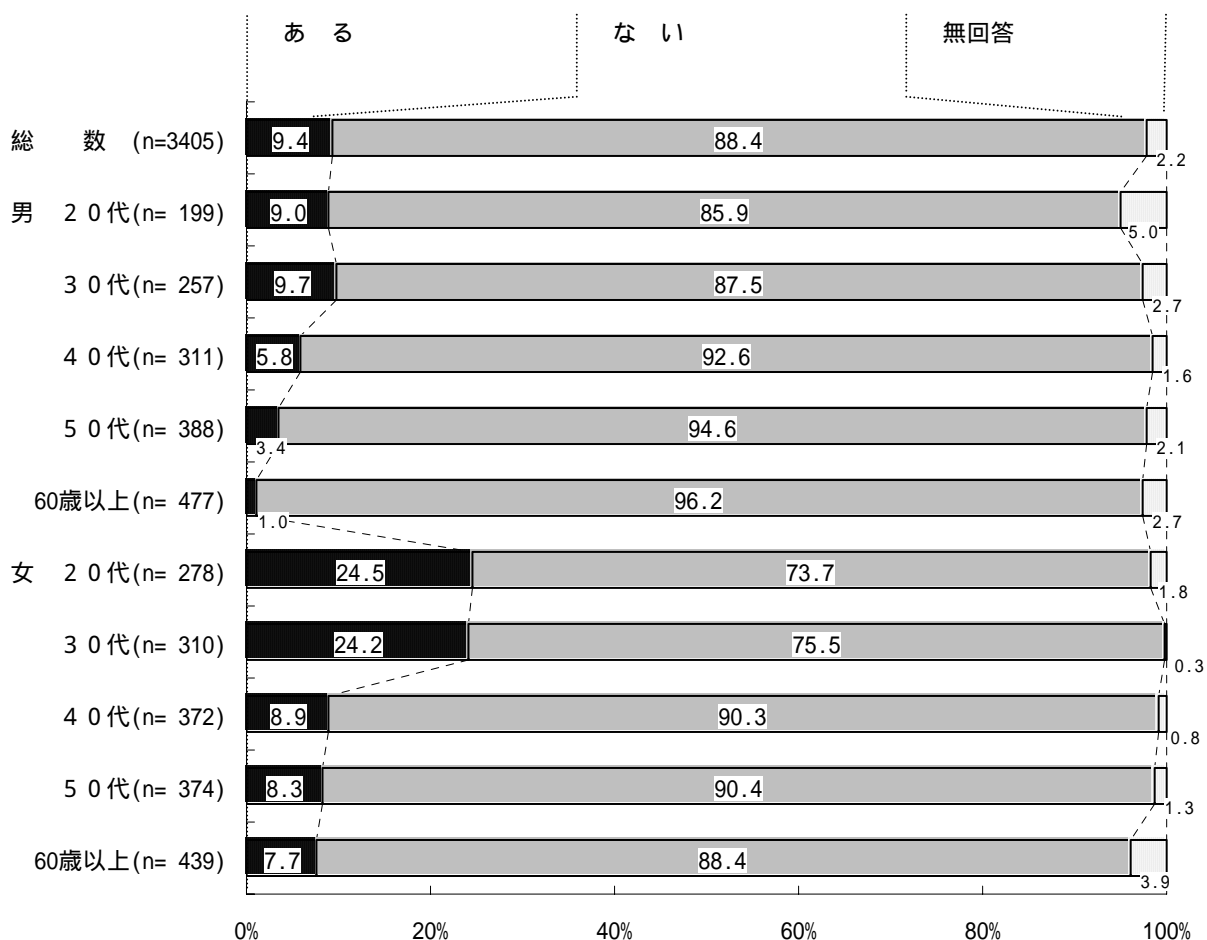
性別で見ると、「ある」と回答した人は、男性で4.8%、女性で13.6%であり、女性の方が多くなっている。

また、性・年代別では、「ある」と回答した人の割合が、男性・女性それぞれの回答者全体におけるその割合より低いのは、男性の50代、60歳以上、女性の40代、50代、60歳以上である。

つきまとわれた経験（性別）



つきまとわれた経験（性・年齢別）



(2) 加害者との関係.....問 21

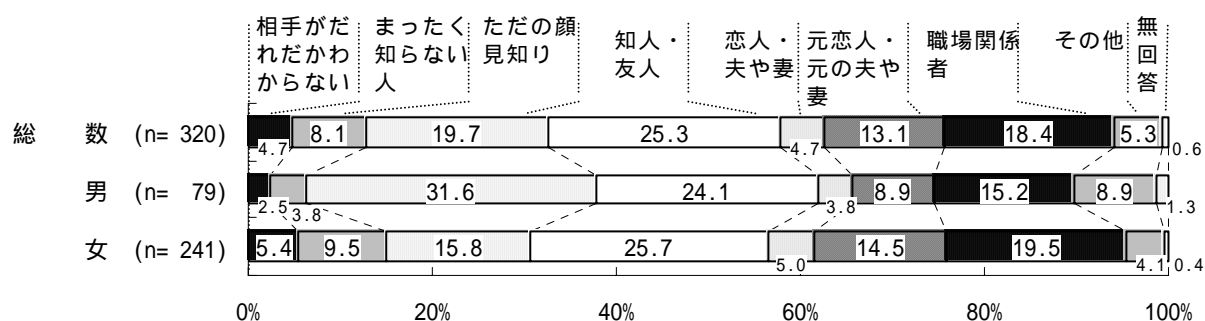
ある特定の異性にしつこく、つきまとわれた経験について、「ある」と回答した人に、その相手とどのような関係であったかを聞いた。

「ただの顔見知り」「友人・知人」「恋人・夫や妻」「元恋人・元の夫や妻」「職場関係者」といった、面識ある相手によるものが 81.2%となっている。

男女別では、男性では「ただの顔見知り」(31.6%)が最も多いが、女性では「知人・友人」(25.7%)が最も多くなっている。

〔問 20 で 1 と答えた方にお聞きします。〕

問 21 そのとき、その相手はあなたとどのような関係でしたか。もっともよく当てはまるもの一つだけ をつけてください。



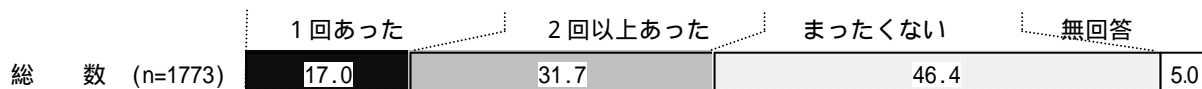
3 痴漢について……問 22

女性(1773人)に、交通機関などの中や路上などで痴漢の被害に遭った経験の有無について聞いた。

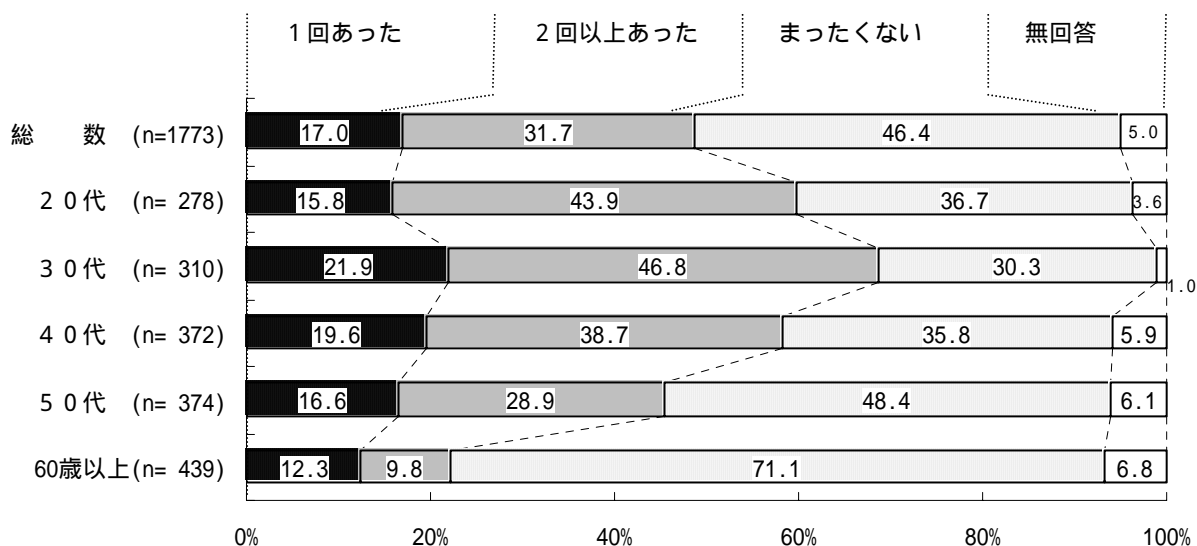
「1回あった」(17.0%)と「2回以上あった」(31.7%)を合わせた“あった”は48.7%となっており、約半数の人に被害の経験がある。

〔女性の方にお聞きします。〕

問 22 あなたはこれまでに、交通機関などの中や路上などで痴漢の被害に遭ったことがありますか。



年齢別にみると、“あった”は30代(68.7%)に最も多くなっている。



4 性的行為の強要について

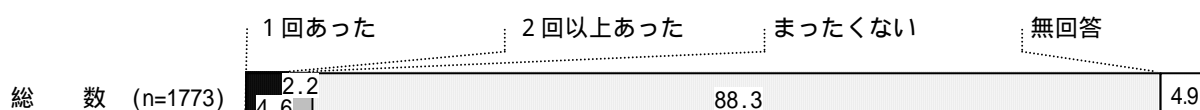
(1)被害経験の有無……問 23

女性(1773人)に、「あなたはこれまでに、異性から、おどされたり、押さえつけられたり、凶器を用いたりして、いやがっているのに性的な行為を強要されたことがありますか」と聞いた。

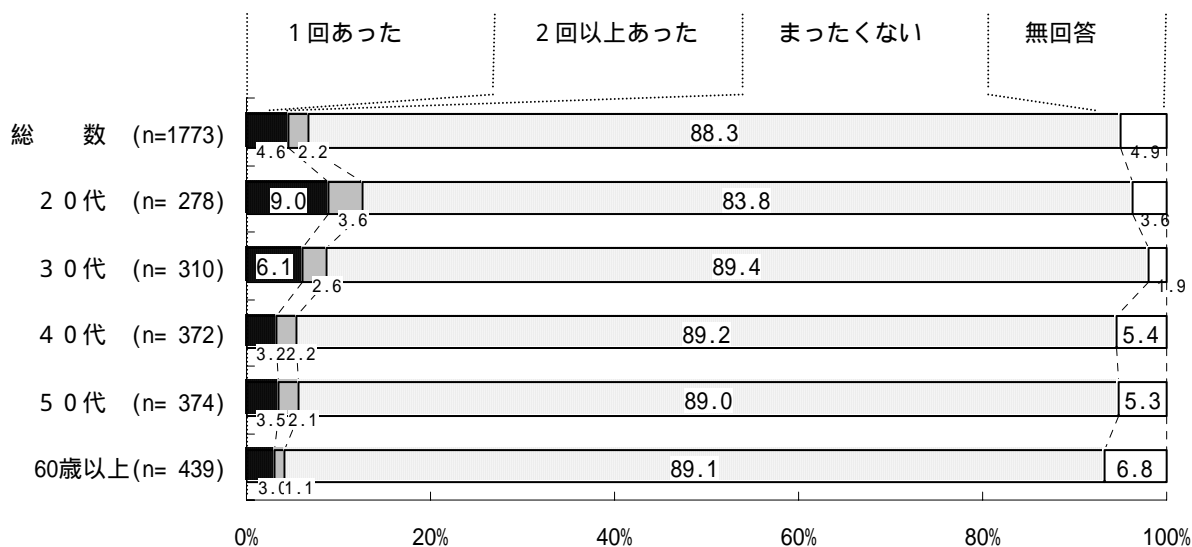
「1回あった」(4.6%)と「2回以上あった」(2.2%)を合わせた“あった”は6.8%となっている。

〔女性の方にお聞きします。〕

問 23 あなたはこれまでに、異性から、おどされたり、押さえつけられたり、凶器を用いたりいやがっているのに性的な行為(わいせつな行為や性交)を強要されたことがありますか(ただし、問 22 であげたような痴漢の被害は除く。)



年齢別にみると、“あった”は20代(12.6%)に最も多くなっている。

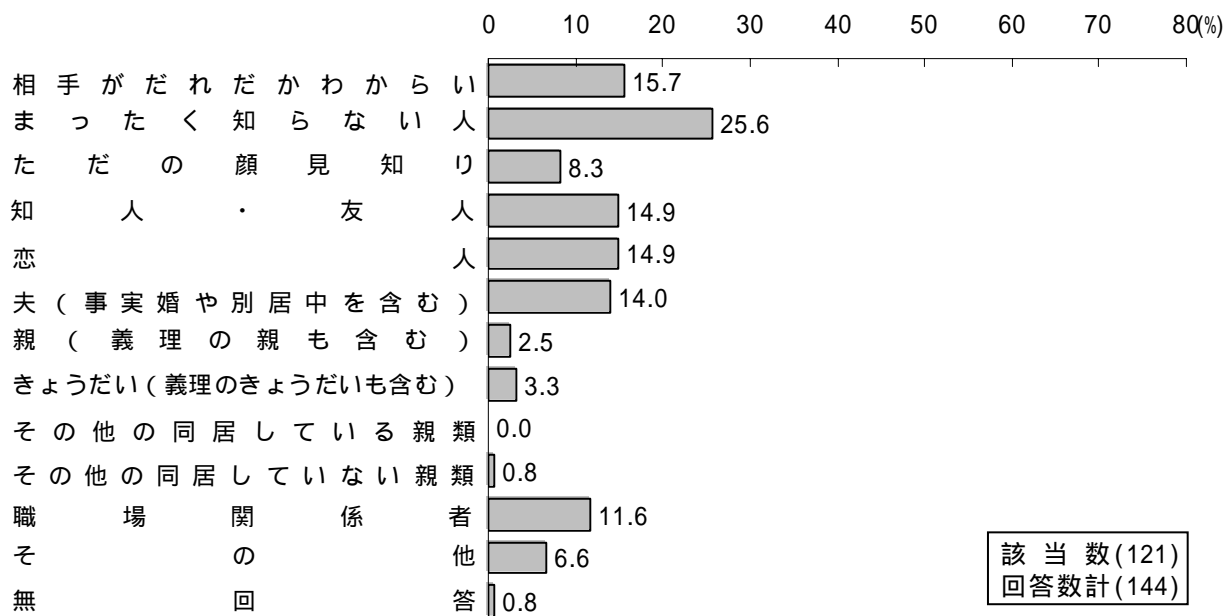


(2) 加害者との関係.....問 24

異性から、いやがっているのに性的な行為を強要された経験の有無について聞いた中で、「1 回あった」、「2 回以上あった」と回答した女性に、その相手とどのような関係であったかについて聞いた。「まったく知らない人」が 25.6%と最も多くなっているが、「ただの顔見知り」「友人・知人」「恋人」「夫」「親」「きょうだい」「その他の同居していない親類」「職場関係者」といった、面識ある相手によるものも多い。

〔問 23 で 1、2 と答えた方にお聞きします。〕

問 24 その出来事があったとき、その相手はあなたとどのような関係でしたか。当てはまるものすべてに をつけてください。



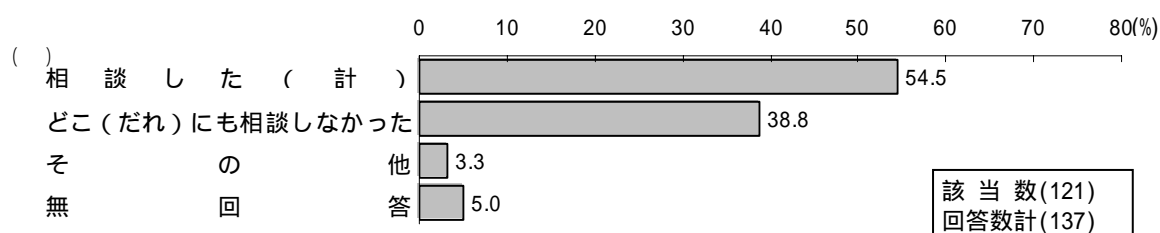
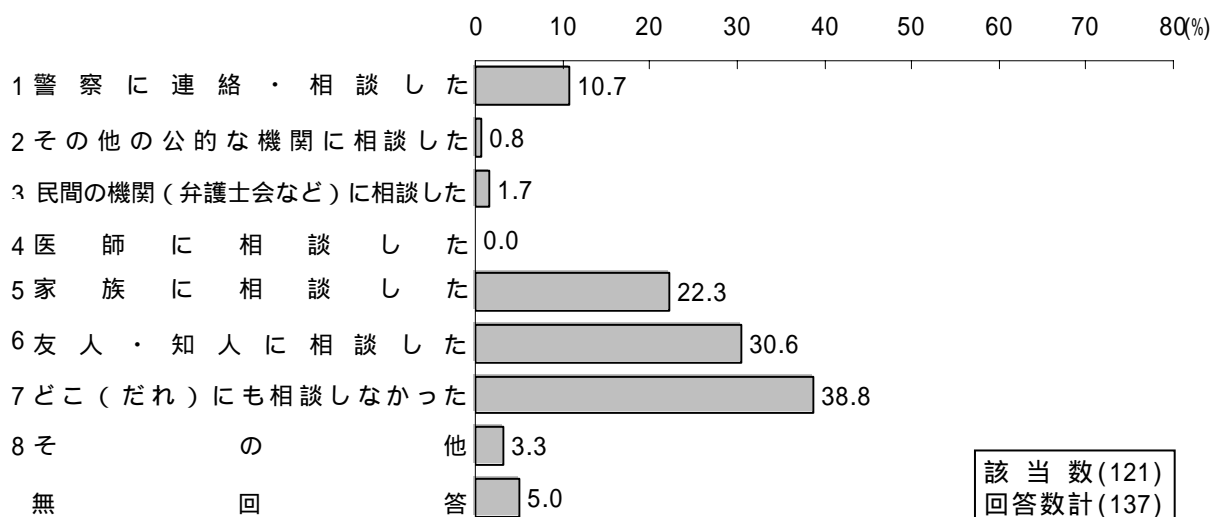
(3) 相談の有無.....問 25

「あなたはこれまでに、異性から、おどされたり、押さえつけられたり、凶器を用いたりして、いやがっているのに性的な行為を強要されたことがありますか」と聞いた中で、で「1 回あった」、「2 回以上あった」と回答した女性に、受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしたかと聞いた。

何らかの“相談をした”()人は 54.5%と、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(38.8%)を上回っている。何らかの“相談した”の内訳をみると、「友人・知人に相談した」(30.6%)、「家族に相談した」(22.3%)、「警察に連絡・相談した」(10.7%)などの順となっている。

〔問 23 で 1、2 と答えた方にお聞きします。〕

問 25 あなたは、問 23 のような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。当てはまるものすべてに をつけてください。



〔 選択肢のうち1~6までを選んだ人で、かつ8を選んだ人がいるため、合計が100%を超える。〕

“相談した”人は、選択肢のうち、1~6までを選んだ人をさす。

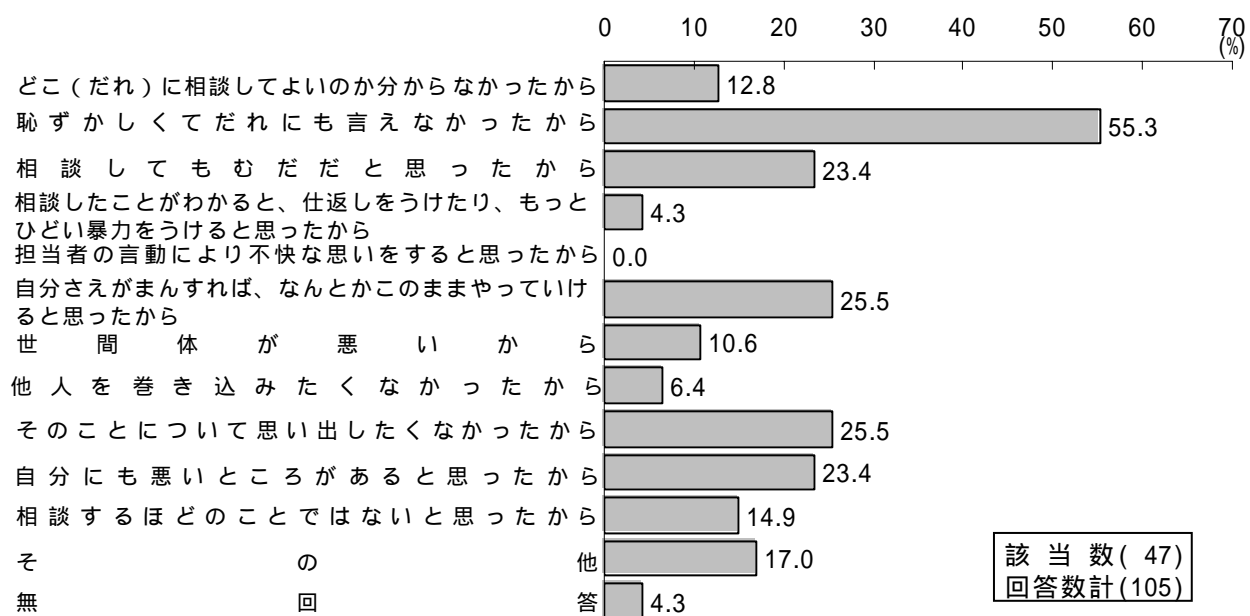
(5) 相談しなかった理由……問 27

「あなたは、性的行為を強要されたことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか」と聞いた中で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した女性(47人)に、相談しなかった理由を聞いた。

「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が 55.3%と最も多くなっている。

〔問 25 で 7 と答えた方にお聞きします。〕

問 27 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。当てはまるものすべてに をつけてください。



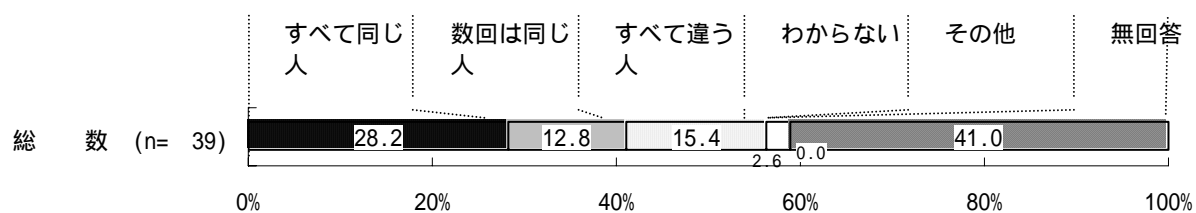
(6) 性的行為の強要の反復性.....問 28

「あなたはこれまでに、異性から、おどされたり、押さえつけられたり、凶器を用いたりして、いやがっているのに性的な行為を強要されたことがありますか」と聞いた中で、「2 回以上あった」と回答した女性(39 人)に、その相手が同じ人であったかどうかについて聞いた。

「すべて同じ人」が 28.2%と最も多くなっている。

〔問 23 で 2 と答えた方にお聞きします。〕

問 28 その相手は同じ人ですか。



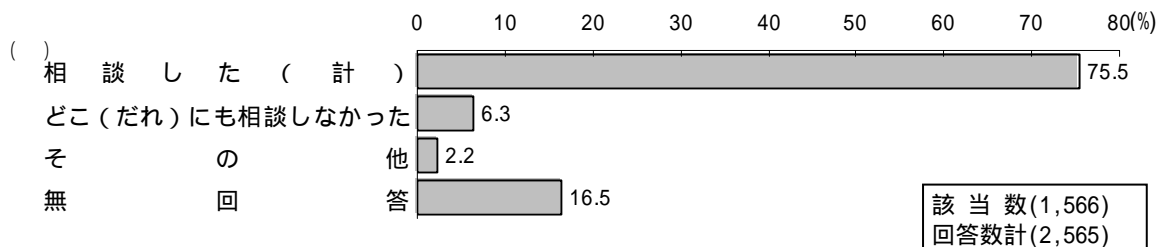
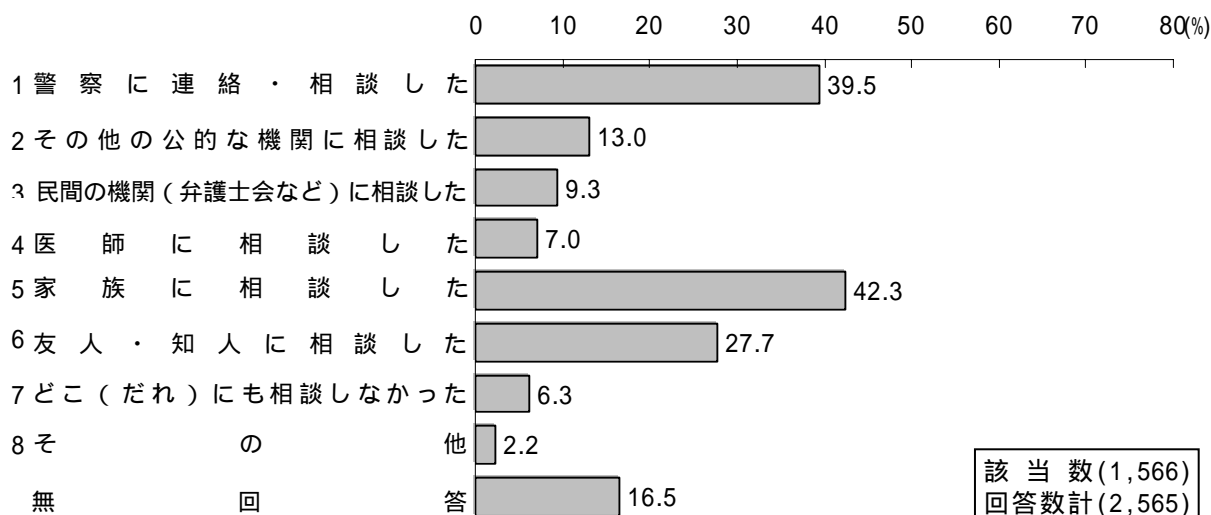
(7) 仮に被害を受けたとした場合の相談意思の有無……問 29

「あなたはこれまでに、異性から、おどされたり、押さえつけられたり、凶器を用いたりして、いやがっているのに性的な行為を強要されたことがありますか」と聞いた中で、「まったくない」と回答した女性(1566人)に、いやがっているのに、異性から性的な行為を強要されたと仮定して、その場合どうするかを聞いた。

どこかに“相談する”()という人は75.5%で、「どこ(だれ)にも相談しないと思う」という人(6.3%)を大きく上回っている。“相談する”の内訳では、「家族に相談すると思う」(42.3%)が最も多いが、問 25 では10.7%であった「警察に連絡・相談すると思う」が39.5%となっている。実際の被害経験がある人の回答の傾向とは異なった傾向がみられる。

〔問 23 で 3 と答えた方にお聞きします。〕

問 27 もしあなたが、問 23 のようなことをされたとしたら、どのように対処すると思いますか。
あなたの考えに近いものすべてに をつけてください。



〔 選択肢のうち1~6までを選んだ人で、かつ8を選んだ人がいるため、合計が100%を超える。〕

“相談した”人は、選択肢のうち、1~6までを選んだ人をさす。

(8) 仮に被害を受けたとしても相談しないと思う理由.....問 30

「もしあなたが、問 23 のようなことをされたとしたら、どのように対処すると思いますか」と聞いた中で「どこ(だれ)にも相談しないと思う」と回答した人に、相談しない理由を聞いた。

「恥ずかしくてだれにも言えないから」が 49.5%と最も多くなっている。

〔問 29 で 7 と答えた方にお聞きします。〕

問 30 どこ(だれ)にも相談しないと思うのは、なぜですか。当てはまるものすべてに つけてください。

